

第五十一回 帝國議會 貴族院議事速記錄第二十七號

大正十五年三月十八日(木曜日)

午前十時十八分開議

議事日程 第二十七號 大正十五年三月十八日

午前十時開議

第一 大正十四年度歲入歲出總豫算追加案(第一號) 會議(委員長)
(報告)

第二 大正十四年度各特別會計歲入歲出豫算追加案(特
第一號)

會議(委員長)
(報告)

第三 農業倉庫業法中改正法律案(政府提出)
(衆議院送付)

第四 府縣制中改正法律案(政府提出)
(衆議院送付)

第五 市制中改正法律案(政府提出)
(衆議院送付)

第六 町村制中改正法律案(政府提出)
(衆議院送付)

第七 北海道會法中改正法律案(政府提出)
(衆議院送付)

第八 北海道地方費法中改正法律案(政府提出)
(衆議院送付)

第九 水利組合法中改正法律案(政府提出)
(衆議院送付)

第十 徵發令中郡及郡長ニ關スル規定ノ適用ニ關スル法
律案(政府提出)
(衆議院送付)

第十一 造幣局工場其ノ他改築費ニ關スル法律案

(政府提出)
(衆議院送付)

第一讀會ノ續(委員長)
(報告)

第十二 京都高等工藝學校移轉改築費ニ關スル法律案

(政府提出)
(衆議院送付)

第一讀會ノ續(委員長)
(報告)

第十三 健康保險法中改正法律案(政府提出)
(衆議院送付) 第一讀會ノ續(委員長)
(報告)

第十四 健康保險特別會計法案(政府提出)
(衆議院送付) 第一讀會ノ續(委員長)
(報告)

第十五 王公族ノ權義ニ關スル法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長)
(報告)

第一讀會ノ續(委員長)
(報告)

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ諸般ノ報告ヲ致サセマス
〔長書記官朗讀〕

一昨十六日本院ニ於テ探擇スルコトヲ議決シタル姫路津山間鐵道敷設ノ請
願外二十一件ノ請願ハ各意見書ヲ附シ即日之ヲ政府ニ送付セリ

同日王公族ノ權義ニ關スル法律案特別委員會ニ於テ當選シタル正副委員長
ノ氏名左ノ如シ

委員長 公爵近衛文麿君 副委員長 水野鍊太郎君

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

農業倉庫業法中改正法律案

府縣制中改正法律案

市制中改正法律案

町村制中改正法律案

北海道會法中改正法律案

北海道地方費法中改正法律案

水利組合法中改正法律案

徵發令中郡及郡長ニ關スル規定ノ適用ニ關スル法律案

日本勸業銀行法中改正法律案

北海道拓殖銀行法中改正法律案

昨十七日特別委員會ニ於テ當選シタル、正副委員長ノ氏名左ノ如シ

對支文化事業特別會計法中改正法律案特別委員會

委員長 伯爵 松浦 厚君 副委員長 男爵 北里 柴三郎君

明治三十八年法律第十七號中改正法律案外一件特別委員會

委員長 伯爵 酒井 忠正君 副委員長 山之内 一次君

輸出生糸検査法案特別委員會

委員長 服部 一三君 副委員長 子爵 西大路 吉光君

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

王公族ノ權義ニ關スル法律案可決報告書

請願文書表第八回報告書

一大正十四年度歲入歲出總豫算追加案(第一號)
一大正十四年度各特別會計歲入歲出豫算追加案(特第一號)
右衆議院ヨリ送付シタル各案ヲ審査シ總テ衆議院議決案ノ通可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也
大正十五年三月十六日

豫算委員長 伯爵 林 博太郎

貴族院議長公爵德川家達殿

〔伯爵林博太郎君演壇ニ登ル〕

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ本日ノ會議ヲ開キマス、一昨十六日侯爵徳川義親君病氣ニ付キ輸出生糸検査法案特別委員辭任ノ申出ガゴザイマシタ、之ヲ許可スルコトニ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス、右補闕トシテ上山君ヲ指名イタシマス

○議長(公爵德川家達君) 昨十七日男爵二條正麿君病氣ニ付キ商事調停法案特別委員辭任ノ申出ガゴザイマシタ、是亦許可スルコトニ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス、右補闕トシテ男爵渡邊修二君ヲ指名イタシマス

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ議事日程ニ移リマス、日程第一、大正十四年度歲入歲出總豫算追加案、第一號、第二、大正十四年度各特別會計歲入歲出豫算追加案、特第一號、會議、委員長報告、林伯爵

○議長(公爵德川家達君) 唯今林豫算委員長ノ報告セラレマシタ豫算追加案日程第一第二ヲ一括シテ議題ト致シマス、全部ヲ問題ニ供シマス、全部原案ニ御異存ゴザイマセヌカ

「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 日程第三、農業倉庫業法中改正法律案、政府提出
衆議院送付、第一讀會、高田農林參與官

農業倉庫業法中改正法律案
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正十五年三月十六日

衆議院議長 粕 谷 義 三

貴族院議長公爵徳川家達殿

農業倉庫業法中左ノ通改正ス

第一條第一項ヲ左ノ如ク改ム

本法ニ於テ農業倉庫業者トハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ謂フ

一 農業ヲ營ム者カ其ノ生産シタル穀物、爾其ノ他勅令ヲ以テ指定スル
物品ヲ所有スル場合又ハ土地ニ付權利ヲ有スル者カ小作料トシテ受
ケタル穀物其ノ他勅令ヲ以テ指定スル物品ヲ所有スル場合ニ於テ其
ノ者ノ爲ニ本法ニ依リ之ヲ倉庫ニ保管スル者

二 販賣組合又ハ販賣組合聯合會が賣却スル爾其ノ者ノ爲ニ本法ニ依
リ倉庫ニ保管スル者

同條第四項中「前二項」ニ改メ第三項ヲ削ル

第二條中第五號ヲ第六號トシ第四號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

五 受寄物ヲ聯合農業倉庫業者ニ寄託シタル場合ニ於テ其ノ物品ノ聯合

農業倉庫證券ヲ擔保トシテ貸付ヲ爲スコト

第四條中「非サレハ」ノ下ニ「第一條第一項第一號ノ」ヲ加ヘ同條ニ左ノ一項
ヲ加フ

命令ヲ以テ指定スル產業組合聯合會ニ非サレハ第一條第一項第二號ノ農

業倉庫業者タルコトヲ得ス

第五條第一項中「產業組合カ農業倉庫業者タルトキ」ヲ「農業倉庫業者タル
組合又ハ產業組合聯合會」ニ、同條第二項中「產業組合」ヲ「前項ノ產業
組合又ハ產業組合聯合會」ニ、「組合員」ヲ「組合員又ハ所屬組合若ハ所屬聯
合會」ニ、「及第五號」ヲ「乃至第六號」ニ、同條第三項中「農會又ハ公益法人
カ農業倉庫業者タルトキ」ヲ「農業倉庫業者タル農會又ハ公益法人」ニ、「及
第五號」ヲ「乃至第六號」ニ改ム

第七條ノ二 農業倉庫業者ハ寄託者ノ請求ニ因リ寄託物ノ倉荷證券ヲ交付
スルコトヲ要ス

商法第三百八十三條ノ二第二項及第三百八十三條ノ三ノ規定ハ前項ノ倉
荷證券ニ之ヲ準用ス

第八條第一項中「預證券及質入證券又ハ」ヲ削ル

第十條第二項中「又ハ第三項」ヲ削リ同條第三項中「第四項」ヲ「第三項」ニ、
「乃至第三項」ヲ「及第二項」ニ改ム

第十一條中「及第九章第二節」ヲ「第三百七十五條乃至第三百七十八條及第
三百八十一條乃至第三百八十三條ノ規定」ニ改ム

第十四條中「所得稅」ノ下ニ「、營業收益稅」ヲ加フ

第十四條ノ二 農業倉庫業者ノ農業倉庫又ハ其ノ敷地ニ關スル權利ノ取得
ニ關シテハ地方稅ヲ課スルコトヲ得ス

第十九條 本法ニ於テ聯合農業倉庫業者トハ農業倉庫業者カ第一條第一項
及第二項ノ規定ニ依リ寄託ヲ受ケタル物品ヲ本法ニ依リ倉庫ニ保管スル
者ヲ謂フ

聯合農業倉庫業者ハ前二項ノ規定ニ依ル保管ニ支障ナキ場合ニ限リ業務
規程ノ定ムル所ニ依リ農業倉庫業者カ第一條第三項ノ規定ニ依リ寄託ヲ
受ケタル物品又ハ販賣組合若ハ販賣組合聯合會カ賣却スル物品ヲ保管ス

ルコトヲ得他ノ聯合農業倉庫業者カ本項ノ規定ニ依リ寄託ヲ受ケタル物品ニ付亦同シ

第二十條 産業組合聯合會ニ非サレハ聯合農業倉庫業者タルコトヲ得ス

第二十一條 聯合農業倉庫業者タル産業組合聯合會ハ産業組合法ニ規定スルモノノ外第二條（第二十六條第一項ノ規定ニ依リ準用）及第十九條ニ規定スル事業ヲ目的ト爲スコトヲ得

前項ノ産業組合聯合會ハ所屬組合又ハ所屬聯合會ノ爲ニ前項ノ事業ヲ爲スノ外附隨トシテ所屬組合又ハ所屬聯合會ニ非サル組合又ハ聯合會ノ爲ニ之ヲ爲スコトヲ得但シ第二條第四號乃至第六號（第二十六條第一項ノ規定ニ依リ準用）ノ事項ニ在ラス

規定ニ依リ準用ノ事業ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條 農業倉庫業者カ寄託者又ハ農業倉庫證券ノ所持人及受寄物ノ質權者アル場合ニ於テハ其ノ質權者ノ承諾ヲ得テ其ノ受寄物ヲ聯合農業

倉庫業者ニ寄託シタル場合ニ於テハ其ノ寄託ニ因リ生シタル農業倉庫業者ノ權利義務ハ當初ノ寄託者又ハ農業倉庫證券ノ所持人ニ移轉シ當初ノ寄託ハ將來ニ向テ其效力ヲ失フ

第二十三條 農業倉庫業者カ其ノ寄託物ヲ聯合農業倉庫業者ニ寄託セムトスル場合ニ於テ其ノ受寄物ノ農業倉庫證券アルトキハ將來ニ向テ其ノ證券ノ裏書ヲ禁止スルコトヲ得

農業倉庫業者ハ前項ノ證券ノ裏書ヲ禁止スルニ非サレハ受寄物ヲ聯合農業倉庫業者ニ寄託スルコトヲ得ス

第二十四條 聯合農業倉庫業者ハ其ノ受寄物ノ農業倉庫證券ナキ旨ノ農業倉庫業者ノ證明書又ハ前條第二項ノ規定ニ依リ裏書ヲ禁止セラレタル證券ト引換ニ非サレハ其ノ受寄物ノ聯合農業倉庫證券ヲ交付スルコトヲ得ス

第二十五條 前三條ノ規定ハ聯合農業倉庫業者カ其ノ受寄物ヲ他ノ聯合農業倉庫業者ニ寄託スル場合ニ之ヲ準用ス

第二十六條 第二條、第三條、第六條乃至第九條、第十條第一項及第十一

條乃至第十八條ノ規定ハ聯合農業倉庫業者ニ之ヲ準用ス但シ第二條第六號中農業倉庫業者トアルハ農業倉庫證券又ハ聯合農業倉庫業者又ハ聯合農業倉庫證券トシ第八條中農業倉庫證券トアルハ聯合農業倉庫證券トス

第十條第二項ノ規定ハ第十九條第三項ニ規定スル寄託物ニ之ヲ準用ス但シ同條第三項ノ規定ハ第十九條第三項ニ規定スル寄託物ニ之ヲ準用ス但シ聯合農業倉庫業者カ第十九條第一項及第二項ノ規定ニ依リ寄託ヲ受ケタル第一條第二項ノ物品ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ農業倉庫業者カ從前ノ第一條第三項ノ規定ニ依リ保管スル物品ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

本法施行ノ際現ニ存スル預證券及質入證券ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

〔政府委員高田耘平君演壇ニ登ル〕

○政府委員（高田耘平君） 本案提出ノ理由ヲ説明イタシマス、大正六年ニ農業倉庫業法ヲ制定イタシマスト共ニ、農業倉庫ノ獎勵計畫ヲ立テマシテ、其建設費ニ對シマシテ年々補助金ヲ交付イタシマシテ、其普及ヲ圖リマシタガ、更ニ大正十四年度ヨリ農村振興ノ施設ト致シマシテ、其助成金ヲ増加交付イタシマシテ、大ニ之ヲ獎勵助長スルコト致シマシタ、斯ノ如クニシテ大正十四年度ノ終リニ於キマシテ、農業倉庫經營主體ノ數ハ一千九百餘、其棟數ガ三千九百五十餘、建坪ガ十四万四千五百餘坪ニ達シマシテ、其收容力ハ穀物ニ於テ約一千百三十万俵、爾ニ於キマシテ約七十五萬貫ニ達シタノデアリマス、斯ノ如ク農業倉庫ハ、政府ノ施設ト民間當業者ノ努力トニ依ツテ、其發達ハ著シキモノガアリマスルガ、現行ノ農業倉庫業法ハ大正六年ノ制定以來略、十年ノ年月ヲ經マシテ、其發達ヲ圖リマスル上ニ於キマシテハ、實際上ニ不便ノ點ヲ生ジタノデゴザイマス、故ニ之ニ適用セシメムガ爲ニ、次ノ數個ノ點ニ於テ改正ヲ加ヘムトスルノガ、本案ノ趣旨デゴザイマス、即チ第一、現行法ニ於キマシテハ其受寄物ノ範圍ハ穀物及爾ニ制限シテアリマスガ、此點ニ付テ改正ヲ加ヘマシテ、農業倉庫ノ受寄物ノ範圍ヲ擴張イタシマシテ、

從來ノ穀物又ハ爾ノ外ニ勅令ヲ以テ制定スル所ノ物品ノ保管ヲ目的トシテ、農業倉庫ノ經營ヲ認メ、沖繩地方ノ如クニ砂糖ヲ主產物ト致シ、穀物及ビ爾ノ生産ノ無イ地方ニ於キマシテハ、其主產物ノ爲ニ農業倉庫ヲ設置スルコト致シマシタ、而シテ農業倉庫ノ利益ヲ與ヘテ、沖繩地方等ノ振興ニ資セムトスルノガ第一デゴザイマス、更ニ第二ハ、乾爾取引獎勵ノ爲ニ、大正十四年度ヨリ助成金ヲ交付イタシマシテ、共同的ノ乾爾ノ裝置及爾ノ倉庫ヲ建設セシメテ居ルノデアリマス、是ハ農村振興費ノ一部ヨリ支出シテ居ルノデゴザイマス、此共同爾倉庫ハ、販賣組合等ノ取扱爾ノ寄託ヲ受ケルモノデアリマシテ、農業倉庫業法ニ依シテ、是ガ經營ヲ爲サシムルノヲ適當ト致シマス、所ガ現行法ニ於キマシテハ、農業倉庫業ノ本體ト致シマシテ、生産者ノ品物ヲ直接ニ寄託スルノ外ハ認メテ居ラナイノデゴザイマス、故ニ今回ハ其當面ニ處スル必要上、新ニ産業組合聯合會ヲシテ此種ノ事業ヲ行フ所ノ倉庫業者タラシムルコトニ改正シタノデゴザイマス、之ガ改正ノ第二點デゴザイマス、更ニ第三點ハ、從來農業倉庫ハ中小農家ノ利用ニ便ナラシムル爲ニ、努メテ分散的ニ各地農村ニ設置シテ來タノデゴザイマス、併ナガラ更ニ是等ノ各地ニ發達シ來ル所ノ各個ノ農業倉庫ノ連絡機關ト致シマシテ、殊ニ聯合倉庫ヲ相互ニ聯絡イタシマシテ、其受寄物ヲ出入スル場合ニ當ツテ利用スベキ農業倉庫ノ制度ヲ今回設ケマシテ、各地ニ分散的ニ發達シテ來タ所ノ農業倉庫ヲ相互通用フルコトト致シマシテ、之ニ伴ウテ寄託ノ法律關係ニ二三ノ改正ヲ生ズルノ必要ガアルノデゴザリマス、以上數點ニ改正ヲ加ヘタノガ本案ノ趣旨デゴザイマス、衆議院ニ於キマシテハ、委員會及本會議等ニ於キマシテ格別ノ異議モナク、全會一致ヲ以テ通過イタシタヤウナ次第デゴザイマスルカラ、何卒慎重ニ御審議ノ上御協賛アラムコトヲ御願ヒ申ス次第デアリマス

○議長(公爵徳川家達君) 本案ノ特別委員ノ氏名ヲ書記官ヲシテ朗讀ヲ致セマス

〔小林書記官朗讀〕

農業倉庫業法中改正法律案特別委員

子爵伊東祐弘君 签井信一君 男爵松岡均平君
原保太郎君 志村源太郎君 西久保弘道君
宮田光雄君 奥田榮之進君 小林嘉平治君

○議長(公爵徳川家達君) 日程第四ヨリ第十マデノ法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

府縣制中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正十五年三月十六日

貴族院議長公爵徳川家達殿

衆議院議長柏谷義三

(小字ハ衆議院ノ修正文、
ハ同削除ノ符號ナリ)

府縣制中左ノ通改正ス

第一條中「郡市」ヲ「市町村」ニ改ム

第三條第二項中「郡」ヲ削リ同條第三項中「府縣郡市參事會及町村會」ヲ「府縣參事會及市町村會」ニ改ム

第四條第二項中「郡市ノ區域」ヲ「市ノ區域又ハ從前郡長若ハ島司ノ管轄シタル區域」ニ改メ同條第三項及第四項ヲ削ル

第六條 府縣内ノ市町村公民ハ府縣會議員ノ選舉權及被選舉權ヲ有ス
陸海軍軍人ニシテ現役中ノ者(未タ入營セサル者及歸休下士官兵ヲ除ク)
及戰時若ハ事變ニ際シ召集中ノ者ハ選舉權及被選舉權ヲ有セス兵籍ニ編入セラレタル學生生徒(勅令ヲ以テ定ムル者ヲ除ク)及志願ニ依リ國民軍ニ編入セラレタル者亦同シ

市町村公民權停止中ノ者ハ選舉權及被選舉權ヲ有セス
在職ノ檢事、警察官吏及收稅官吏ハ被選舉權ヲ有セス

選舉事務ニ關係アル官吏及吏員ハ其ノ關係區域内ニ於テ被選舉權ヲ有セス
府縣ニ對シ請負ヲ爲シ又ハ府縣ニ於テ費用ヲ負擔スル事業ニ付府縣知事

若ハ其ノ委任ヲ受ケタル者ニ對シ請負ヲ爲ス者及其ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員、取締役監査役若ハ之ニ準スヘキ者、清算人及支配人ハ其ノ府縣ニ於テ被選舉權ヲ有セス

府縣ノ官吏及有給ノ吏員其ノ他ノ職員ニシテ在職中ノ者ハ其ノ府縣ノ府縣會議員ト相兼ヌルコトヲ得ス

衆議院議員ハ府縣會議員ト相兼ヌルコトヲ得ス

第八條第一項及第二項ヲ左ノ如ク改ム

府縣會議員中闕員ヲ生シタルトキハ三箇月以内ニ補闕選舉ヲ行フヘシ但シ其ノ闕員ト爲リタル議員カ第三十一條第二項、第三項若ハ第六項ノ規定ニ依ル期限前ニ於テ闕員ト爲リタル者ナル場合ニ於テ第二十九條第一項但書ノ得票者ニシテ當選者ト爲ラサリシ者アルトキ又ハ其ノ期限經過後ニ於テ闕員ト爲リタル者ナル場合ニ於テ第二十九條第二項ノ規定ノ適用ヲ受ケタル得票者ニシテ當選者ト爲ラサリシ者アルトキハ直ニ選舉會ヲ開キ其ノ者ノ中ニ就キ當選者ヲ定ムヘシ此ノ場合ニ於テハ第三十二條第三項ノ規定ヲ準用ス

第三十二條第四項及第五項ノ規定ハ補闕選舉ニ之ヲ準用ス

第九條 府縣會議員ノ選舉ハ其ノ府縣内ニ於ケル市町村會議員選舉人名簿ニ依リ之ヲ行フ

町村制第三十八條ノ町村ニ於テハ同法第十八條乃至第十八條ノ五ノ規定ニ準シ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

前項ノ選舉人名簿ハ之ヲ町村會議員選舉人名簿ト看做シ第一項ノ規定ヲ適用ス

第十條 削除

第十一條 削除

第十三條第一項中「選舉ノ日ヨリ少クトモ二十日前」ヲ「選舉ノ期日前二十日目マテ」ニ、同條第二項中「少クトモ七日前」ヲ「投票ノ期日前七日目マテ」

ニ改ム

第十三條ノ二 議員候補者タラムトスル者ハ選舉ノ期日ノ告示アリタル日ヨリ選舉ノ期日前七日目マテニ其ノ旨ヲ選舉長ニ届出シヘシ

選舉人名簿ニ登録セラレタル者他人ヲ議員候補者ト爲サムトスルトキハ前項ノ期間内ニ其ノ推薦ノ届出ヲ爲スコトヲ得
前二項ノ期間内ニ届出アリタル議員候補者其ノ選舉ニ於ケル議員ノ定數ヲ超ユル場合ニ於テ其ノ期間ヲ經過シタル後議員候補者死亡シ又ハ議員候補者タルコトヲ辭シタルトキハ前二項ノ例ニ依リ選舉ノ期日ノ前日マテ議員候補者ノ届出又ハ推薦届出ヲ爲スコトヲ得
議員候補者ハ選舉長ニ届出ヲ爲スニ非サレハ議員候補者タルコトヲ辭スルコトヲ得ス

前四項ノ届出アリタルトキ又ハ議員候補者ノ死亡シタルコトヲ知リタルトキハ選舉長ハ直ニ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第十三條ノ三 議員候補者ノ届出又ハ推薦届出ヲ爲サムトスル者ハ議員候補者一人ニ付二百圓又ハ之ニ相當スル額面ノ國債證書ヲ供託スルコトヲ要ス

議員候補者ノ得票數其ノ選舉區ノ配當議員數ヲ以テ有效投票ノ總數ヲ除シテ得タル數ノ十分ノ一ニ達セサルトキハ前項ノ供託物ハ府縣ニ歸屬ス

議員候補者選舉ノ期日前十日以内ニ議員候補者タルコトヲ辭シタルトキハ前項ノ規定ヲ準用ス但シ被選舉權ヲ有セサルニ至リタル爲議員候補者タルコトヲ辭シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 市町村長ハ投票管理者ト爲リ投票ニ關スル事務ヲ擔任ス

第十五條 投票區ハ市町村ノ區域ニ依ル

投票所ハ市役所、町村役場又ハ投票管理者ノ指定シタル場所ニ之ヲ設ク
投票管理者ハ選舉ノ期日前五日目マテニ投票所ヲ告示スヘシ

府縣知事特別ノ事情アリト認ムルトキハ市町村ノ區域ヲ分チテ數投票區

ヲ設ケ又ハ數町村ノ區域ヲ合セテ一投票區ヲ設クルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ投票區ヲ設クル場合ニ於テ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 議員候補者ハ各投票區ニ於ケル選舉人名簿ニ登録セラレタル者ノ中ヨリ本人ノ承諾ヲ得テ投票立會人一人ヲ定メ選舉ノ期日ノ前日マテ

ニ投票管理者ニ届出ツルコトヲ得但シ議員候補者死亡シ又ハ議員候補者タルコトヲ辭シタルトキハ其ノ届出テタル投票立會人ハ其ノ職ヲ失フ前項ノ規定ニ依ル投票立會人三人ニ達セサルトキ若ハ三人ニ達セサルニ至リタルトキ又ハ投票立會人ニシテ參會スル者投票所ヲ開クヘキ時刻ニ至リ三人ニ達セサルトキ若ハ其ノ後三人ニ達セサルニ至リタルトキハ投票管理者ハ其ノ投票區ニ於ケル選舉人名簿ニ登録セラレタル者ノ中ヨリ三人ニ達セスルマテノ投票立會人ヲ選任シ直ニ之ヲ本人ニ通知シ投票ニ立會ハシムヘシ

投票立會人ハ名譽職トス

投票立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

第十八條中「被選舉人」ヲ「議員候補者」ニ改メ同條第六項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

投票ニ關スル記載ニ付テハ勅令ヲ以テ定ムル點字ハ之ヲ文字ト看做ス第十八條ノ二 確定名簿ニ登録セラレタル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス但シ選舉人名簿ニ登録セラルヘキ確定裁決書又ハ判決書ヲ所持シ選舉ノ當日投票所ニ到ル者ハ此ノ限ニ在ラス

確定名簿ニ登録セラレタル者選舉人名簿ニ登録セラルルコトヲ得サル者ナルトキハ投票ヲ爲スコトヲ得ス選舉ノ當日選舉權ヲ有セサル者ナルトキ亦同シ

同府縣内ニ於ケル二以上ノ市町村ニ於テ公民權ヲ有スル者ハ住所地市町村ニ於テノミ投票ヲ爲スコトヲ得

第十九條 投票ノ拒否ハ投票立會人ノ意見ヲ聽キ投票管理者之ヲ決定スヘ

シ

前項ノ決定ヲ受ケタル選舉人不服アルトキハ投票管理者ハ假ニ投票ヲ爲サシムヘシ

前項ノ投票ハ選舉人ヲシテ之ヲ封筒ニ入れ封緘シ表面ニ自ラ其ノ氏名ヲ記載シ投函ヒシムヘシ

第二十條 投票立會人ニ於テ異議アル選舉人ニ對シテモ亦前二項ニ同シノ投票立會人ト共ニ之ニ署名スヘシ

第二十一條 投票管理者ハ其ノ指定シタル投票立會人ト共ニ町村ノ投票區ニ於テハ投票ノ翌日マテニ、市ノ投票區ニ於テハ投票ノ當日投票函、投票錄及選舉人名簿ヲ選舉長ニ送致スヘシ

第二十二條中「投票函」ヲ「投票函、投票錄及選舉人名簿」ニ改ム

第二十三條 選舉長ハ市長又ハ府縣知事ノ指定シタル官吏ヲ以テ之ニ充

ツ

選舉長ハ選舉會ニ關スル事務ヲ擔任ス

選舉會ハ市役所又ハ選舉長ノ指定シタル場所ニ之ヲ開ク
選舉長ハ豫メ選舉會ノ場所及日時ヲ告示スヘシ

第二十三條ノ二 府縣知事特別ノ事情アリト認ムルトキハ區劃ヲ定メテ開票區ヲ設クルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ開票區ヲ設クル場合ニ於テ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十四條 第十六條ノ規定ハ選舉立會人ニ之ヲ準用ス

第二十五條 選舉長ハ總テノ投票函ノ送致ヲ受ケタル日ノ翌日選舉會ヲ開キ選舉立會人立會ノ上投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ但シ場合ニ依リ投票函ノ送致ヲ受ケタル日選舉會ヲ開クコトヲ得

前項ノ計算終リタルトキハ選舉長ハ先ツ第十九條第二項及第四項ノ投票

ヲ調査シ選舉立會人ノ意見ヲ聽キ其ノ受理如何ヲ決定スヘシ

選舉長ハ選舉立會人ト共ニ投票區毎ニ投票ヲ點檢スヘシ

天災事變等ノ爲選舉會ヲ開クコトヲ得サルトキハ選舉長ハ更ニ其ノ期日ヲ定ムヘシ

第二十六條ノ二 選舉會場ノ取締ニ付テハ第十七條第一項及第二項ノ規定

ヲ準用ス

第二十七條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス

一 成規ノ用紙ヲ用ヰサルモノ

二 議員候補者ニ非サル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

三 投票中二人以上ノ議員候補者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

四 被選舉權ナキ議員候補者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

五 議員候補者ノ氏名ノ外他事ヲ記載シタルモノ但シ爵位、職業、身分、

住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

六 議員候補者ノ氏名ヲ自書セサルモノ

七 議員候補者ノ何人ヲ記載シタルカラ確認シ難キモノ

八 府縣會議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

前項第八號ノ規定ハ第八條、第三十二條又ハ第三十六條ノ規定ニ依ル選舉ノ場合ニ限リ之ヲ適用ス

第二十八條 投票ノ效力ハ選舉立會人ノ意見ヲ聽キ選舉長之ヲ決定スヘシ

第二十九條第一項但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ其ノ選舉區ノ配當議員數ヲ以テ有效投票ノ總數ヲ除シテ得タル數ノ

五分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス

第二十九條ノ二 當選者選舉ノ期日後ニ於テ被選舉權ヲ有セサルニ至リタル

ルトキハ當選ヲ失フ此ノ場合ニ於テハ第三十七條第二項ノ規定ヲ準用ス

第二十九條ノ三 第十三條ノ二第一項乃至第三項ノ規定ニ依ル届出アリタル議員候補者其ノ選舉ニ於ケル議員ノ定數ヲ超エサルトキハ其ノ選舉區

ニ於テハ投票ヲ行ハス

前項ノ規定ニ依リ投票ヲ行フコトヲ要セサルトキハ選舉長ハ直ニ其ノ旨ヲ投票管理者前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ告示スヘシ

投票管理者前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第一項ノ場合ニ於テハ選舉長ハ選舉ノ期日ヨリ五日以内ニ選舉會ヲ開キ

議員候補者ヲ以テ當選者ト定ムヘシ

前項ノ場合ニ於テ議員候補者ノ被選舉權ノ有無ハ選舉立會人ノ意見ヲ聽キ選舉長之ヲ決定スヘシ

第三十條 選舉長ハ選舉錄ヲ作リ選舉會ニ關スル顛末ヲ記載シ之ヲ朗讀シ二人以上ノ選舉立會人ト共ニ之ニ署名スヘシ

選舉錄、投票錄、投票其ノ他ノ關係書類ハ選舉長（府縣知事ノ指定シタル官吏選舉長タル場合ニ於テハ府縣知事）ニ於テ、府縣會議員選舉ニ用井タル選舉人名簿ハ市町村長ニ於テ議員ノ任期間之ヲ保存スヘシ

第三十一條第一項ヲ左ノ如ク改ム

當選者定マリタルトキハ選舉長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知シ同時ニ當選者ノ住所氏名ヲ告示シ且選舉錄及投票錄ノ寫ヲ添へ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ當選者ナキトキハ直ニ其ノ旨ヲ告示シ且選舉錄及投票錄ノ寫ヲ添へ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

同條第四項ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ第五項中「第六條第九項」ヲ「前項」ニ改ム

第六條第七項ニ掲タル在職ノ官吏以外ノ官吏ニシテ當選シタル者ハ所屬長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ニ應スルコトヲ得ス

同條ニ左ノ二項ヲ加フ

府縣ニ對シ請負ヲ爲シ又ハ府縣ニ於テ費用ヲ負擔スル事業ニ付府縣知事若ハ其ノ委任ヲ受ケタル者ニ對シ請負ヲ爲ス者若ハ其ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員、役員若ハ支配人ニシテ當選シタル者ハ其ノ請負ヲ罷メ又ハ請負ヲ爲ス者ノ支配人若ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員、役員若ハ支配人タルコトナキニ至ルニ非サレハ當選ニ

應スルコトナ得ス

前項ノ役員トハ取締役、監査役及之ニ準スヘキ者並清算人ヲ謂フ

第三十一條ノ二 選舉長ハ前條第一項ノ報告ヲ爲シタルトキハ直ニ選舉人名簿ヲ町村長ニ返付スヘシ

第三十二條 當選者左ニ掲タル事由ノ一ニ該當スルトキハ三箇月以内ニ更ニ選舉ヲ行フヘシ但シ第二項ノ規定ニ依リ更ニ選舉ヲ行フコトナクシテ當選者ヲ定メ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 當選ヲ辭シタルトキ

二 數選舉區ニ於テ選舉ニ當リタル場合ニ於テ第三十一條第三項ノ規定ニ依リ

一ノ選舉區ノ選舉ニ應シタル爲他ノ選舉區ニ於テ當選者タラサルニ至リタルトキ

三 第二十九條ノ二ノ規定ニ依リ當選ヲ失ヒタルトキ

四 死亡者ナルトキ

五 選舉ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレ當選無効ト爲リタルトキ但シ同一人ニ關シ前各號ノ事由ニ依ル選舉又ハ補闕選舉ノ告示ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

六 第三十四條ノ二ノ規定ニ依ル訴訟ノ結果當選無効ト爲リタルトキ

前項ノ事由第三十一條第二項、第三項若ハ第六項ノ規定ニ依ル期限前ニ生シタル場合ニ於テ第二十九條第一項但書ノ得票者ニシテ當選者ト爲ラサリシ者アルトキ又ハ其ノ期限經過後ニ生シタル場合ニ於テ第二十九條

第二項ノ規定ノ適用ヲ受ケタル得票者ニシテ當選者ト爲ラサリシ者アルトキハ直ニ選舉會ヲ開キ其ノ者ノ中ニ就キ當選者ヲ定ムヘシ

前項ノ場合ニ於テ第二十九條第一項但書ノ得票者ニシテ當選者ト爲ラサリシ者選舉ノ期日後ニ於テ被選舉權ヲ有セサルニ至リタルトキハ之ヲ當選者ト定ムルコトヲ得ス此ノ場合ニ於テハ第三十七條第二項ノ規定ヲ準用ス

行フコトヲ得サル事由已ミタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第一項ノ事由議員ノ任期滿了前六箇月以内ニ生シタルトキハ第一項ノ選舉ハ之ヲ行ハス但シ議員ノ數其ノ定員ノ三分ノ二ニ満チサルニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十三條ニ左ノ一項ヲ加フ

當選者ナキニ至リタルトキ又ハ當選者其ノ選舉ニ於ケル議員ノ定數ニ達セサルニ至リタルトキハ府縣知事ハ直ニ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第三十四條第一項中「選舉人選舉若ハ當選」ヲ「選舉人又ハ議員候補者選舉又ハ當選」ニ、「前條告示ノ日」ヲ「第三十一條第一項又ハ前條第二項ノ告示ノ日」ニ、同條第二項及第三項ヲ左ノ如ク、第六項中「郡市長」ヲ「又ハ選舉長」ニ、同條第七項中「第三十六條第二項」ヲ「第三十六條第一項若ハ第三項」ニ改ム

前項ノ異議申立アリタルトキハ府縣知事ハ七日以内ニ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ

府縣知事選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ第一項申立ノ有無ニ拘ラス第三十一條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ府縣參事會ノ決定ニ付スルコトヲ得

第三十四條ノ二 衆議院議員選舉法第百十條ノ規定ノ準用ニ依リ當選ヲ無効ナリト認ムルトキハ選舉人又ハ議員候補者ハ當選者ヲ被告トシ第三十

一條第一項告示ノ日ヨリ三十日以内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得

衆議院議員選舉法第百三十六條ノ規定ノ準用ニ依リ選舉事務長カ同法第

百十二條又ハ第一百十三條ノ規定ノ準用ニ依ル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタル

ニ因リ當選ヲ無効ナリト認ムルトキハ選舉人又ハ議員候補者ハ當選者ヲ被告トシ其ノ裁判確定ノ日ヨリ三十日以内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得

前二項控訴院ノ判決ニ不服アル者ハ大審院ニ上告スルコトヲ得
衆議院議員選舉法第八十五條、第八十七條及第一百四十一條ノ規定ハ前三

項ノ規定ニ依ル訴訟ニ之ヲ準用ス

第三十五條第一項ニ左ノ但書ヲ加ヘ第二項ヲ削ル

但シ當選ニ異動ヲ生スルノ虞ナキ者ヲ區分シ得ルトキハ其ノ者ニ限り當選ヲ失フコトナシ

第三十六條 選舉無効ト確定シタルトキハ三箇月以内ニ更ニ選舉ヲ行フヘシ

當選無効ト確定シタルトキハ直ニ選舉會ヲ開キ更ニ當選者ヲ定ムヘシ此ノ場合ニ於テハ第三十二條第三項ノ規定ヲ準用ス

當選者ナキトキ、當選者ナキニ至リタルトキ又ハ當選者其ノ選舉ニ於ケル議員ノ定數ニ達セサルトキ若ハ定數ニ達セサルニ至リタルトキハ三箇月以内ニ更ニ選舉ヲ行フヘシ

第三十二條第四項及第五項ノ規定ハ第一項及前項ノ選舉ニ之ヲ準用ス
第三十七條第一項。^{○チ左ノ如ク改ム}中左ノ如ク改ム
一條第七項ニ掲タル者」ヲ、同條第三項中「通知ヲ受ケタルトキハ」ノ下ニ「七日以内ニ」ヲ、
「被選舉權ヲ有セサル者」ノ下ニ「又ハ第三十一條第七項ニ掲タル者」ヲ加フ

二 破產者ト爲リタルトキ
日以内ニ」ヲ加フ

府縣會議員被選舉權ヲ有セサル者ナルトキ又ハ第三十一條第七項ニ掲タル者ナルトキハ其ノ職

同條同項ノ次ニ左ノ一項ヲ、第三項中「通知ヲ受ケタルトキハ」ノ下ニ「七

チ失フ其ノ被選舉權ノ有無又ハ第三十一條第七項ニ掲タル者ニ該當スルヤ否ハ府縣會議員力左ノ

各號ノ一二該當スルニ因リ被選舉權ヲ有セサル場合ヲ除クノ外府縣參事會共ノ異議ヲ決定ス
一 禁治產者又ハ準禁治產者ト爲リタルトキ
二 破產者ト爲リタルトキ
三 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
四 選舉ニ關スル犯罪ニ依リ罰金ノ刑ニ處セラレタルトキ

府縣會議員ハ住所ヲ移シタル爲被選舉權ヲ失フコトアルモ其ノ住所同府

縣内ニ在ルトキハ之カ爲其ノ職ヲ失フコトナシ但シ同府縣内ニ於テ住所ヲ移シタル後被選舉權ヲ失フヘキ其ノ他ノ事由ニ該當スルニ至リタルト

キハ此ノ限ニ在ラス

第三十九條 府縣會議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉法第十章及第十一

章並第百四十條第二項及第百四十二條ノ規定ヲ準用ス但シ議員候補者一人ニ付定ムヘキ選舉事務所ノ數、選舉委員及選舉事務員ノ數並選舉運動ノ費用ノ額ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第五十一條第二項中「開會ノ日ヨリ少クトモ十四日前」ヲ「開會ノ日前十四日目マテ」ニ改ム

第五十三條ニ左ノ一項ヲ加フ

議長ハ其ノ職務ヲ行フ場合ニ於テモ之カ爲議員トシテ議決ニ加ハルノ權ヲ失ハス

第六十四條第二項ヲ削ル

第六十五條 府縣三府縣參事會ヲ置キ議長及名譽職參事會員十人ヲ以テ之ヲ組織ス

第六十六條第五項中「毎年」ヲ「隔年」ニ、同條第六項中「後任者就任ノ前日マテ」ヲ「後任者ノ就任スルニ至ルマテ」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

名譽職參事會員ハ其ノ選舉ニ關スル第八十二條第一項ノ處分確定シ又ハ判決アルマテハ會議ニ參與スルノ權ヲ失ハス

第六十七條中「高等官參事會員」ヲ「其ノ代理者」ニ改ム

第六十八條中左ノ如ク改ム

三 削除

第七十三條第三項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
^{第二項ヲ削リ第三項中「過半數」ヲ「名譽職參事會員ノ過半數」ニ改ム}

議長ハ其ノ職務ヲ行フ場合ニ於テモ之カ爲參事會員トシテ議決ニ加ハルノ權ヲ失ハス

第七十九條 削除

第八十條第一項中「郡島ノ官吏吏員又ハ」ヲ削ル

第九十六條第二項中「前項ノ異議ハ」ヲ「前項ノ異議ノ申立アリタルトキ

ハ府縣知事ハ七日以内ニ」ニ改ム

第百條第一項中「其ノ細則ニハ過料五圓以下ノ罰則ヲ設クルコトヲ得」ヲ及同條第二項ヲ削ル

第一百三十三條中左ノ如ク改ム

一 削除

第百十條ニ左ノ一項ヲ加フ

府縣ハ公益上其ノ他ノ事由ニ因リ課稅ヲ不適當トスル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ府縣稅ヲ課セサルコトヲ得

第百十一條府縣ノ一部ニ對シ特ニ利益アル事件ニ關シテハ府縣ハ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ府縣ノ一部ニ對シ賦課ヲ爲スコトヲ得

第百十四條詐偽其ノ他ノ不正ノ行爲ニ依リ使用料ノ徵收ヲ免レ又ハ府縣

稅ヲ逋脱シタル者ニ付テハ府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經テ其ノ徵收ヲ免レ又ハ逋脱シタル金額ノ三倍ニ相當スル金額（其ノ金額五圓未滿ナルトキハ五圓）以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

前項ニ定ムルモノヲ除ク外使用料、手數料及府縣稅ノ賦課徵收ニ關シテ

ハ府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經テ五圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得財產又ハ營造物ノ使用ニ關シ亦同シ

過料ヲ科シ及之ヲ徵收スルハ府縣知事之ヲ掌ル其ノ處分ニ不服アル者ハ

行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第百十五條第三項中「前二項ノ異議ハ」ヲ「前二項ノ異議ノ申立アリタルトキハ府縣知事ハ七日以内ニ」ニ、同條第五項中「郡島ノ官吏吏員」ヲ「

其ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員又ハ」ニ改ム

第百二十四條第二項及第三項ヲ削ル

第百二十六條ノ四中「其ノ財產處分ニ付亦同シ」ヲ「關係府縣ノ協議ニ依リ之ヲ定ム」ニ改ム

第百二十八條ノ二 異議ノ決定ハ本法中別ニ期間ヲ定メタルモノヲ除ク外其ノ決定ニ付セラレタル日ヨリ三箇月以内ニ之ヲ爲スヘシ

府縣參事會訴願ヲ受理シタルトキハ其ノ日ヨリ三箇月以内ニ之ヲ裁決スヘシ

第一百三十九條第一項ヲ削ル

賦課ヲ爲スコト

第一百四十二條本法中官吏ニ關スル規定ハ待遇官吏ニ之ヲ適用ス

第一百四十三條第四條第二項但書ノ市ニ於テハ第二章第一款中市ニ關スル規定ハ區ニ、市長ニ關スル規定ハ區長ニ、市役所ニ關スル規定ハ區役所ニ之ヲ適用ス

第一百四十四條町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務ヲ共同處理スルモノハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ町村、其ノ組合管理者ハ之ヲ町村長、其ノ組合吏員ハ之ヲ町村吏員、其ノ組合役場ハ之ヲ町村役場ト看做ス

第一百四十五條從前郡長又ハ島司ノ管轄シタル區域内ニ於テ市ノ設置アリタルトキ又ハ其ノ區域ノ境界ニ涉リテ市町村ノ境界ノ變更アリタルトキハ其ノ區域モ亦自ラ變更シタルモノト看做ス

從前郡長又ハ島司ノ管轄シタル區域ノ境界ニ涉リテ町村ノ設置アリタル場合ニ於テハ本法ノ適用ニ付其ノ町村ノ屬スヘキ區域ハ内務大臣之ヲ定ム

附 則

本法中議員選舉ニ關スル規定ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行シ其ノ他ノ規定ノ施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

次ノ總選舉ニ至ルマテノ間從前ノ第九條、第十二條、第十四條、第二十一條、第二十三條乃至第二十五條、第三十條及第三十四條ノ規定ニ依リ難キ事項ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

大正十五年市制中改正法律又ハ町村制中改正法律中公民權ニ關スル規定ハ之ヲ施行セサル市町村ニ於テハ府縣制中市町村公民ニ關スル規定ノ適用ニ

付之ヲ施行シタルモノト看做ス此ノ場合ニ於テ議員ノ選舉ニ必要ナル選舉人名簿ニ關シテハ命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

大正十五年市制中改正法律又ハ町村制中改正法律中公民權ニ關スル規定ハ之ヲ施行シタル市町村ニ於テハ府縣制中市町村公民ニ關スル規定ノ適用ニ付次ノ總選舉ニ至ルマテノ間未タ之ヲ施行セサルモノト看做ス

本法施行ノ際大正十四年法律第四十七號衆議院議員選舉法未タ施行セラレサル場合ニ於テハ本法ノ適用ニ付テハ同法ハ既ニ施行セラレタルモノト看做ス

本法施行ノ際必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

市制中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正十五年三月十六日

衆議院議長 紫 谷 義 三

貴族院議長公爵徳川家達殿

(小字ハ衆議院ノ修正文、
ハ同削除ノ符號ナリ)

市制中左ノ通改正ス

第三條第二項中「内務大臣ノ許可ヲ得」ヲ削ル

第四條第二項中「前項ノ例」ヲ「前條第二項ノ例」ニ改ム

第七條第二項及第三項ヲ削ル

第九條 帝國臣民タル年齢二十五年以上ノ男子ニシテ二年以來市住民タル者ハ其ノ市公民トス但シ左ノ各號ノ一一該當スル者ハ此ノ限ニ在ラス

一 禁治產者及準禁治產者

二 破產者ニシテ復權ヲ得サル者

三 貧困ニ因リ生活ノ爲公私ノ救助ヲ受ケ又ハ扶助ヲ受クル者

四 一定ノ住居ヲ有セサル者

五 六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

六 刑法第二編第一章、第三章、第九章、第十六章乃至第二十一章、第二十五章又ハ第三十六章乃至第三十九章ニ掲クル罪ヲ犯シ六年未滿ノ

懲役ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル後其ノ刑期ノ二倍ニ相當スル期間ヲ經過スルニ至ル迄ノ者但シ其ノ期間五年ヨリ短キトキハ五年トス

七 六年未滿ノ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ前號ニ掲クル罪以外ノ罪ヲ犯シ六年未滿ノ懲役ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

市ハ前項二年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

第一項二年ノ期間ハ市町村ノ廢置分合又ハ境界變更ノ爲中斷セラルルコトナシ

第十條第二項中「市ハ一年以上四年以下其ノ市公民權ヲ停止シ場合ニ依リ其ノ停止期間以内其ノ者ノ負擔スヘキ市稅ノ十分ノ一以上四分ノ一以下ヲ増課スルコトヲ得」ヲ「市ハ一年以上四年以下其ノ市公民權ヲ停止スルコトヲ得」ニ改ム

第十一條 陸海軍軍人ニシテ現役中ノ者（未タ入營セサル者及歸休下士官兵ヲ除ク）及戰時若ハ事變ニ際シ召集中ノ者ハ市ノ公務ニ參與スルコトヲ得ス兵籍ニ編入セラレタル學生生徒（勅令ヲ以テ定ムル者ヲ除ク）及志願ニ依リ國民軍ニ編入セラレタル者亦同シ

第十四條中「第十一條第三項ノ場合ニ當ル者」ヲ「第十一條ノ規定ニ該當スル者」ニ改ム

第十五條 削除

第十六條第一項中「二級選舉ノ爲ノミニ付亦同シ」及同條第五項ヲ削ル

第十七條 特別ノ事情アルトキハ市ハ區劃ヲ定メテ投票分會ヲ設クルコトヲ得

第十八條 選舉權ヲ有スル市公民ハ被選舉權ヲ有ス

在職ノ檢事、警察官吏及收稅官吏ハ被選舉權ヲ有セス

選舉事務ニ關係アル官吏及市ノ有給吏員ハ其ノ關係區域内ニ於テ被選舉權ヲ有セス

權ヲ有セス

市ニ對シ請負ヲ爲シ又ハ市ニ於テ費用ヲ負擔スル事業ニ付市長若ハ其ノ委任ヲ受ケタル者ニ對シ請負ヲ爲ス者及其ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ

行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員、取締役監査役若ハ之ニ準スヘキ者、清算人及支配人ハ其ノ市ニ於テ被選舉權ヲ有セス

市ノ有給ノ吏員教員其ノ他ノ職員ニシテ在職中ノ者ハ其ノ市ノ市會議員

ト相兼ヌルコトヲ得ス

第十九條第二項中「總選舉ノ第一日」ヲ「總選舉ノ日」ニ、同條第三項ヲ左ノ如ク改ム

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲解任ヲ要スル者アルトキハ市長抽籤シテ之ヲ定ム但シ闕員アルトキハ其ノ闕員ヲ以テ之ニ充ツヘシ

前項但書ノ場合ニ於テ闕員ノ數解任ヲ要スル者ノ數ニ滿チサルトキハ其ノ不足ノ員數ニ付市長抽籤シテ解任スヘキ者ヲ定メ闕員ノ數解任ヲ要スル者ノ數ヲ超ユルトキハ解任ヲ要スル者ニ充ツヘキ闕員ハ最モ先ニ闕員ト爲リタル者ヨリ順次之ニ充テ闕員ト爲リタル時同シキトキハ市長抽籤シテ之ヲ定ム

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲解任ヲ要スル者アル場合ニ於テ選舉區アルトキハ第十六條ノ市條例中ニ其ノ解任ヲ要スル者ノ選舉區ヲ規定シ市長抽籤シテ之ヲ定ム但シ解任ヲ要スル者ノ選舉區ニ闕員アリタルトキハ其ノ闕員ヲ以テ之ニ充ツヘシ此ノ場合ニ於テハ前項ノ例ニ依ル

第二十條 市會議員中闕員ヲ生シタルトキハ三月以内ニ補闕選舉ヲ行フヘシ但シ第三十條第二項ノ規定ノ適用ヲ受ケタル得票者ニシテ當選者ト爲ラナリシ者アルトキハ直ニ選舉會ヲ開キ其ノ者ノ中ニ就キ當選者ヲ定ムヘシ此ノ場合ニ於テハ第三十三條第三項及第四項ノ規定ヲ準用ス

第三十三條第五項及第六項ノ規定ハ補闕選舉ニ之ヲ準用ス

補闕議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間任ス

選舉區アル場合ニ於テハ補闕議員ハ前任者ノ選舉セラレタル選舉區ニ於

テ之ヲ選舉スヘシ

第二十一條 市長ハ毎年九月十五日ノ現在ニ依リ選舉人名簿ヲ調製スヘシ但シ選舉區アルトキハ選舉區每ニ之ヲ調製スヘシ

第六條ノ市ニ於テハ市長ハ區長ヲシテ前項ノ例ニ依リ選舉人名簿ヲ調製セシムヘシ

選舉人名簿ニハ選舉人ノ氏名、住所及生年月日等ヲ記載スヘシ

第二十一條ノ二 市長ハ十一月五日ヨリ十五日間市役所（第六條ノ市ニ於テハ區役所）又ハ其ノ指定シタル場所ニ於テ選舉人名簿ヲ關係者ノ縦覽ニ供スヘシ

市長ハ縦覽開始ノ日前三日目迄ニ縦覽ノ場所ヲ告示スヘシ

第二十一條ノ三 選舉人名簿ニ關シ關係者ニ於テ異議アルトキハ縦覽期間内ニ之ヲ市長（第六條ノ市ニ於テハ區長ヲ經テ）ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ市長ハ縦覽期間満了後三日以内ニ之ヲ市會ノ決定ニ付スヘシ市會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ決定スヘシ

前項ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第三項ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項ノ決定及前項ノ裁決ニ付テハ市長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十一條ノ四 選舉人名簿ハ十二月二十五日ヲ以テ確定ス

選舉人名簿ハ次年ノ十二月二十四日迄之ヲ据置クヘシ

前條ノ場合ニ於テ決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アリタルニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ市長ハ直ニ之ヲ修正シ第六條ノ市ニ於テハ區長ヲシテ

之ヲ修正セシムヘシ

選舉人名簿ヲ修正シタルトキハ市長ハ直ニ其ノ要領ヲ告示シ第六條ノ市ニ於テハ區長ヲシテ之ヲ告示セシムヘシ

投票分會ヲ設クルトキハ市長ハ確定名簿ニ依リ分會ノ區劃毎ニ名簿ノ抄本ヲ調製スヘシ第六條ノ市ニ於テハ區長ヲシテ之ヲ調製セシムヘシ

第二十一條ノ五 第二十一條ノ三ノ場合ニ於テ決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アリタルニ依リ選舉人名簿無効ト爲リタルトキハ更ニ名簿ヲ調製スヘシ

天災事變等ノ爲必要アルトキハ更ニ名簿ヲ調製スヘシ

前二項ノ規定ニ依ル名簿ノ調製、縱覽、確定及異議申立ニ對スル市會ノ決定ニ關スル期日及期間ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依ル
市ノ廢置分合又ハ境界變更アリタル場合ニ於テ名簿ニ關シ其ノ分合其ノ他必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 市長ハ選舉ノ期日前七日目（第三十九條ノ二ノ市ニ於テハ二十日目）迄ニ選舉會場（投票分會場ヲ含ム以下之ニ同シ）、投票ノ日時及選舉スヘキ議員數（選舉區アル場合ニ於テハ各選舉區ニ於テ選舉スヘキ議員數）ヲ告示スヘシ投票分會ヲ設クル場合ニ於テハ併セテ其ノ區劃ヲ告示スヘシ

總選舉ニ於ケル各選舉區ノ投票ハ同日時ニ之ヲ行フ

投票分會ノ投票ハ選舉會ト同日時ニ之ヲ行フ
天災事變等ノ爲投票ヲ行フコト能ハサルトキ又ハ更ニ投票ヲ行フノ必要アルトキハ市長ハ其ノ投票ヲ行フヘキ選舉會又ハ投票分會ノミニ付更ニ期日ヲ定メ投票ヲ行ハシムヘシ此ノ場合ニ於テ選舉會場及投票ノ日時ハ選舉ノ期日前五日目迄ニ之ヲ告示スヘシ

第二十三條第三項乃至第五項ヲ左ノ如ク改ム

市長（第六條ノ市ニ於テハ區長）ハ選舉人名簿ニ登錄セラレタル者ノ中ヨリ二人乃至四人ノ選舉立會人ヲ選任スヘシ但シ選舉區アルトキハ各別

ニ選舉立會人ヲ設クヘシ

投票分會ハ市長ノ指名シタル吏員投票分會長ト爲リ之ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス

市長（第六條ノ市ニ於テハ區長）ハ分會ノ區劃内ニ於ケル選舉人名簿ニ登錄セラレタル者ノ中ヨリ二人乃至四人ノ投票立會人ヲ選任スヘシ

選舉立會人及投票立會人ハ名譽職トス

第二十四條中「分會長」ヲ「投票分會長」ニ改ム

第二十五條第五項ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ同項但書ヲ削ル

投票ニ關スル記載ニ付テハ勅令ヲ以テ定ムル點字ハ之ヲ文字ト看做ス

同條第九項ヲ左ノ如ク改ム

投票分會ニ於テ爲シタル投票ハ投票分會長少クトモ一人ノ投票立會人ト共ニ投票函ノ儘之ヲ選舉長ニ送致スヘシ

第二十五條ノ二 確定名簿ニ登錄セラレサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス但シ選舉人名簿ニ登錄セラルヘキ確定裁決書又ハ判決書ヲ所持シ選舉ノ當日選舉會場ニ到ル者ハ此ノ限ニ在ラス
確定名簿ニ登錄セラレタル者選舉人名簿ニ登錄セラルルコトヲ得サル者ナルトキハ投票ヲ爲スコトヲ得ス選舉ノ當日選舉權ヲ有セサル者ナルトキ亦同シ

第二十五條ノ三 投票ノ拒否ハ選舉立會人又ハ投票立會人之ヲ決定ス可否同數ナルトキハ選舉長又ハ投票分會長之ヲ決スヘシ

投票分會ニ於テ投票拒否ノ決定ヲ受ケタル選舉人不服アルトキハ投票分會長ハ假ニ投票ヲ爲サシムヘシ

前項ノ投票ハ選舉人ヲシテ之ヲ封筒ニ入レ封緘シ表面ニ自ラ其ノ氏名ヲ記載シ投函セシムヘシ

投票分會長又ハ投票立會人ニ於テ異議アル選舉人ニ對シテモ亦前二項ニ同シ

第二十七條 市長ハ豫メ開票ノ日時ヲ告示スヘシ

第二十七條ノ二 選舉長ハ投票ノ日又ハ其ノ翌日（投票分會ヲ設ケタルト

キハ總テノ投票函ノ送致ヲ受ケタル日又ハ其ノ翌日）選舉立會人立會ノ

上投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ

前項ノ計算終リタルトキハ選舉長ハ先ツ第二十五條ノ三第二項及第四項

ノ投票ヲ調査スヘシ其ノ投票ノ受理如何ハ選舉立會人之ヲ決定ス可否同

數ナルトキハ選舉長之ヲ決スヘシ

選舉長ハ選舉立會人ト共ニ投票ヲ點檢スヘシ

天災事變等ノ爲開票ヲ行フコト能ハサルトキハ市長ハ更ニ開票ノ期日ヲ

定ムヘシ此ノ場合ニ於テ選舉會場ノ變更ヲ要スルトキハ豫メ更ニ其ノ場

所ヲ告示スヘシ

第二十七條ノ三 選舉人ハ其ノ選舉會ノ參觀ヲ求ムルコトヲ得但シ開票開

始前ハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條ノ四 特別ノ事情アルトキハ市ハ府縣知事ノ許可ヲ得區劃ヲ定

メテ開票分會ヲ設クルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ開票分會ヲ設クル場合ニ於テ必要ナル事項ハ命令ヲ以

テ之ヲ定ム

第二十八條第二項ヲ削ル

第二十九條第一項中「投票ノ拒否及效力」ヲ「投票ノ效力」ニ改メ同條第

二項ヲ削ル

第三十條第一項但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ議員ノ定數（選舉區アル場合ニ於テハ其ノ選舉區ノ配當議員數）ヲ

以テ有效投票ノ總數ヲ除シテ得タル數ノ六分ノ一以上ノ得票アルコトヲ

要ス

第三十條ノ二 當選者選舉ノ期日後ニ於テ被選舉權ヲ有セサルニ至リタル

トキハ當選ヲ失フ

第三十一條 選舉長ハ選舉錄ヲ作リ選舉會ニ關スル顛末ヲ記載シ之ヲ朗讀

シ二人以上ノ選舉立會人ト共ニ之ニ署名スヘシ

各選舉區ノ選舉長ハ選舉錄（第六條ノ市ニ於テハ其ノ寫）ヲ添へ當選者

ノ住所氏名ヲ市長ニ報告スヘシ

投票分會長ハ投票錄ヲ作り投票ニ關スル顛末ヲ記載シ之ヲ朗讀シ二人以

上ノ投票立會人ト共ニ之ニ署名スヘシ

投票分會長ハ投票函ト同時ニ投票錄ヲ選舉長ニ送致スヘシ

選舉錄及投票錄ハ投票、選舉人名簿其ノ他ノ關係書類ト共ニ議員ノ任期

間市長（第六條ノ市ニ於テハ區長）ニ於テ之ヲ保存スヘシ

第三十二條第一項ヲ左ノ如ク改メ第三項中「數級又ハ」ヲ削リ同條第四項

中「第十八條第二項ニ掲ケサル官吏」ヲ「官吏」ニ改ム

當選者定マリタルトキハ市長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知シ（第六條

ノ市ニ於テハ區長ヲシテ之ヲ告知セシメ）同時ニ當選者ノ住所氏名ヲ告

示シ且選舉錄ノ寫（投票錄アルトキハ併セテ投票錄ノ寫）ヲ添へ之ヲ府

縣知事ニ報告スヘシ當選者ナキトキハ直ニ其ノ旨ヲ告示シ且選舉錄ノ寫

（投票錄アルトキハ併セテ投票錄ノ寫）ヲ添へ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

同條ニ左ノ二項ヲ加フ

市ニ對シ請負ヲ爲シ又ハ市ニ於テ費用ヲ負擔スル事業ニ付市長若ハ其ノ委任ヲ受ケタル者ニ對

シ請負ヲ爲ス者若ハ其ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員、役員若ハ

支配人ニシテ當選シタル者ハ其ノ請負ヲ罷メ又ハ請負ヲ爲ス者ノ支配人若ハ主トシテ同一ノ行

爲ス法人ノ無限責任社員、役員若ハ支配人タルコトナキニ至ルニ非サレハ當選ニ應スルコ

トナ得ス第二項又ハ第三項ノ期限前ニ其ノ旨ヲ市長ニ申立テサルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス

前項ノ役員トハ取締役、監查役及之ニ準スヘキ者並清算人ヲ謂フ

第三十三條 當選者左ニ掲クル事由ノ一一該當スルトキハ三月以内ニ更ニ

選舉ヲ行フヘシ但シ第二項ノ規定ニ依リ更ニ選舉ヲ行フコトナクシテ當

選者ヲ定メ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 當選ヲ辭シタルトキ

二 數選舉區ニ於テ當選シタル場合ニ於テ前條第三項ノ規定ニ依リ一ノ

選舉區ノ當選ニ應シ又ハ抽籤ニ依リ一ノ選舉區ノ當選者ト定マリタル

爲他ノ選舉區ニ於テ當選者タラサルニ至リタルトキ

三 第三十條ノ二ノ規定ニ依リ當選ヲ失ヒタルトキ

四 死亡者ナルトキ

五 選舉ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレ其ノ當選無効ト爲リタルトキ

但シ同一人ニ關シ前各號ノ事由ニ依ル選舉又ハ補闕選舉ノ告示ヲ爲シ

タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ事由前條第二項、第三項若ハ第五項ノ規定ニ依ル期限前ニ生シタル場合ニ於テ第三十條第一項但書ノ得票者ニシテ當選者ト爲ラサリシ者アルトキ又ハ其ノ期限經過後ニ生シタル場合ニ於テ第三十條第二項ノ規定ノ適用ヲ受ケタル得票者ニシテ當選者ト爲ラサリシ者アルトキハ直ニ選舉會ヲ開キ其ノ者ノ中ニ就キ當選者ヲ定ムヘシ

前項ノ場合ニ於テ第三十條第一項但書ノ得票者ニシテ當選者ト爲ラサリシ者選舉ノ期日後ニ於テ被選舉權ヲ有セサルニ至リタルトキハ之ヲ當選者ト定ムコトヲ得ス

第二項ノ場合ニ於テハ市長ハ豫メ選舉會ノ場所及日時ヲ告示スヘシ
第一項ノ期間ハ第三十六條第八項ノ規定ノ適用アル場合ニ於テハ選舉ヲ行フコトヲ得サル事由已ミタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第一項ノ事由議員ノ任期満了前六月以内ニ生シタルトキハ第一項ノ選舉ハ之ヲ行ハス但シ議員ノ數其ノ定數ノ三分ノ二ニ満チサルニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラス
第三十四條第一項ヲ削リ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

當選者ナキニ至リタルトキ又ハ當選者其ノ選舉ニ於ケル議員ノ定數ニ達セサルニ至リタルトキハ市長ハ直ニ其ノ旨ヲ告示シ併セテ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ
第三十五條ニ左ノ但書ヲ加フ
但シ當選ニ異動ヲ生スルノ虞ナキ者ヲ區分シ得ルトキハ其ノ者ニ限り當選ヲ失フコトナシ

第三十六條第一項中「第三十四條第二項」ヲ「第三十二條第一項又ハ第三十九條中「第二十一條」ヲ「第二十一條ノ三」ニ改ム
第三十九條ノ二 勅令ヲ以テ指定スル市（第六條ノ市ノ區ヲ含ム）ノ市會議員（又ハ區會議員）ノ選舉ニ付テハ府縣制第十三條ノ二、第十三條ノ三、第二十九條ノ三及第三十四條ノ二ノ規定ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ第二十三條第三項及第五項、第二十五條第五項及第七項、第二十五條ノ三、第二十八條、第二十九條、第三十三條第一項並第三十六條第一項ノ

十四條第二項」ニ、同條第三項中「第三十四條第一項」ヲ「第三十二條第一項」ニ、「同條第二項」ヲ「第三十二條第一項又ハ第三十四條第二項」ニ、

同條第八項中「第三十七條第三項」ヲ「第三十七條第一項若ハ第三項」ニ改ム

第三十七條 選舉無効ト確定シタルトキハ三月以内ニ更ニ選舉ヲ行フヘシ

當選無効ト確定シタルトキハ直ニ選舉會ヲ開キ更ニ當選者ヲ定ムヘシ此ノ場合ニ於テハ第三十三條第三項及第四項ノ規定ヲ準用ス

當選者ナキトキ、當選者ナキニ至リタルトキ又ハ當選者其ノ選舉ニ於ケル議員ノ定數ニ達セサルトキ若ハ定數ニ達セサルニ至リタルトキハ三月以内ニ更ニ選舉ヲ行フヘシ
第三十三條第五項及第六項ノ規定ハ第一項及前項ノ選舉ニ之ヲ準用ス
第三十八條第一項中左ノ如ク改ム
左ノ如ク改メ第二項中「被選舉權ヲ有セサル者」ノ下ニ「又ハ第三十二條第六項ニ掲クル者」ヲ加フ

二 破產者ト爲リタルトキ

市會議員被選舉權ヲ有セサル者ナルトキ又ハ第三十二條第六項ニ掲クル者ナルトキハ其ノ職ヲ失フノ被選舉權ノ有無又ハ第三十二條第六項ニ掲クル者ニ該當スルヤ否ハ市會議員カ左ノ各號ノ一一ニ該當スルニ因リ被選舉權ヲ有セサル場合ヲ除クノ外市會之ヲ決定ス
一 禁治產者又ハ準禁治產者ト爲リタルトキ

- 二 破產者ト爲リタルトキ
- 三 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 四 選舉ニ關スル犯罪ニ依リ罰金ノ刑ニ處セラレタルトキ

第三十九條中「第二十一條」ヲ「第二十一條ノ三」ニ改ム
第三十九條ノ二 勅令ヲ以テ指定スル市（第六條ノ市ノ區ヲ含ム）ノ市會議員（又ハ區會議員）ノ選舉ニ付テハ府縣制第十三條ノ二、第十三條ノ三、第二十九條ノ三及第三十四條ノ二ノ規定ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ

規定ニ拘ラス勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第三十九條ノ三 前條ノ規定ニ依ル選舉ニ付テハ衆議院議員選舉法第十章及第十一章並第百四十條第二項及第百四十二條ノ規定ヲ準用ス但シ議員候補者一人ニ付定ムヘキ選舉事務所ノ數、選舉委員及選舉事務員ノ數並

選舉運動ノ費用ノ額ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

前條ノ規定ニ依ル選舉ヲ除クノ外市會議員（又ハ第六條ノ市ノ區ノ區會議員）ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉法第九十一條、第九十二條、第九

十八條、第九十九條第二項、第一百條及第百四十二條ノ規定ヲ準用ス

第四十九條中「年長ノ議員議長ノ職務ヲ代理ス年齡同シキトキハ抽籤ヲ以

テ之ヲ定ム」ヲ「臨時ニ議員中ヨリ假議長ヲ選舉スヘシ」ニ改メ同條ニ

左ノ一項ヲ加フ

前項假議長ノ選舉ニ付テハ年長ノ議員議長ノ職務ヲ代理ス年齡同シキト

キハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第五十一條第三項中「開會ノ日ヨリ少クトモ三日前」ヲ「開會ノ日前二日目迄」ニ、同條第四項中「三日前迄」ヲ「會議ニ付スル日前二日目迄」ニ

改ム

第五十三條ニ左ノ一項ヲ加フ

議長ハ其ノ職務ヲ行フ場合ニ於テモ之カ爲議員トシテ議決ニ加ハルノ權

ヲ失ハス

第五十五條ニ左ノ二項ヲ加フ

連名投票ノ法ヲ用ウル場合ニ於テ其ノ投票ニシテ第二十八條第一號、第

六號及第七號ニ該當スルモノ並其ノ記載ノ人員選舉スヘキ定數ニ過キタルモノハ之ヲ無效トシ同條第二號、第四號及第五號ニ該當スルモノハ其

ノ部分ノミヲ無效トス

連名投票ノ法ヲ用ウル場合ニ於テ過半數ノ投票ヲ得タル者選舉スヘキ定

數ヲ超ユルトキハ最多數ヲ得タル者ヨリ順次選舉スヘキ定數ニ至ル迄ノ部分又ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員、取締役監

長抽籤シテ之ヲ定ム

第六十三條第二項中「三日以内出席ヲ停止シ又ハ二圓以下ノ過怠金ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得」ヲ「五日以内出席ヲ停止スル規定ヲ設クルコトヲ得」ニ改ム

第六十五條第四項ヲ左ノ如ク改ム

名譽職參事會員ハ隔年之ヲ選舉スヘシ

名譽職參事會員ハ後任者ノ就任スルニ至ル迄在任ス市會議員ノ任期満了シタルトキ亦同シ

同條ニ左ノ一項ヲ加フ

名譽職參事會員ハ其ノ選舉ニ關シ第九十條ノ處分確定シ又ハ判決アル迄

ハ會議ニ列席シ議事ニ參與スルノ權ヲ失ハス

第六十七條中左ノ如ク改ム

二 削除

第七十三條第二項及第三項ヲ左ノ如ク改ム

市長ハ市會ニ於テ之ヲ選舉ス

市長ハ其ノ退職セムトスル日前三十日目迄ニ申立ツルニ非サレハ任期中退職スルコトヲ得ス但シ市會ノ承認ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七十四條第二項ヲ左ノ如ク改ム

市參與ハ市長ノ推薦ニ依リ市會之ヲ定ム

第七十五條第二項中「選舉シ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ」ヲ「選舉ス」ニ

改メ同條第三項ヲ削リ第四項ヲ左ノ如ク改ム

第七十三條第三項ノ規定ハ助役ニ之ヲ準用ス
助役ハ其ノ退職セムトスル日前三十日目迄ニ申立ツルニ非サレハ任期中

退職スルコトヲ得ス但シ市會ノ承認ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七十七條 市長市參與及助役ハ第十八條第二項又ハ第五項ニ掲ケタル職

ト兼ヌルコトヲ得ス又其ノ市ニ對シ請負ヲ爲シ又ハ其市ニ於テ費用ヲ負
擔スル事業ニ付市長若ハ其ノ委任ヲ受ケタル者ニ對シ請負ヲ爲ス者及其
ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員、取締役監

査役若ハ之ニ準スヘキ者、清算人及支配人タルコトヲ得ス

第七十八條第一項中「有給市參與及助役」ヲ削ル

第七十九條第二項ヲ左ノ如ク改ム

第七十五條第一項及第二項、第七十六條、第七十七條並前條第二項ノ規定ハ收入役及副收入役ニ之ヲ準用ス

第八十條第二項中「第七十八條」ヲ「第七十八條第二項」ニ改ム

第八十二條第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項ノ區長及其ノ代理者ハ名譽職トス市公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ市長ノ推薦ニ依リ市會之ヲ定ム

第八十三條第二項中「市會ニ於テ市會議員、名譽職參事會員又ハ市公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉ス」ヲ「市會議員、名譽職參事會員又ハ市公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ市長ノ推薦ニ依リ市會之ヲ定ム」ニ改メ同條第三項中「常設」ヲ削ル

第八十四條第一項ヲ左ノ如ク改ム

市公民ニ限リテ擔任スヘキ職務ニ在ル吏員又ハ職ニ就キタルカ爲市公民タル者選舉權ヲ有セサルニ至リタルトキハ其ノ職ヲ失フ

第八十八條 削除

第九十二條ノ二 市參事會ノ權限ニ屬スル事項ノ一部ハ其ノ議決ニ依リ市長ニ於テ專決處分スルコトヲ得

第九十四條第一項中「府縣知事ノ許可ヲ得テ」ヲ削ル

第九十七條第三項中「府縣知事ノ許可ヲ得テ」ヲ削リ同條第五項ヲ左ノ如ク改ム

副收入役ヲ置カサル場合ニ於テハ市會ハ市長ノ推薦ニ依リ收入役故障アルトキ之ヲ代理スヘキ吏員ヲ定ムヘシ

第一百七條第二項中「前項ノ異議ハ」ヲ「前項ノ異議ノ申立アリタルトキハ七日以内ニ」ニ改ム

第一百二十一條ノ二 市ハ公益上其ノ事由ニ因リ課稅ヲ不適當トスル場

合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ市稅ヲ課セサルコトヲ得
第一百二十九條第一項中「其ノ條例中ニハ五圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設
クルコトヲ得」ヲ削リ同條第二項ヲ左ノ如ク改ム

詐僞其ノ他ノ不正ノ行爲ニ依リ使用料ノ徵收ヲ免レ又ハ市稅ヲ逋脱シタル者ニ付テハ市條例ヲ以テ其ノ徵收ヲ免レ又ハ逋脱シタル金額ノ三倍ニ相當スル金額（其ノ金額五圓未滿ナルトキハ五圓）以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

前項ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料、手數料及市稅ノ賦課徵收ニ關シテハ市條例ヲ以テ五圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得財產又ハ營造物ノ使用ニ關シ亦同シ

第一百三十條第三項中「前二項ノ異議ハ」ヲ「前二項ノ異議ノ申立アリタルトキハ市長ハ七日以内ニ」ニ改ム

第一百三十一條第六項中「前三項ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ」ヲ「前三項ノ處分ニ不服アル者ハ」ニ改ム

第一百四十二條第一項中「六月三十日」ヲ「五月三十一日」ニ改メ同條第四項ヲ削ル

第一百四十六條第三項ヲ削ル

第一百四十九條第二項、第一百五十條第二項、第一百五十一條第二項及第一百五十三條第二項中「內務大臣ノ許可ヲ得」ヲ削ル

第一百五十四條第一項中「府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ」ヲ「之ヲ定ム」ニ改メ同條第二項中「內務大臣ノ許可ヲ得」ヲ削ル

第一百五十五條第一項中「前條第一項」ヲ「前條第二項」ニ、同條第三項中「前項ノ異議ハ」ヲ「前項ノ異議ノ申立アリタルトキハ組合ノ管理者ハ七日以内ニ」ニ改ム

第一百六十條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
決定書又ハ裁決書ノ交付ヲ受ケサル者ニ關シテハ前二項ノ期間ハ告示ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第百六十條ノ二 異議ノ決定ハ本法中別ニ期間ヲ定メタルモノヲ除クノ外

其ノ決定ニ付セラレタル日ヨリ三月以内ニ之ヲ爲スヘシ

府縣參事會訴願ヲ受理シタルトキハ其ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ裁決スヘ

シ

第一百六十五條 市條例ヲ設ケ又ハ改正セムトスルトキハ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第一百六十六條第四號中「手數料及加入金」ヲ削ル

第一百六十七條中左ノ如ク改ム

一 市條例ヲ廢止スル事

二 基本財產及特別基本財產ノ處分ニ關スル事

五 手數料及加入金ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事

第一百七十七條ノ二 本法中官吏ニ關スル規定ハ待遇官吏ニ之ヲ適用ス

附 則

本法中公民權及議員選舉ニ關スル規定ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行シ其ノ他ノ規定ノ施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ニ依リ初テ議員ヲ選舉スル場合ニ於テ必要ナル選舉人名簿ニ關シ第二十一条乃至第二十一條ノ五ニ規定スル期日又ハ期間ニ依リ難キトキハ命令ヲ以テ別ニ其ノ期日又ハ期間ヲ定ム但シ其ノ選舉人名簿ハ次ノ選舉人名簿確定迄其ノ效力ヲ有ス

本法施行ノ際大正十四年法律第四十七號衆議院議員選舉法又ハ大正十五年府縣制中改正法律未タ施行セラレサル場合ニ於テハ本法ノ適用ニ付テハ同法ハ既ニ施行セラレタルモノト看做ス

本法施行ノ際必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

町村制中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及付候也

大正十五年三月十六日

衆議院議長 粑 谷 義 三

貴族院議長公爵徳川家達殿

(小字ハ衆議院ノ修正文、
大字ハ同削除ノ符號ナリ)

町村制中左ノ通改正ス

第三條第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項ノ場合ニ於テ財產アルトキハ其ノ處分ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ府縣知事之ヲ定ム

第五條 町村ノ名稱ヲ變更セムトスルトキ、村ヲ町ト爲シ若ハ町ヲ村ト爲サムトスルトキ又ハ町村役場ノ位置ヲ定メ若ハ之ヲ變更セムトスルトキハ町村ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 帝國臣民タル年齡二十五年以上ノ男子ニシテ二年以來町村住民タ

ル者ハ其ノ町村公民トス但シ左ノ各號ノ一二該當スル者ハ此ノ限ニ在ラス

ス

- 一 禁治產者及準禁治產者
- 二 破產者ニシテ復權ヲ得サル者
- 三 貧困ニ因リ生活ノ爲公私ノ救助ヲ受ケ又ハ扶助ヲ受クル者
- 四 一定ノ住居ヲ有セサル者

五 六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

六 刑法第二編第一章、第三章、第九章、第十六章乃至第二十一章、第二十五章又ハ第三十六章乃至第三十九章ニ掲クル罪ヲ犯シ六年未滿ノ

懲役ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル後其ノ刑期ノ二倍ニ相當スル期間ヲ經過スルニ至ル迄ノ者但シ其ノ期間五年ヨリ短キトキハ五年トス

七年未滿ノ懲役ノ刑ニ處セラレ又ハ前號ニ掲クル罪以外ノ罪ヲ犯シ六年未滿ノ懲役ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコト

ナキニ至ル迄ノ者

町村ハ前項二年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

第一項二年ノ期間ハ市町村ノ廢置分合又ハ境界變更ノ爲中斷セラルルコトナシ

第八條第二項中「町村ハ一年以上四年以下其ノ町村公民權ヲ停止シ場合ニ依リ其ノ停止期間以内其ノ者ノ負擔スヘキ町村稅ノ十分ノ一以上四分ノ一以下ヲ增課スルコトヲ得」ヲ「町村ハ一年以上四年以下其ノ町村公民權ヲ停止スルコトヲ得」ニ改ム

第九條 陸海軍軍人ニシテ現役中ノ者（未タ入營セサル者及歸休下士官兵ヲ除ク）及戰時若ハ事變ニ際シ召集中ノ者ハ町村ノ公務ニ參與スルコトヲ得ス兵籍ニ編入セラレタル學生生徒（勅令ヲ以テ定ムル者ヲ除ク）及志願ニ依リ國民軍ニ編入セラレタル者亦同シ

第十一條^{第二項中左ノ如ク改ム}第四項中「内務大臣」ヲ「府縣知事」ニ改ム

一 削除

二 人口五千未滿ノ町村

同條第四項中「内務大臣」ヲ「府縣知事」ニ改ム

第十二條中「第九條第三項ノ場合ニ當ル者」ヲ「第九條ノ規定ニ該當スル者」ニ改ム

第十三條 削除

第十四條 特別ノ事情アルトキハ町村ハ區劃ヲ定メテ投票分會ヲ設クルコトヲ得

第十五條 選舉權ヲ有スル町村公民ハ被選舉權ヲ有ス
在職ノ檢事、警察官吏及收稅官吏ハ被選舉權ヲ有セス
選舉事務ニ關係アル官吏及町村ノ有給吏員ハ其ノ關係區域内ニ於テ被選舉權ヲ有セス

町村ニ對シ請負ヲ爲シ又ハ町村ニ於テ費用ヲ負擔スル事業ニ付町村長若ハ其ノ委任ヲ受ケタル者ニ對シ請負ヲ爲ス者及其ノ支配人又ハ主トシテ

同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員、取締役監査役若ハ之ニ準スヘキ者、清算人及支配人ハ其ノ町村ニ於テ被選舉權ヲ有セス

町村ノ有給ノ吏員教員其ノ他ノ職員ニシテ在職中ノ者ハ其ノ町村ノ町村會議員ト相兼ヌルコトヲ得ス

第十六條第三項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前項但書ノ場合ニ於テ闕員ノ數解任ヲ要スル者ノ數ニ滿チサルトキハ其ノ不足ノ員數ニ付町村長抽籤シテ解任スヘキ者ヲ定メ闕員ノ數解任ヲ要スル者ノ數ヲ超ユルトキハ解任ヲ要スル者ニ充ツヘキ闕員ハ最モ先ニ闕員ト爲リタル者ヨリ順次之ニ充テ闕員ト爲リタル時同シキトキハ町村長抽籤シテ之ヲ定ム

第十七條 町村會議員中闕員ヲ生シタルトキハ三月以内ニ補闕選舉ヲ行フヘシ但シ第二十七條第二項ノ規定ノ適用ヲ受ケタル得票者ニシテ當選者ト爲ラサリシ者アルトキハ直ニ選舉會ヲ開キ其ノ者ノ中ニ就キ當選者ヲ定ムヘシ此ノ場合ニ於テハ第三十條第三項及第四項ノ規定ヲ準用ス

第三十條第五項及第六項ノ規定ハ補闕選舉ニ之ヲ準用ス

補闕議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間任ス

第十八條 町村長ハ毎年九月十五日ノ現在ニ依リ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

選舉人名簿ニハ選舉人ノ氏名、住所及生年月日等ヲ記載スヘシ

第十八條ノ二 町村長ハ十一月五日ヨリ十五日間町村役場又ハ其ノ指定シタル場所ニ於テ選舉人名簿ヲ關係者ノ縦覽ニ供スヘシ

町村長ハ縦覽開始ノ日前三日目迄ニ縦覽ノ場所ヲ告示スヘシ

第十八條ノ三 選舉人名簿ニ關シ關係者ニ於テ異議アルトキハ縦覽期間内ニ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ町村長ハ縦覽期間満了後三日以内ニ之ヲ町村會ノ決定ニ付スヘシ

町村會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ決定スヘシ

前項ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第三項ノ裁

決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項ノ決定及前項ノ裁決ニ付テハ町村長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起ス

ルコトヲ得

前二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第十八條ノ四 選舉人名簿ハ十二月二十五日ヲ以テ確定ス

選舉人名簿ハ次年ノ十二月二十四日迄之ヲ据置クヘシ

前條ノ場合ニ於テ決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アリタルニ依リ名簿ノ修

正ヲ要スルトキハ町村長ハ直ニ之ヲ修正スヘシ

選舉人名簿ヲ修正シタルトキハ町村長ハ直ニ其ノ要領ヲ告示スヘシ

投票分會ヲ設タルトキハ町村長ハ確定名簿ニ依リ分會ノ區劃毎ニ名簿ノ

抄本ヲ調製スヘシ

第十八條ノ五 第十八條ノ三ノ場合ニ於テ決定若ハ裁決確定シ又ハ判決ア

リタルニ依リ選舉人名簿無効ト爲リタルトキハ更ニ名簿ヲ調製スヘシ

天災事變等ノ爲必要アルトキハ更ニ名簿ヲ調製スヘシ

前二項ノ規定ニ依ル名簿ノ調製、縱覽、確定及異議申立ニ對スル町村會

ノ決定ニ關スル期日及期間ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依ル

町村ノ廢置分合又ハ境界變更アリタル場合ニ於テ名簿ニ關シ其ノ分合其

ノ他必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 町村長ハ選舉ノ期日前七日目迄ニ選舉會場（投票分會場ヲ含ム

以下之ニ同シ）投票ノ日時及選舉スヘキ議員數ヲ告示スヘシ投票分會ヲ

設タル場合ニ於テハ併セテ其ノ區劃ヲ告示スヘシ

投票分會ノ投票ハ選舉會ト同日時ニ之ヲ行フ

天災事變等ノ爲投票ヲ行フコト能ハサルトキ又ハ更ニ投票ヲ行フノ必要

アルトキハ町村長ハ其ノ投票ヲ行フヘキ選舉會又ハ投票分會ノミニ付更

ニ期日ヲ定メ投票ヲ行ハシムヘシ此ノ場合ニ於テ選舉會場及投票ノ日時

ハ選舉ノ期日前五日目迄ニ之ヲ告示スヘシ

第二十條第二項乃至第四項ヲ左ノ如ク改ム

町村長ハ選舉人名簿ニ登錄セラレタル者ノ中ヨリ二人乃至四人ノ選舉立
會人ヲ選任スヘシ

投票分會ハ町村長ノ指名シタル吏員投票分會長ト爲リ之ヲ開閉シ其ノ取
締ニ任ス

町村長ハ分會ノ區劃内ニ於ケル選舉人名簿ニ登錄セラレタル者ノ中ヨリ
二人乃至四人ノ投票立會人ヲ選任スヘシ

選舉立會人及投票立會人ハ名譽職トス

第二十一條中「分會長」ヲ「投票分會長」ニ改ム

第二十二條第五項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

投票ニ關スル記載ニ付テハ勅令ヲ以テ定ムル點字ハ之ヲ文字ト看做ス

同條第八項ヲ左ノ如ク改ム

投票分會ニ於テ爲シタル投票ハ投票分會長少クトモ一人ノ投票立會人ト
共ニ投票函ノ儘之ヲ選舉長ニ送致スヘシ

第二十二條ノ二 確定名簿ニ登錄セラレサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス但
シ選舉人名簿ニ登錄セラルヘキ確定裁決書又ハ判決書ヲ所持シ選舉ノ當
日選舉會場ニ到ル者ハ此ノ限ニ在ラス

確定名簿ニ登錄セラレタル者選舉人名簿ニ登錄セラルルコトヲ得サル者
ナルトキハ投票ヲ爲スコトヲ得ス選舉ノ當日選舉權ヲ有セサル者ナルト
キ亦同シ

第二十二條ノ三 投票ノ拒否ハ選舉立會人又ハ投票立會人之ヲ決定ス可否
同數ナルトキハ選舉長又ハ投票分會長之ヲ決スヘシ

投票分會ニ於テ投票拒否ノ決定ヲ受ケタル選舉人不服アルトキハ投票分
會長ハ假ニ投票ヲ爲サシムヘシ

前項ノ投票ハ選舉人ヲシテ之ヲ封筒ニ入レ封緘シ表面ニ自ラ其ノ氏名ヲ
記載シ投函セシムヘシ

投票分會長又ハ投票立會人ニ於テ異議アル選舉人ニ對シテモ亦前二項ニ
同シ

第二十四條 町村長ハ豫メ開票ノ日時ヲ告示スヘシ

第二十四條ノ二 選舉長ハ投票ノ日又ハ其ノ翌日（投票分會ヲ設ケタルトキハ總テノ投票函ノ送致ヲ受ケタル日又ハ其ノ翌日）選舉立會人立會ノ上投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ

前項ノ計算終リタルトキハ選舉長ハ先ツ第二十二條ノ三第二項及第四項ノ投票ヲ調査スヘシ其ノ投票ノ受理如何ハ選舉立會人之ヲ決定ス可否同數ナルトキハ選舉長之ヲ決スヘシ

選舉長ハ選舉立會人ト共ニ投票ヲ點檢スヘシ

天災事變等ノ爲開票ヲ行フコト能ハサルトキハ町村長ハ更ニ開票ノ期日ヲ定ムヘシ此ノ場合ニ於テ選舉會場ノ變更ヲ要スルトキハ豫メ更ニ其ノ場所ヲ告示スヘシ

第二十四條ノ三 選舉人ハ其ノ選舉會ノ參觀ヲ求ムルコトヲ得但シ開票開始前ハ此ノ限ニ在ラス

第二十四條ノ四 特別ノ事情アルトキハ町村ハ府縣知事ノ許可ヲ得區劃ヲ定メテ開票分會ヲ設クルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ開票分會ヲ設クル場合ニ於テ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十六條第一項中「投票ノ拒否及效力」ヲ「投票ノ效力」ニ改メ同條第二項ヲ削ル

第二十七條第一項但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ議員ノ定數ヲ以テ有效投票ノ總數ヲ除シテ得タル數ノ六分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス

第二十七條ノ二 當選者選舉ノ期日後ニ於テ被選舉權ヲ有セサルニ至リタルトキハ當選ヲ失フ

第二十八條 選舉長ハ選舉錄ヲ作リ選舉會ニ關スル顛末ヲ記載シ之ヲ朗讀シ二人以上ノ選舉立會人ト共ニ之署名スヘシ

投票分會長ハ投票錄ヲ作リ投票ニ關スル顛末ヲ記載シ之ヲ朗讀シ二人以上ノ選舉立會人ト共ニ之署名スヘシ

上ノ投票立會人ト共ニ之署名スヘシ

投票分會長ハ投票函ト同時ニ投票錄ヲ選舉長ニ送致スヘシ

選舉錄及投票錄ハ投票、選舉人名簿其ノ他ノ關係書類ト共ニ議員ノ任期間町村長ニ於テ之ヲ保存スヘシ

第二十九條第一項ヲ左ノ如ク、第三項中「第十五條第二項ニ掲ケサル官吏」ヲ「官吏」ニ改ム

當選者定マリタルトキハ町村長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知シ同時ニ當選者ノ住所氏名ヲ告示シ且選舉錄ノ寫（投票錄アルトキハ併セテ投票

錄ノ寫）ヲ添ヘ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ當選者ナキトキハ直ニ其ノ旨ヲ告示シ且選舉錄ノ寫（投票錄アルトキハ併セテ投票錄ノ寫）ヲ添ヘ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

同條ニ左ノ二項ヲ加フ

町村ニ對シ請負チ爲シ又ハ町村ニ於テ費用ヲ負擔スル事業ニ付町村長若ハ其ノ委任ヲ受ケタル者ニ對シ請負チ爲ス者若ハ其ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行爲ナ爲ス法人ノ無限責任社員、役員若ハ支配人ニシテ當選シタル者ハ其ノ請負チ罷メ又ハ請負チ爲ス者ノ支配人若ハ主トシテ同一ノ行爲ナ爲ス法人ノ無限責任社員、役員若ハ支配人タルコトナキニ至ルニ非サレハ當選ニ應スルコトヲ得ス第二項ノ期限前ニ其ノ旨ヲ町村長ニ申立テサルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス

前項ノ役員トハ取締役 監査役及之ニ準スヘキ者並清算人ヲ謂フ

第三十條 當選者左ニ掲タル事由ノ一ニ該當スルトキハ三月以内ニ更ニ選舉ヲ行フヘシ但シ第二項ノ規定ニ依リ更ニ選舉ヲ行フコトナクシテ當選者ヲ定メ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 當選ヲ辭シタルトキ

二 第二十七條ノ二ノ規定ニ依リ當選ヲ失ヒタルトキ

三 死亡者ナルトキ

四 選舉ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレ其ノ當選無効ト爲リタルトキ但シ同一人ニ關シ前各號ノ事由ニ依ル選舉又ハ補闕選舉ノ告示ヲ爲シ

タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ事由前條第二項若ハ第四項ノ規定ニ依ル期限前ニ生シタル場合ニ

於テ第二十七條第一項但書ノ得票者ニシテ當選者ト爲ラサリシ者アルト

キ又ハ其ノ期限經過後ニ生シタル場合ニ於テ第二十七條第二項ノ規定ノ

適用ヲ受ケタル得票者ニシテ當選者ト爲ラサリシ者アルトキハ直ニ選舉

會ヲ開キ其ノ者ノ中ニ就キ當選者ヲ定ムヘシ

前項ノ場合ニ於テ第二十七條第一項但書ノ得票者ニシテ當選者ト爲ラサ

リシ者選舉ノ期日後ニ於テ被選舉權ヲ有セサルニ至リタルトキハ之ヲ當

選者ト定ムルコトヲ得ス

第二項ノ場合ニ於テハ町村長ハ豫メ選舉會ノ場所及日時ヲ告示スヘシ

第一項ノ期間ハ第三十三條第八項ノ規定ノ適用アル場合ニ於テハ選舉ヲ

行フコトヲ得サル事由已ミタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第一項ノ事由議員ノ任期満了前六月以内ニ生シタルトキハ第一項ノ選舉ハ之ヲ行ハス但シ議員ノ數其ノ定數ノ三分ノ二ニ満チサルニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十一條第一項ヲ削リ第二項中「郡長」ヲ「府縣知事」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ
當選者ナキニ至リタルトキ又ハ當選者其ノ選舉ニ於ケル議員ノ定數ニ達セサルニ至リタルトキハ町村長ハ直ニ其ノ旨ヲ告示シ併セテ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第三十二條ニ左ノ但書ヲ加フ
但シ當選ニ異動ヲ生スルノ處ナキ者ヲ區分シ得ルトキハ其ノ者ニ限リ當選ヲ失フコトナシ

第三十三條第一項中「第三十一條第二項」ヲ「第二十九條第一項又ハ第三十一条第二項」ニ、同條第三項ヲ左ノ如ク改ム
府縣知事ハ選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ第二十九條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ、當選ニ關シテハ第二十九條第一項又ハ第三十一條第二項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ府

縣參事會ノ決定ニ付スルコトヲ得

同條第四項中「處分」ヲ「決定」ニ、同條第五項乃至第七項ヲ左ノ如ク、第八項中「第三十四條第三項」ヲ「第三十四條第一項若ハ第三項」ニ改メ同條第九項中「處分」ヲ削ル

第二項若ハ第六項ノ裁決又ハ第三項ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項ノ決定ニ付テハ町村長ヨリモ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第二項若ハ前項ノ裁決又ハ第三項ノ決定ニ付テハ府縣知事又ハ町村長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三十四條 選舉無效ト確定シタルトキハ三月以内ニ更ニ選舉ヲ行フヘシ
當選無效ト確定シタルトキハ直ニ選舉會ヲ開キ更ニ當選者ヲ定ムヘシ此ノ場合ニ於テハ第三十條第三項及第四項ノ規定ヲ準用ス

當選者ナキトキ、當選者ナキニ至リタルトキ又ハ當選者其ノ選舉ニ於ケル議員ノ定數ニ達セサルトキ若ハ定數ニ達セサルニ至リタルトキハ三月以内ニ更ニ選舉ヲ行フヘシ

第三十條第五項及第六項ノ規定ハ第一項及前項ノ選舉ニ之ヲ準用ス
第五項ニ掲タル者ヲ加フ

一 町村會議員被選舉權ヲ有セサル者ナルトキ又ハ第二十九條第五項ニ掲タル者ナルトキハ其ノ職

二 破產者トナリタルトキ

チ失フ其ノ被選舉權ノ有無又ハ第二十九條第五項ニ掲タル者ニ該當スルヤ否ハ町村會議員カ左ノ各號ノニ該當スルニ因リ被選舉權ヲ有セサル場合ヲ除クノ外町村會之ヲ決定ス

一 禁治產者又ハ準禁治產者ト爲リタルトキ

二 破產者ト爲リタルトキ

三 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

四 選舉ニ關スル犯罪ニ依リ罰金ノ刑ニ處セラレタルトキ

第三十六條中「第十八條」ヲ「第十八條ノ三」ニ改メ「郡長ノ處分ハ郡長」ヲ

削ル

第三十六條ニ二町村會議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉法第九十一
條、第九十二條、第九十八條、第九十九條第二項、第一百條及第百四十二
條ノ規定ヲ準用ス

ノ一項ヲ加フ

第三十八條第一項中「郡長ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ」ヲ「府縣知事ハ」ニ
改ム

第四十五條中「年長ノ議員議長ノ職務ヲ代理ス年齡同シキトキハ抽籤ヲ以
テ之ヲ定ム」ヲ「臨時ニ議員中ヨリ假議長ヲ選舉スヘシ」ニ改メ同條ニ左
ノ一項ヲ加フ

前項假議長ノ選舉ニ付テハ年長ノ議員議長ノ職務ヲ代理ス年齡同シキト
キハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

特別ノ事情アル町村ニ於テハ第一項ノ規定ニ拘ラス町村條例ナ以テ町村會ノ選舉ニ依ル議長及
其ノ代理人一人ヲ置クコトヲ得此ノ場合ニ於テハ市制第四十八條及第四十九條ノ規定ナ準用ス
第四十七條第三項中「開會ノ日ヨリ少クトモ三日前」ヲ「開會ノ日前三日
目迄」ニ、同條第四項中「三日前迄」ヲ「會議ニ付スル日前三日目迄」ニ改
ム

第四十九條ニ左ノ一項ヲ加フ

議長ハ其ノ職務ヲ行フ場合ニ於テモ之カ爲議員トシテ議決ニ加ハルノ權
ヲ失ハス

第五十一條ニ左ノ一項ヲ加フ

連名投票ノ法ヲ用ケル場合ニ於テ過半數ノ投票ヲ得タル者選舉スヘキ定
數ヲ超ユルトキハ最多數ヲ得タル者ヨリ順次選舉スヘキ定數ニ至ル迄ノ
者ヲ以テ當選者トシ同數者アルトキハ年長者ヲ取リ年齡同シキトキハ議
長抽籤シテ之ヲ定ム

第五十二條ニ左ノ一項ヲ加フ

第四十五條第三項ノ町村ニ於ケル町村會ノ會議ニ付テハ前二項ノ規定ニ拘ラス市制第五十六條

ノ規定ヲ準用ス

第五十八條ニ左ノ一項ヲ加フ

第四十五條第三項ノ町村ニ於ケル町村會ノ會議ニ付テハ市制第六十二條第三項ノ規定ヲ準用ス
第五十九條第二項中「三日以内出席ヲ停止シ又ハ一圓以下ノ過怠金ヲ科ス
ル規定ヲ設ケルコトヲ得」ヲ「五日以内出席ヲ停止スル規定ヲ設ケルコト
ヲ得」ニ改ム

第六十四條第一項中「又ハ助役ヲ定メ若ハ選舉シ」ヲ、同條第二項中「町村
長又ハ」ヲ削リ同條第三項ヲ左ノ如ク改ム

有給町村長及有給助役ハ其ノ退職セムトスル日前三十日目迄ニ申立ツル
ニ非サレハ任期中退職スルコトヲ得ス但シ町村會ノ承認ヲ得タルトキハ
此ノ限ニ在ラス

第六十五條町村長及助役ハ第十五條第二項又ハ第五項ニ掲ケタル職ト兼
ヌルコトヲ得ス又其ノ町村ニ對シ請負ヲ爲シ又ハ其ノ町村ニ於テ費用ヲ
負擔スル事業ニ付町村長若ハ其ノ委任ヲ受ケタル者ニ對シ請負ヲ爲ス者
及其ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員、取締
役監査役若ハ之ニ準スヘキ者、清算人及支配人タルコトヲ得ス

第六十六條第一項中「及有給助役」ヲ削リ「郡長」ヲ「府縣知事」ニ改ム

第六十七條第三項及第四項ヲ削リ第五項ヲ左ノ如ク、第七項中「郡長」ヲ
「府縣知事」ニ改ム

第六十三條第二項及第四項、第六十五條並前條第二項ノ規定ハ收入役及
副收入役ニ之ヲ準用ス

第六十八條第二項ヲ左ノ如ク改ム

區長及其ノ代理人ハ名譽職トス町村公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ町村長
ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ定ム

第六十九條第二項中「町村會ニ於テ町村會議員又ハ町村公民中選舉權ヲ有
スル者ヨリ之ヲ選舉ス」ヲ「町村會議員又ハ町村公民中選舉權ヲ有スル者
ヨリ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ定ム」ニ改メ同條第三項中「常設」ヲ
削ル

第七十條第一項ヲ左ノ如ク改ム

町村公民ニ限リテ擔任スヘキ職務ニ在ル吏員又ハ職ニ就キタルカ爲町村

公民タル者選舉權ヲ有セサルニ至リタルトキハ其ノ職ヲ失フ

第七十四條第四項ヲ左ノ如ク、第六項中「郡長」ヲ「府縣知事」ニ改メ同條第

七項中「府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ」ヲ、同條第八項ヲ

及第九項中「及第四項」ヲ削ル

第二項ノ裁決又ハ前項ノ處分ニ不服アル町村長又ハ町村會ハ行政裁判所

ニ出訴スルコトヲ得

第七十五條第一項中「郡長」ヲ「府縣知事」ニ改ム

第七十八條第一項中「郡長ノ許可ヲ得テ」ヲ削ル

第八十條第二項中「町村ハ收入役故障アルトキ之ヲ代理スヘキ吏員ヲ定メ

郡長ノ認可ヲ受クヘシ」ヲ「町村會ハ町村長ノ推薦ニ依リ收入役故障アルト

キ之ヲ代理スヘキ吏員ヲ定ムヘシ」ニ改メ同條第四項中「郡長ノ許可ヲ得

テ」ヲ削ル

第八十七條第二項中「前項ノ異議ハ」ヲ「前項ノ異議ノ申立アリタルトキ

ハ町村長ハ七日以内ニ」ニ改ム

第一百一條ノ二 町村ハ公益上其ノ他ノ事由ニ因リ課稅ヲ不適當トル場合

ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ町村稅ヲ課セサルコトヲ得

第一百六條第五項中「郡長ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ」ヲ削ル

第一百九條第一項中「其ノ條例中ニハ五圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クル

コトヲ得」ヲ削リ同條第二項ヲ左ノ如ク改ム

詐偽其ノ他ノ不正ノ行爲ニ依リ使用料ノ徵收ヲ免レ又ハ町村稅ヲ逋脱シ

タル者ニ付テハ町村條例ヲ以テ其ノ徵收ヲ免レ又ハ逋脱シタル金額ノ三倍ニ相當スル金額（其ノ金額五圓未滿ナルトキハ五圓）以下ノ過料ヲ科

スル規定ヲ設クルコトヲ得

前項ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料、手數料及町村稅ノ賦課徵收ニ關シ

テハ町村條例ヲ以テ五圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得財產

又ハ營造物ノ使用ニ關シ亦同シ

第一百十條第三項中「前二項ノ異議ハ」ヲ「前二項ノ異議ノ申立アリタルトキハ町村長ハ七日以内ニ」ニ改ム

第一百十一條第六項中「前三項ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ」ヲ「前三項ノ處分ニ不服アル者ハ」ニ改ム

第一百十七條中「郡長」ヲ「府縣知事」ニ改ム

第一百二十二條第一項中「六月三十日」ヲ「五月三十一日」ニ、同條第三項中「第八項」ヲ「第五項」ニ、同條第四項中「郡長」ヲ「府縣知事」ニ改ム

第一百二十五條中「郡長」ヲ「府縣知事」ニ改ム

第一百二十七條中「郡長」ヲ「府縣知事」ニ、「府縣知事」ヲ「内務大臣」ニ改ム

第一百二十九條第三項、第一百三十條第三項、第一百三十一條第三項及第一百三十三條第二項中「内務大臣ノ許可ヲ得」ヲ削ル

第一百三十四條第一項中「府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ」ヲ「之ヲ定ム」ニ改メ同條第二項中「内務大臣ノ許可ヲ得」ヲ削ル

第一百三十五條第一項中「前條第二項」ヲ「前條第二項」ニ、同條第三項中「前項ノ異議ハ」ヲ「前項ノ異議ノ申立アリタルトキハ組合ノ管理者ハ七日以内ニ」ニ改ム

第一百三十七條 町村ハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス

第一百三十八條中「郡長」ヲ「府縣知事」ニ改メ「府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ」ヲ削ル

第一百四十條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

決定書又ハ裁決書ノ交付ヲ受ケサル者ニ關シテハ前二項ノ期間ハ告示ノ

日ヨリ之ヲ起算ス

第一百四十條ノ二 異議ノ決定ハ本法中別ニ期間ヲ定メタルモノヲ除クノ外

其ノ決定ニ付セラレタル日ヨリ三月以内ニ之ヲ爲スヘシ

府縣參事會訴願ヲ受理シタルトキハ其ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ裁決スヘ

シ

第一百四十三條第一項及第二項中「郡長」ヲ「府縣知事」ニ改メ同條第三項中「府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ」ヲ削ル
第一百四十五條 町村條例ヲ設ケ又ハ改正セムトスルトキハ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第一百四十六條第四號中「手數料及加入金」ヲ削ル

第一百四十七條中「郡長」ヲ「府縣知事」ニ、同條中左ノ如ク改ム

一 町村條例ヲ廢止スル事

二 基本財產及特別基本財產並林野ノ處分ニ關スル事

五 手數料及加入金ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事

第一百五十條第一項中「又ハ郡長」ヲ、同條第四項中「郡長ノ處分ニ付テハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキ又ハ府縣知事ノ處分ニ付テハ」ヲ削ル

第一百五十二條 削除

第一百五十三條ノ二ヲ削ル

第一百五十六條ノ二 本法中官吏ニ關スル規定ハ待遇官吏ニ之ヲ適用ス

附 則

本法中公民權及議員選舉ニ關スル規定ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行シ其ノ他ノ規定ノ施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十八條ノ規定ニ依リ町村會ヲ設ケサル町村ニ付テハ本法ノ施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

次ノ總選舉ニ至ル迄ノ間從前ノ第十四條、第十七條、第十八條、第三十一條、第三十三條及第三十六條ノ規定ニ依リ難キ事項ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

本法ニ依リ初テ議員ヲ選舉スル場合ニ於テ必要ナル選舉人名簿ニ關シ第十條乃至第十八條ノ五ニ規定スル期日又ハ期間ニ依リ難キトキハ命令ヲ以テ別ニ其ノ期日又ハ期間ヲ定ム但シ其ノ選舉人名簿ハ次ノ選舉人名簿確定

迄其ノ效力ヲ有ス

本法施行ノ際大正十四年法律第四十七號衆議院議員選舉法未タ施行セラレナル場合ニ於テハ本法ノ適用ニ付テハ同法ハ既ニ施行セラレタルモノト看做ス
本法施行ノ際必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

北海道會法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正十五年三月十六日

衆議院議長 細谷義三

貴族院議長公爵徳川家達殿

(小字ハ衆議院ノ修正文、
ハ同削除ノ符號ナリ)

北海道會法中左ノ通改正ス

第一條第三項及第四項ヲ削ル

第三條 帝國臣民タル年齢二十五年以上ノ男子ニシテ二年以來北海道内ノ同一市町村内ニ住所ヲ有スル者ハ北海道會議員ノ選舉權及被選舉權ヲ有ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラス

一 禁治產者及準禁治產者

二 破產者ニシテ復權ヲ得サル者

三 貧困ニ因リ生活ノ爲公私ノ救助ヲ受ケ又ハ扶助ヲ受クル者

四 一定ノ住居ヲ有セサル者

五 六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

六 刑法第二編第一章、第三章、第九章、第十六章乃至第二十一章、第二十五章又ハ第三十六章乃至第三十九章ニ掲クル罪ヲ犯シ六年未満ノ懲役ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リ

タル後其ノ刑期ノ二倍ニ相當スル期間ヲ經過スルニ至ル迄ノ者但シ其ノ期間五年ヨリ短キトキハ五年トス

七年未滿ノ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ前號ニ掲クル罪以外ノ罪ヲ犯シ六年未滿ノ懲役ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

前項二年ノ期間ハ市町村ノ廢置分合又ハ境界變更ノ爲中斷セラルルコトナシ

第四條 陸海軍軍人ニシテ現役中ノ者（未タ入營セサル者及歸休下士官兵ヲ除ク）及戰時若ハ事變ニ際シ召集中ノ者ハ選舉權及被選舉權ヲ有セス兵籍ニ編入セラレタル學生生徒（勅令ヲ以テ定ムル者ヲ除ク）及志願ニ依リ國民軍ニ編入セラレタル者亦同シ

第五條 在職ノ檢事、警察官吏及收稅官吏ハ被選舉權ヲ有セス選舉事務ニ關係アル官吏及吏員ハ其關係區域内ニ於テ被選舉權ヲ有セス】

北海道廳官若ハ北海道地方費ニ對シ請負ヲ爲シ又ハ北海道地方費ニ於

テ費用ヲ負擔スル事業ニ付北海道廳長官若ハ其ノ委任ヲ受ケタル者ニ對

シ請負ヲ爲ス者及其ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員、取締役監查役若ハ之ニ準スヘキ者、清算人及支配人ハ被選舉權ヲ有セス

北海道廳ノ官吏及北海道地方費ノ有給ノ吏員其ノ他ノ職員ニシテ在職中

ノ者ハ北海道會議員ト相兼ヌルコトヲ得ス

衆議院議員ト相兼ヌルコトヲ得ス

第六條 北海道會議員ノ選舉ハ市ニ在リテハ市會議員選舉人名簿ニ依リ、

町村ニ在リテハ毎年九月十五日ノ現在ニ依リ町村長ノ調製スル選舉人名簿ニ依リ之ヲ行フ

町村制第十八條第二項、第十八條ノ二乃至第十八條ノ五ノ規定ハ前項町村ニ於ケル選舉人名簿ニ之ヲ進用ス

第七條 選舉長ハ北海道廳支廳長又ハ市長ヲ以テ之ニ充ツ

選舉長ハ選舉會ニ關スル事務ヲ擔任ス

選舉會ハ北海道廳支廳、市役所又ハ選舉長ノ指定シタル場所ニ之ヲ開ク】

選舉長ハ豫メ選舉會ノ場所及日時ヲ告示スヘシ

第九條 北海道參事會ハ議長及名譽職參事會員十二人ヲ以テ之ヲ組織ス

第十條 中左ノ如ク改ム

三 削除

第十四條 府縣制第五條、第八條、第十三條乃至第二十二條、第二十三條ノ二乃至第四十條、第四十二條乃至第六十四條、第六十六條、第六十七條、第六十九條乃至第七十四條、第八十二條乃至第八十七條、第一百二十七條乃至第一百二十九條、第一百三十條、第一百三十五條、第一百三十六條、其ノ第三十一條第七項第一百四十二條及第一百四十四條ノ規定ハ之ヲ準用ス但シ其ノ第七十三條中中府縣ニ對シ請負ヲ爲シタルハ北海道廳長官若ハ北海道地方費ニ對シ請負ヲ爲シタルハ本法第十條第二號トス第六十八條第二トアリハ本法第十條第二號トス

第十五條 削除

附 則

本法中議員選舉ニ關スル規定ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行シ其ノ他ノ規定ノ施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ニ依リ議員ヲ選舉スル場合ニ於テ必要ナル選舉人名簿ニ關シ第六條ノ規定ニ依リ難キトキハ命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

本法施行ノ際大正十四年法律第四十七號衆議院議員選舉法又ハ大正十五年府縣制中改正法律、市制中改正法律若ハ町村制中改正法律未タ施行セラレサル場合ニ於テハ本法ノ適用ニ付テハ同法ハ既ニ施行セラレタルモノト看做ス

本法施行ノ際必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

北海道地方費法中改正法律案
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正十五年三月十六日

衆議院議長 柏 谷 義 三

貴族院議長公爵徳川家達殿

北海道地方費法中左ノ通改正ス

第六條 削除

第八條第一項中「一戸長役場費及戸長以下給料旅費及諸給與」ヲ削リ同條
第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項ノ外公共事務ノ爲費目ノ増加ヲ要スルトキハ北海道會ノ議決ヲ經テ
北海道廳長官之ヲ定ム

第八條ノ三中「第百十二條」ノ下ニ「第百十四條」ヲ加ヘ「及第百三十二條
乃至第百三十六條」ヲ、「第百三十六條乃至第百三十六條、第百四十二條及
第一百四十四條」ニ改ム

第八條ノ四ヲ削ル

附 則

本法施行ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

水利組合法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正十五年三月十六日

衆議院議長 柏 谷 義 三

貴族院議長公爵徳川家達殿

水利組合法中左ノ通改正ス

第十條第一項中「郡長」及「郡長又ハ」ヲ削ル

第二十條第五項中「府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ」ヲ及同條
同項但書ヲ削ル

第二十一條第三項中「府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ」ヲ及同
條同項但書ヲ削ル

第三十三條中「郡長又ハ」ヲ削リ同條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ
但シ府縣知事必要アリト認ムルトキハ官吏ヲ指定シ組合ノ事務ヲ管理セ
シムルコトヲ得

第三十四條第一項中「郡長管理者タル場合ハ郡長ノ指定シタル郡書記」ヲ
「官吏管理者タル場合ハ府縣知事ノ指定シタル官吏又ハ府縣吏員」ニ改ム
第三十九條第三項中「前二項郡長ノ處分ニ不服アル組合會ハ府縣知事ニ訴
願シ其ノ裁決又ハ」ヲ、同條第五項中「府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服
アルトキハ」ヲ及同條同項但書ヲ削ル

第四十四條第一項中「郡長」ヲ「官吏」ニ、「郡書記」ヲ「官吏、府縣吏員」ニ改
ム

第五十條第四項中「府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ」ヲ及同條
同項但書ヲ削ル

第五十五條第二項中「府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ」ヲ及
同條同項但書ヲ削ル

第五十九條中「府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ」ヲ並同條第三
項但書及第四項但書ヲ削ル

第七十二條第一項ヲ左ノ如ク改ム

組合ハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ内務大臣之ヲ監督
項但書及第四項但書ヲ削ル

第七十六條第三項中「府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ」ヲ及
同條同項但書ヲ削ル

第八十一條第一項中「郡長」ヲ、同條第二項中「郡長ノ行ヒタル解職ニ不
服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決又ハ」ヲ削ル

本法ハ郡長廢止ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則

本法ハ郡長廢止ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行ノ際必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

徵發令中郡及郡長ニ關スル規定ノ適用ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正十五年三月十六日

貴族院議長公爵徳川家達殿

衆議院議長 柏 谷 義 三

徵發令中郡ニ關スル規定ハ町村ニ、郡長ニ關スル規定ハ町村長ニ之ヲ適用

附 則

本法ハ郡長廢止ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔國務大臣若規禮次郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(若規禮次郎君) 唯今日程ニ上ボツテ居リマス 地方制度ニ關シマシタ各種ノ改正法律案ニ付テ、提出ノ理由ヲ申上ゲタイト思ヒマス、時勢ノ進運ニ伴ヒマシテ、國民ノ政治思想モ亦著シク發達イタシタノデアリマス、殊ニ地方行政ニ於キマシテ自治制施行以來數十年ノ訓練ト經驗トヲ積ミマシテ、其發達誠ニ顯著ナルモノガアルノデアリマス、依テ政府ハ、此際市制、町村制、府縣制等ノ地方制度ニ關スル諸法律ヲ改正シ、益、公民自治ノ途ヲ擴メマシテ、又地方自治權ノ擴張ヲ圖ル等、以テ制度ノ整備ヲ期セムト致シタノデアリマス、而シテ今回提出イタシマシタ地方制度ニ關スル各種改正法律案ノ内容ニ付テ、其重ナルモノヲ要約シテ申上ゲマスト云フト、第一ハ地方議會ノ選舉權及被選舉權ノ擴張ニアリマス、第二ハ選舉方法ノ改善ニアリマス、第三ハ自治機關ノ整齊ニアリマス、第四ハ地方自治權ノ擴張等ノ大體ノ事柄ニ歸シテ居ル次第ニアリマス、ソレ故ニ唯今申上ゲタ四項目ニ付テ、簡單ニ要項ヲ説明申上ゲヤウト思ヒマス、第一ハ選舉權及被選舉權ノ擴張ニアリマス、選舉權ハ市町村ニ於キマシテハ市町村公民ノ享有スル所ニアリマスカラシテ、改正案ハ、公民權ヲ得ベキ要件中カラ、獨立ノ生計及納稅資格ノ二要件ヲ撤廢イタシタノデアリマス、又府縣ニ於キマシテハ、府縣會議員選舉權ノ要件中カラ、直接國稅ノ納稅ヲスルト云フ資格ヲ撤廢セントスルノデ

アリマス、思フニ、既ニ改正衆議院議員選舉法ガ普通選舉制ニ依リマシタノニ拘ラズ、地方制度ニ於キマシテ、尙ホ單リ特定ノ納稅要件又ハ經濟要件ヲ以テ選舉資格ヲ制限セムト致シマスコトハ、適當デアルマイト考ヘルノデアリマス、殊ニ公民自治ノ理想ハ、自治體ヲ構成スル、成ルベク多數ノ者ニ對シテ、其事務ニ參與スルノ機會ヲ與ヘテ、相倚リ相扶ケテ自治ノ進展ヲ期セシムルニアル次第ニアリマス、故ニ改正案ハ改正衆議院議員選舉方法ニ準ジマシテ、特定ノ缺格條項ニ當ル者ヲ除クノ外ハ、市町村ニアリマシテハ、帝國臣民タル年齡廿五年以上ノ男子ニシテ二年以來市町村内ニ住所ヲ有スル者ハ、總テ其市町村公民タルモノト致シタノデアリマス、又府縣ニアリマシテハ、市町村公民タル者ニ對シテ、總テ府縣會議員選舉權ヲ付與スルコト致シタノデアリマス、斯ノ如クシテ、改正案ニ依リマス所ノ市町村公民ノ數ハ、約千二百五十二万餘人ニナリマシテ、現行法ニ依リマス所ノ市町村公民數ハ約七百八十二万餘人デアリマスガ、之ニ比較シテ見マスト約六割ノ增加トナルノデアリマス、又府縣會議員選舉有權者ハ、現行法ニ依リマスト約五百二十九萬餘人デアリマスガ、此度ハ千二百五十二万餘人ニナル次第ニアリマス故ニ、約十三割餘ヲ增加スルコトニナルノデアリマス、被選舉權ニ付キマシテハ、市村町及府縣ヲ通ジマシテ、衆議院議員選舉法改正ノ趣旨ニ鑑ミマシテ、神官、神職、僧侶其他諸宗ノ教師及小學校教員ニ對スル被選舉權ノ制限ヲ撤廢イタシタノデアリマス、且市町村ニアリマシテハ、其所屬府縣ノ官吏及有給吏員並ニ市町村ノ有給吏員ニ對シマシテ、又府縣ニアリマシテハ、其府縣ノ官吏及有給吏員ニ對シマシテ、被選舉權ノ制限ヲ撤廢シテ、被選舉資格ノ自由ヲ擴張イタスト共ニ、一面選舉事務ニ關係ノ有ル官吏吏員ハ其關係區域内ニ於テダケハ被選舉權ヲ持タシメナイコトニ致シマシテ、以テ選舉執行ノ公正ヲ期シタノデアリマス、尙又、當該市町村又ハ府縣ト密接ナ關係ヲ持ツテ居リマス所ノ特定ノ官吏、吏員等ニ對シマシテハ、議員ト兼職ヲ禁ジマシテ、以テ地方議會ニ於ケル議事ノ公正ヲ期スルコトト致シタノデアリマス、第二ハ選舉方法ヲ改善スルコトデアリマス、選舉方法ニ關シマシテハ、選舉ノ公正的確トヲ期スルガ爲ニ、種々ノ點ニ於テ必要ナル改正ヲ行ハムトシタノデアリマス、其第一ハ、市町村ニ於ケル等級選舉ノ制ヲ撤廢シタルコトニ存シテ居ルノデアリマス、蓋シ納稅額ノ多寡ニ依ツテ選舉權ノ效力ニ差等ヲ設ケマスガ如キハ、決シテ適當ナル事柄ト認メルコトガ出來ヌノデアリマス、加之

從來ノ實蹟ニ徵シテ見マシテ、等級選舉制ヲ存續スルノ必要ガナイヤウデアリマス、殊ニ本改正案ニ於キマシテハ、選舉資格中カラ納稅要件ヲ撤廢シタノデアリマスガ故ニ、等級選舉ヲ認ムベキ基礎モ亦消滅シタ次第デアリマス故ニ、此際等級選舉制ヲ全ク撤廢スルコト致シタノデアリマス、次ニ改正案ハ、府縣會議員選舉ニ關シマシテ、選舉區ヲ分ッテ更ニ數選舉區ヲ設ケ得ル所ノ現在ノ選舉分區制ト云フモノヲ廢シタノデアリマス、蓋シ府縣會議員選舉ニアリマシテモ、選舉區ガ餘リニ狹小ニナリマスコトハ、選舉ノ實際ニ鑑ミマシテ、適當ト認メ難イノデアリマスガ故ニ、之ヲ郡市ノ區域ニ依ラシメルコト致シタノデアリマス、選舉ノ人名簿ニ關シマシテハ、市町村會議員選舉人名簿ノ隨時名簿主義ヲ改メマシテ、之ヲ定時名簿ト致シマスト共ニ、府縣會議員選舉ニ關シマシテハ、別ニ名簿ヲ調製イタシマセヌデ、市町村會議員ノ選舉人名簿ニ依リテ之ヲ行フココト致シタノデアリマス、惟フニ、市町村會議員選舉人名簿ヲ定時名簿トナシマシタ理由ハ、選舉人ノ增加ニ伴ヒマシテ、正確ナ名簿ヲ調製スルノ必要ガアルノデアリマス、且ツ補闕選舉ノ主義ヲ改メマシタ結果ニ對應スルモノデアルト云フコトハ、勿論デアルノデアリマスケレドモ、尙ホ一面ニ於キマシテ、府縣制ノ改正ニ依リテ、市町村公民ニハ總て府縣會議員ノ選舉權ヲ付與スルコト致シマシタ故ニ、各市町村ニ於ケル名簿調製期日ヲ一致セシムルコトニ於テハ、從來ノ如ク府縣ニ於テ更ニ名簿調製ヲ致ス必要ガナインデアリマシテ、一ツノ名簿ヲ以テ二種ノ議員選舉ヲ執行スルコトガ出來ルノデアリマス、之ニ依リテ手續ノ重複ヲ避ケ得ルノミナラズ、改正衆議院議員選舉法ニ依ル選舉權ト本改正案ニ依ル市町村公民權トハ、僅ニ住所ノ制限ヲ異ニスルニ過ギナインデアリマスガ故ニ、名簿調製期日ヲ一定スルニ於キマシテハ、更ニ手續ヲ省略シ得ルコトガ少ナクナインデアリマス、斯ノ如クシテ名簿調査上ニ事務簡捷ヲ圖リ得タコトガ、又尠少ナラザルコト信ジテ居ル次第デアリマス、府縣會議員選舉竝ニ勅令ヲ以テ指定スル市及區ノ議員選舉ニ關シマシテハ、改正衆議院議員選舉法ニ徵ヒマシテ、議員候補者制度ヲ設ケ、且ツ選舉運動及選舉運動ノ費用ニ關スル規定及公立學校其他公共營造物使用ニ關スル規定ヲ設ケマシタ、蓋シ是等ノ議員選舉ニアリマシテハ、其選舉競爭ガ相當激甚デアリマスガ故ニ、選舉ノ真摯ヲ運動ノ取締及選舉運動ノ費用ヲ制限スルコト等ニ依リマシテ、選舉ノ公正ヲ

期スルノ必要ガアルト認メタノデアリマス、而シテ一般市町村ニ付テモ亦、選舉運動ヲ全然放任イタシマスコトハ適當デナインデアリマスガ故ニ、戶別訪問其他ニ必要ナル制限ヲ加ヘルコトニ致シタノデアリマス、其他市町村ニ付キマシテハ、補闕選舉ニ關スル從來ノ制度ヲ改メテ、議員ガ關員トナリマシタ時ヨリ三箇月以内ニ補闕選舉ヲ行フノ原則ヲ立テマスト共ニ、一面ニ於キマシテハ市町村府縣ヲ通ジテ、補闕選舉又ハ再選舉ヲ行フベキ事由ガ、議員ノ任期滿了前六箇月以内ニ生ジマシタ時ハ、特別ノ法定事由ノアリマス場合ヲ除クノ外ハ、選舉ヲ行ハスデ宜イト云フ便法ヲ定メムトシテ居ルノデアリマス、蓋シ斯カル際にキマシテハ、特ニ支障ナキ限り、選舉ヲ行ヒマセヌデモ、自治體ノ意思決定ニ大ナル差支ガナカルベキ次第デアルカラ、斯様ニ改正ヲ致サムトスルノデアリマス、更ニ改正案ハ、假投票、點字投票ノ方法ヲ設ケマスコトノ外、諸規定ノ改正ヲ行ヒマシテ、以テ選舉權ノ行使及選舉ノ執行ニ遺憾ナカラシメムコトヲ期シタノデアリマス、第三ハ自治機關ノ整齊デアリマス、現行制度ニ於キマシテハ、名譽職員參事會員ハ議員ノ任期ヲ以テ其任期ト致シテ居リマシテ、名譽職員參事會員ハ毎年之ヲ選舉スルコトニ相成ツテ居リマスガ、前ノ者ニ付キマシテハ任期ノ短縮ヲ希望スル者ガ少ナクナイト同時ニ、後ノ者ニ付キマシテハ相當任期ヲ延長スルノ必要アルト認メテ居ルノデアリマス、依テ改正案ハ兩者ノ中庸ヲ採リマシテ、名譽職員參事會員ハ市及府縣トモ、隔年ノヲ選舉スルコト致シタノデアリマス、又參事會ノ職務權限中、府縣會又ハ市會ニ提出イタシマスル議案ノ審查ヲスルト云フ權限ハ、實際上ノ效果ガ乏シイノミデハアリマセズ、却テ事務滯滯ノ原因トナルコトガ少ナクナインデアリマス、故ニ參事會ノ議案審查權ハ之ヲ廢止スルコトニ致シタノデアリマス、次ニ市町村ニ於テハ、市參與、名譽職、區長、委員等ハ之ヲ市町村會ニ於テ選舉スルノ制度デアリマスケレドモ、是等ノ機關ハ何レモ市町村長ノ補助機關デアリマス故ニ、改正案ニ於キマシテニ改メムトスルノデアリマス、第四ハ地方自治權ノ擴張デアリマス、地方自治權……殊ニ市町村自治權ノ擴張ハ、今回ノ地方制度ニ關スル改正法律案ニハ、市町村長ノ推薦ニ依リテ市町村會ガ、之ヲ定ムベキモノノツヅアリマス、惟フニ地方團體ノ自治權ハ、國民ノ自治ニ關スル練達習熟ノ進度ニ伴ヒマシテ、益々之ヲ擴張スルコトガ必要デアラウト存ジマス、殊ニ自治監督ニ於キマシテ、制度

創設ノ際ニ當リマシテハ、官ノ補導監督モ亦、相當嚴密、且ツ精細ニ涉ルコト
ヲ要シマシタケレドモ、既ニ數十年ノ訓練ヲ經マシタノニ、尙ホ且ツ舊制ノ
如ク些細ノコトニ至ル迄監督ヲ致スヤウニ致シマスルコトハ、却テ自治體ノ
自立獨行ノ意義ヲ阻害イタシテ、真正ナル自治ノ發達ヲ期スル所以デナカラ
ウト思フノデアリマス、政府ハ從來ニ於ケル地方自治ノ實蹟ニ徵シマシテ、
郡長ヲ廢シテ町村監督事務ノ簡捷ヲ圖リマスト共ニ、地方制度改正法律案ニ
於キマシテモ、諸般ノ許可、認可等二十數項ヲ整理イタシマシテ、以テ地方
自治權ヲ擴張シ、且ツ事務簡捷ヲ圖ラムトシタ次第デアリマス、以上ハ市制
町村制及府縣制中改正法律案ノ要項デアリマスガ、北海道會法及北海道地方
費法ニ關シマシテハ、北海道會議員選舉權及被選舉權ヲ、府縣會議員選舉權
及被選舉權ニ準ジテ擴張ヲ致シマシタシ、又北海道地方費ニ於ケル公共事務
ノ種目增加ニ關スル許可ヲ廢スルノ外、概不府縣制改正ニ伴ヒマシテ、各法
條ノ改正ヲ行ナツタノデアリマス、以上各種ノ改正法律案ハ、最モ時運ノ趨勢
ニ適合シ、之ニ依リ益々地方自治ノ發達ニ資スルコトアラムコトヲ期シタ爲
ニ、改正ヲ致サムトスルノデアリマス、最後ニ水利組合法ヲ改正イタシマス
ノハ、郡長廢止ニ伴フ結果デアリマシテ、就中組合管理者ニハ、府縣知事ニ
於テ關係地ノ市町村長ノ一人ヲ指定スルヲ以テ原則ト致シマシテ、特ニ必要
アル場合ニ於テハ、官吏ヲ指定シテ組合事務ヲ管理セシムルノ途ヲ開キマシ
タ外、同法中郡長ノ行ヒマス監督規定、其他郡長ニ關スル規定ヲ改正イタシ
タノデアリマス、唯今マデ申述ベマシタノガ、今回政府ノ提案ニ係ル地方制度
ニ關スル各種改正法律案ニ付テ説明シタ所デアリマスガ、衆議院ニ於キマシ
テハ、府縣參事會ノ組織ノ變更、町村會ノ組織ノ變更、及市町村長ノ就職ニ關
題ニナツテ居リマス所ノ、徵發令中郡及郡長ニ關スル規定ノ適用ニ關スル法
律案ト云フノモ、是モ亦郡長ヲ廢止イタシマス爲ニ、是マデ郡及郡長ニ於テ
修正ニ付テハ、大體支障ノナイモノト認メテ居ルノデアリマス、尙ホ唯今問
題ニナツテ居リマス所ノ、徵發令中郡及郡長ニ關スル規定ノ適用ニ關スル法
律案ト云フノモ、是モ亦郡長ヲ廢止イタシマス爲ニ、是マデ郡及郡長ニ於テ
取扱テ居リマシタ所ヲ外ニ移ス必要ガアリマシテ、郡長廢止ニ伴ツテ改正ヲ
要スル法律トシテ、茲ニ協賛ヲ仰グ次第デアリマス、以上ノ如キ趣旨ニ依ツ
テ、一ツハ地方制度ノ改正ノ爲ニ、一ツハ郡長廢止ノ結果ヲ受ケテ、此改正
ヲ要スル次第デアリマス故ニ、御審議ノ上御協賛ヲ與ヘラレムコトヲ、切望

「阪本釤之助君演壇ニ登ル」

○阪本鉄之助君 唯今上程イタサレマシタ諸案ハ、地方自治體ノ法制トシテ
重大ナ關係ノアル諸案デアリマシテ、唯今内務大臣ヨリ縷々御説明ガアリマ
シテ拜承イタシタ次第デアリマス、此各案ノ内容ヲ一讀イタシマスルト、種々
ナル改正ガアルノデアリマスガ、唯今御説明ノ通り、或ハ參事會員ノ任期ヲ延
ベルトカ、或ハ選舉ノ方デ申シマスレバ戸別訪問ヲ禁ズルトカ云フヤウナ、大
體ノ基礎ニ於テ、サシタル影響ヲ受ケルト認メマスル箇條ハ少ナインデアリ
マシテ、此點ニ付テ一々質疑應答ヲ致スト云フコトノ煩ハ避ケタイト存ジマ
スルガ、私共默セムトシテ默スル能ハザルモノハ、此選舉被選舉權ノ擴張デア
ルノデアリマスルガ、國ノ選舉法ハ既ニ法律ガ決定イタシテ、所謂普選ナルモ
ノガ行ハレルコトニナツテ居ル、國ガ普選ヲ行フカラ府縣以下ノ自治團體モ普
選デナケレバナラスト云フ理窟ハ、私共ハドウシテモ發見スルコトハ出來ナ
イノデアリマス、國ハ國、國ト云フモノハ廣イモノデアリマシテ、其廣イ所ノ
各地方ヨリ普選ヲ以テ選良ガ舉ガッテ來ルト云フコトハ、見様ニ依ツテハ至極
結構ナコトデアルト存ジマスシ、又既ニ今日ハ國論一定イタシテ居ルコトデ、
彼是申ス時機デハナイノデアリマスガ、府縣以下ノ自治團體ニ至ツテハ、國ト
ハ趣ヲ異ニスルノデアリマス、併ナガラ府縣ト云フモノモ可ナリ大キイモノ
デアリマシテ、一局部ニ局在イタシテ居ルモノデアリマセヌカラ、府縣ノ…
府縣會ノ議員ノ選舉被選舉權ニ付キマシテハ、私共有リ体ニ申セバ、餘り感服
ハ致シマセヌケレドモ、暫ク政府ノ御希望ニ副ヘルトシマシテ、市ト申シテモ
ヨリ大キナ市モアルノデアリマスカラ、是等ニ向ツテハ、府縣ヲ認メルトスレ
バ、市モ暫ク讓ツテモ宜イカト思ヒマスガ、町村ニ至ツテハ、私共ドウシテモ見
デアリマシテ、逃スコトハ出來ナイ、町村ハ元來此町村制ヲ實施セラレル初メニ於テ、御詔勅
ノ趣モアリマス、隣保相助クルト云フコトガ主ニナツテ居リマシテ、昔ノ即チ
村寄合、即チ膝突キデ、茶ヲ啜リ煙草ヲ喫ミナガラ村ノ相談ヲスルト云フコ
トガ、町村會マデガ、議長、何番ト云フ譯デヤルコトニナツテシマツ
タノデ、兎角僅ナ經費ヲ議シ、町村會ノ自治團體ノ、極ク細カナ温カナル會
云フ一つノ御手本ガ出來、府縣會ガ又之ニ學ビ、或ハ郡會ノアリマスル當時
ハ郡會ガヤリ、町村會マデガ、議長、何番ト云フ譯デヤルコトニナツテシマツ

妙ナ經費ノ節減ヲシテ見ルトカ云フヤウナコトデ、帝國議會ノ模倣ヲスルト云フヤウナ風ガ、各地方ニ行ハレテ居ルト云フコトハ、私共ノ甚ダ痛歎シテ已マヌ所デアルノデアリマス、然ルニ此度ノ改正ハ、尙ホ更ニ進ンデ、セメテ今日マデハ獨立ノ生計ヲ營ムモノ若クハニ一年以上町村ノ負擔ヲ頒ツテ居ル者ト云フニツノ條件ガアリマシテ、是デ幾分カ其町村會議員ト云フモノノ、階級ト申スト此節ハ非常ニ評判ノ惡イ言葉デアリマスガ、何ト申シテ宜シイカ、資格ガ備ハツテ居タノデ、ソレヲ此度ハ改正ヲ致シテ、全ク普通選舉ニシタイト云フノデアリマス、唯二年以上町村ニ居住シテ居ツタト云フコトガ、一ツ條件ニナツテ居リマスルケレドモ、二年サヘ其村ニ居リマスレバ、二十五歳以上ノ男子デアレバ、皆公氏デアルト云フコトニナルノデアリマスガ、隨分近頃ハ村落ニモ工場ナドガ出來テ居リマスルガ、工場ナドノ若シ有リマスル所デアリマスレバ、工場ニ入込ンデ居ル所ノ他府縣ノ壯丁デモ、女房モ持タナケレバ家モ持タヌ、ソコラニ轉ガツテ居ル人デモ、二十五歳以上ノ人デアレバ選舉權被選舉權ヲ持ツノデアル、又サモナクテモ、山間僻地ノ村落ニ至リマシテモ、是迄ハ免ニ角獨立ノ生計ヲ營ンデ、一家ノ戸主デアルカ若クハニタナケレバ家モ持タヌ、ソコラニ轉ガツテ居ルト云フ、マア免ニ角其村へ落付イテ居ル人、可ナリ資格ノ、大シタコトデハゴザイマセヌケレドモ、可ナリノマア村民町民トシテ資格ヲ備ヘテ居ル人デアツタノデアリマスガ、今度ハサウ云フ年以上町村ノ負擔ヲ幾分デモシテ居ルト云フ、マア免ニ角其村へ落付イテ居ルニ矢張リ市部會、郡部會ト云フモノヲ置イテ、知事モ矢張リ市長ト同様ノ仕事ヲ爲シ得ル、此事實ノ制度ヲ此度モヤハリ御改正ニナラヌト云フコトハ、ソレガ盛ニ選舉ヲ争ヒ、サウ云フ人達ガ非常ニヤレバ、モウ田舎ノ眞面目ナ百姓ナドハ、面倒デアリマスカラ引込ンデ仕舞ツテ居ル、ツマリ町村會ナドト云フモノモ、サウ云フ人ミノ占ムル所トナツテ、ソレガ村長モ舉ゲル、町長モ舉ゲル、無論此自治制ヲ初メテ布カレタ時ノ豫期シタ時ノ町村會ノ甘味ト云フモノハ、全ク根絶シテシマフト云フコトニナルノデアラウト、私共ハ杞憂ヲ懷クノデアリマス、免角風潮ト云フモノハ恐ロシイモノデアリマシテ、普通選舉法カ國家ニ行ハレタ、今度ハ府縣會ヲヤル、市會ヲヤル、町村會モ是非テ居リハセヌデアラウカ、政府ハ種々審議ヲ致シテ發案セラレタノデアリマスカラ、オ前ノ言フコトハ尤モダトハ仰シヤリスマイケレドモ、此邊ハドウ云フ風ニ御審議ニナツテ、ドウシテモ町村會マデモ一律ニヤラナケレバナラ

ヌト云フ、此趣旨ノ在ル所ヲ、私共會得ノ出來ルヤウニ、一ツ承ツテ見タイト思フノデアリマス、次デ各案ノ中ノ條文ノ澤山改正ノアリマスルノハ、多ク郡長廢止ノ結果ヨリ生ズル、唯郡長ト云フ字ガ御嫌ヒデ、之ヲ御取リニナラウト云フコトニ過ギヌノデ、此郡長廢止ノ問題ハ、政府ノ所見ト私共全然所見ヲ異ニスルモノデアリマスカラ、茲ニ御質問ヲ申ス必要モナイ、此事ニ付テハ御質問ヲセヌカラ意見ガ無イト云フノデヤナイ、寧ロ意見ガ有リ過ギルカラ御質問ヲシナインデアリマス、唯町村會ノコトニ向ツテ一ツ十分ニ御考慮ヲ仰ギ、又御答辯モ承ツテ見タイト思フノデアリマス、尙ホ府縣制以下市制町村制ニ、免ニ角條文ノ上カラ申シマスルト、多クノ改善ヲ加ヘラルルノデアリマスルノニ拘ラズ、私共多年唱道ヲ致シテ、復タ阪本ガ之ヲ持出シタト御笑ヒニナルカモ知レマセヌガ、斯ノ如ク種々ナル改正ヲ行ハレ、殊ニ郡長マデモ廢シテ事務ノ簡捷ヲ圖リ、自治ノ發達ヲ圖ルト仰シヤツテ居ル下ニ、告朔ノ餼羊タル、此五六ノ府縣ニ、郡部會市部會ト云フモノヲ存置シテ置カレルト云フノハ、ドウ云フ次第デアリマスカ、知事ト町村長トノ間ニ郡長ヲ取ツテ、事務ノ簡捷ヲ圖リ、經費ノ節減ヲ圖ルト仰シヤル程ノ政府デアレバ、市長ト云フモノガ存シテ居ツテ、市ノ仕事ハ市長ニヤラセレバ十分出來ルノデアル、然ドウ云フコトデアリマセウカ、現ニ大阪府ノ如キハ、自ラ悟ル所ガアツテ、既ニ市部會、郡部會ト云フモノヲ廢シテ、一ツノ大阪府會ニ於テ府ノ經濟ヲ議スルコトニナツタト承ツテ居リマス、アノ大都市ノ發達ノ盛ンナル大阪府ガ、ソレガ盛ニ選舉ヲ争ヒ、サウ云フ人達ガ非常ニヤレバ、モウ田舎ノ眞面目ナ百姓ナドハ、面倒デアリマスカラ引込ンデ仕舞ツテ居ル、ツマリ町村會ナドト市ト云ヒ、横濱市ト云ヒ、皆是ハ差支ナイト思フ、然ルニ相變ラズ此大阪ヲ除クノ外ノ六都市ニ於テハ、他ノ府縣ニハ無イコトデアリマスガ、六都市ニ於テハ、知事ガ市部會ト云フモノヲ持チ、郡部會ト云フモノヲ持チ、市部、郡部、必要ナル所ノモノニ於テ見解ヲ異ニシ、其市部縣會ト云フモノニナルト、市長ノヤルコトト同ジコトヲスル、近頃幸ニ大キナ都市ニナルト、土木ノコトダケハ大抵市長ガヤルコトニナリマシタケレドモ、マダサウ云フ所デテ居リハセヌデアラウカ、政府ハ種々審議ヲ致シテ發案セラレタノデアリマスモ、衛生ノ事デモ、市長ガ一面ニヤツテ居ルカト思フト、効キ手ノ知事ガ居リマスト、市長ト同ジヤウナコトヲヤル、齊シク府縣民ノ幸福ニハナルカ知

レマセヌガ、其代リ重複ニ仕事ヲサレル爲ニ、重複ニ費用ヲ賦課サレルト云
フコトハ免レス、必要ナラバ一人ノ人ガヤツタラ宜シイ、二人ノ人ガ同ジ性質
ノ仕事ヲ分ケテヤルト云フコトハ、即チ不經濟ノ原因ニナルノデアリマシテ、
是ハ早ク御取除ケニナツタラ宜カラウト存ジマスルガ、府縣制中ノ僅ニ一箇條
デアル、其一箇條ヲ御除ケニナレバ、此制度ハ消滅スルノデアリマス、之ニ
附隨シタ勅令ガ一ツ出テ居リマスガ、此勅令ト府縣制中ノ一箇條ダケヲ御取
リニナレバ、何等差支ナクイケルモノト思ヒマスガ、ドウモ差支ヘルヤウナ
氣ガスル、府縣知事ニ聽イテ見ルト、マダ有ル方ガ便利ダト云フヤウナコト
ノ、イツモ御答辯ヲ得ルノデアリマスガ、府縣知事ハ自分ノ仕事ガ減ルノデ
アルカラ、先ヅ／＼有ツタ方ガ宜イ、市ノ仕事ハ一切市長ニ取ラレテ仕舞フト
云フコトニナルト、心寂シイ、田舎ノ知事サンノヤウニ見エルカラ、市ノ仕
事モヤリタイト云フコトハ、是ハ人情ノ免レザル所デアラウト存ジマスケレ
ドモ、政府ハ、私共カラ見レバ非常ニ必要ト認ムル郡長サヘモ、取ッテ除ケヤ
ウトナサル御勇氣ガアルナラバ、先以テ是等ノ事ハ御改正ニナルベキ害ト存
ジマスルガ、一向手ガ着イテ居ラヌカ、相變ラズ屢承ル通リナ御答辯デアリ
マセウカト云フコトヲ伺ッテ見タイ、モウ一ツハ東京都制ノ問題デアリマスル
ガ、他ニ於テモ質問ガアッテ、内務大臣ハ考慮中デアルト御答ニナツタコトモ
記憶イタシテ居リマスガ、是ハ寧ロ政府ト云フヨリハ、東京市ノ態度ト云フ
モノガ私ハサバリ分ラナイ、東京市民ヲ代表スル所ノ市會、又ハ市會ノ中ニ
モ委員ナドガ出來テ居ルヤウデアリマスガ、昨年ノ五十議會モ末期ノ、僅カ
閉會ノ十日カソコラ前ニ、急ニ運動ニヤツテ來ラレテ、會期中ニ一ツ發案シテ
貰ハヌト困ル、セメテ斯ウ云フ簡單ノ案ナリト出シテ、早ク……二重監督ハ
困ル、直チニ内務大臣ノ支配ヲ受ケテ、自治ノ完全ヲ期シタイト云フコトヲ、
會期ノ仕舞口ニ言ツテ來テ、頻リニ運動サレテ居リマシタガ、果シテ會期ガ
迫ツテ居リマスカラ、其事ハ行ハレズニ濟ンダノデアリマス、今年ハ政府モ豫
テ調査サレテ居ル所ノ、眞ノ東京都制案ト云フモノガ成案ガ出來テ、ソレド
審査ヲセラレテ、最早政府デハ案ハ整ツテ居ルト云フコトヲ傳聞イタシテ居
ルノデアリマス、所ガ其内容ヲ見ルト、長官ハ、即チ都長官ハ官吏デアッテ、
而シテ都長官ノ官吏ガ宜イカ惡イカト云フコトハ、大ニ考慮ヲ要スル問題カ
ト存ジマスルガ、之ニ準ジテ助役モ、甚シキハ局長マデモ、官吏ニシャウト
云フ案デアルカノヤウニ承ツテ居リマスガ、是ハ實ニ驚キ入ツタ案ト存ジマス

ルガ、併シ是ハ貴衆兩院へ御出シニナレバ、宜シク兩院ノ議員ハ適當ト認メ
ル所ノ決議ヲスルデアリマセウカラ、ソレデ宜シイノデアル、所ガ是ハ唯傳聞デスカラ分リマセヌガ、
サヘシテ下サレバ宜シイノデアル、所ガ是ハ唯傳聞デスカラ分リマセヌガ、
リニナレバ、或ハドウモ局長マデガ勅任官ニナツテモ困ル、又區域ノ問題ニ付テ
喰ハヌ、或ハドウモ局長マデガ勅任官ニナツテモ困ル、又區域ノ問題ニ付テ
モ、三多摩郡ガ這入ルノガ宜イトカ惡イトカ、或ハ伊豆七島小笠原マデ這入ル
トハ驚クチヤナイカ、ト云フヤウナコトヲ批評シテ居ツテ、案其モノヲ政府ガ
早ク出スカ出サヌカト云フコトニ付テハ、餘リ御盡力ヲ爲サラヌヤウニ思フ、
ソレガ直グ決ツテシマフモノナラバ、ソレハ餘程考ヘナケレバナラヌガ、貴衆
兩院ト云フモノガアッテ、輿論ノアル所ニ依ツテ決議スルノデアリマス、東京
市ノ方ミガ、若シソレガ氣ニ入ラスト云フコトデアレバ、相當ニ貴衆兩院ノ
考慮ヲ求メレバ出來ルコトデアル、然ルニソレヲ氣ニシテ、政府ガ出サナイ
ノヲ矢張リズット見テルト云フコトハ、ドウ云フコトデアレカ、五十一議會モ
當ニモウ數日ニ過ギマセヌ、昨年ノ通リ或ハ近ク御運動が始マルカモ知レマ
セヌ、政府モ何ダカ今度政府ノ面目上是非出スノダト仰シヤツタト云フコト
デアルガ、昨日ノ新聞デ見マシタガ、何ガ政府ノ面目デアルカ、出來テ居ル
案ナラバサササト御出シニナツタラ宜カラウト思フ、矢張リ政府モ東京市ノ聲
ヲ見テ居ラツシヤルノデアルカ、如何ニモ又三多摩郡ハ驚キマスガ、小笠原、
伊豆七島マデ東京市ト云フ中ニ這入ルト云フコトニ至ツテハ、餘リニドウモ細
工過ギタ話デ、到底御同意ノ出來ルコトデアリマセヌガ、御同意出來ルカ出
來スカハ貴衆兩院ノ考ニアルコトデアリマス、折角出來テ居ルナラバ、早ク
節減ト云フモノニ、十分ニ是ハ效果ノアルコトデアリマスカラ、御ヤリナサ
タラ宜カラウト思フ、何故ニ御躊躇ニナツテ居ルカト云フコトヲ承ツテ見タイ
ノデアリマス

〔國務大臣若槻禮次郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(若槻禮次郎君)町村會議員ノ選舉、被選舉權ノ擴張ニ付テ、阪
本君ハ御質問ニナリマシタガ、是ハ先程申上ゲマシタ通り、自治體ノ組成分
而シテ都長官ノ官吏ガ宜イカ惡イカト云フコトハ、大ニ考慮ヲ要スル問題カ
ト存ジマスルガ、之ニ準ジテ助役モ、甚シキハ局長マデモ、官吏ニシャウト思ハ
ル分子ガ皆寄ツテ之ヲ實行スルト云フ風ニナルノガ、是ガ理想デアリマシテモ、何時デモ左様ニスルコトハ出

來ヌノデアリマス、ソレニハ自治體ノ組成分子ハ皆相當ニ訓練ヲ積ンデ來テ、サウシテ相當ニ智能ガ發達シテ、其事務ニ參與シテモ事ヲ誤ラナイヤウニナラナケレバナラヌノデアリマス、今日マデ選舉權、被選舉權ガ制限セラレテ居ツタノハ、マダソコマデニ至ラシムルノニハ早イト云フ意味デアッタラウト存ジマスガ、今日ノ状況ニ於テハ、可ナリ自治體ノ事柄ニ練熟シテ參ッタト云ツテ宜シカラウト思ヒマス、自治制ヲ布カレテカラ既ニ四十年ニ垂ントシテ居ルト云フ状況デアリマスカラ、其ノ間可ナリニ訓練ハ出來テ居ツテ、而シテ一般ノ人智ノ發達ハ私申上ゲルニ及バズ、自治制ノ施行ノ時ニ比べテ見レバ、今日ハ餘程進ンデ居ルノデアリマス、ソレデアリマス故ニ、選舉權、被選舉權ノ制限ハ追ミ之ヲ撤廢シテ、權利ノ享有ヲ廣クスルヤウニ至ラシムル方ガ相當デアラウト思ハレルノデアリマス、市町村ニ於テハ先年法律ノ改正ガアツテ、國稅ヲ納メテ居ラナケレバ選舉權ガ無イトシテアッタモノガ、今日ハ市町村ノ負擔ヲシテ居ル者ハ皆公民デアリ、選舉權ガ有ルト云フコトニナッタノデアリマス、市町村ノ負擔ト申シマスト、今日ハ戸數割ノ如キモノヲ負担スルノハ、殆ド市町村民ノ全部、戸數割ヲ負擔シテ居ルト云フヤウニナッテ居ルノデアリマス、此ノ一戸ヲ構ヘテ居ル者ハソレデアリマシテ、今日ノ市町會ノ議員ノ選舉資格ヲ有ツテ居リマス……一戸構ヘテ居ル者ハ殆ド皆資格ガ有ルト申上ゲテ宜イノデアリマス、昨年各地方ニ於テ、新シキ改正案ニ依テ市町村會議員ノ改選ガアッタノデアリマスガ、其選舉ノ實蹟ナドヲ見マスト云フト、一向惡イ結果ハ呈シテ居ナイト認メラルル状況デアリマス、左様ナ次第デ、選舉權ガ大ニ擴張セラレテ、現在ノ如クナリマシテ、ソレニ依ツテ行ハレタ選舉ノ結果ガ至極良好デアルト云フコトデアリマスナラバ、之ヲ六割程増加シテ、凡ソ年齢二十五年以上ニナツテ居ル男子ナラバ、選舉權ヲ行ハシメテ宜シト云フコトニシタカラト云ツテ、阪本君ノ御憂慮ニナルヤウナ、町村ガ極ク和協的ニ自治ノ事ヲ決定シテ行クト云フコトヲ妨グルコトニハナラメト思フノデアリマス、衆議院議員ノ選舉法ニ於テ普通選舉ノ制度ヲ採ッタメテ、必ズ地方制度ニハサウセナケレバナラヌト云フコトマデハ私ハ申シマセヌ、而シテ衆議院議員ノ選舉法ニ付テ普通選舉ヲ施行シテ宜イ位ニ、國民ガ總テ自治ノ事ナリ、國政參與ノ事ニ慣レラ來テ居ル今日、府縣會議員ノ選舉ト、衆議院ノ選舉ハ、所謂普通選舉ニスルト云フヤウニ迄ナツテ來テ居リマスナラバ、町村會議員ノ選舉權ニ於テ、特ニ制限ヲ加ヘテ置ク必要ハナカラ

ウ、斯ウ考ヘマスノデアリマス、ソレデ矢張リ市町村、府縣共ニ、今回改正シタヤウニ改メル方ガ相當デアラウ、斯ウ考ヘマス、殊ニ此獨立ノ生計ト云フコトヲ取リマシタコトハ、納稅ト獨立ノ生計トニツノモノガ要件トナツテ居リマス時ニ於テ、獨立ノ生計ト云フコトガアリマシテモ、大シタ疑義ハ生ジマセヌケレドモ、納稅ノコトガ全然ナクテ、而シテ單リ獨立ノ生計ナル要件ガ残リマシテモ、ドウ云フ人ガ獨立ノ生計ヲ爲シテ居ルヤ否ヤト云フコトニ付テハ、隨分法制上疑義ガアルノデアリマス、此獨立ノ生計ト云フ事柄ニ付テ、行政裁判所ノ與ヘテ居リマス解釋デハ、一戸ヲ構ヘルト云フヤウナ意味ニハナツテ居ラナイノデアリマス、ソレデアリマスカラシテ、納稅ノ資格ヲ離レテ、獨立ノ生計ト云フ資格ノミヲ殘シマスト云フト、非常ニ疑義ガ多クテ、選舉ノ度毎ニ隨分争ヒガ起ルデアラウト思ヒマス、ソレ故ニ今回ハ前ノ改正ニ依ツテ市町村ノ負擔ヲシテ居ル者ナレバ、選舉權ガアルト云フコトデ、非常ニ選舉權者ノ數ガ殖エタノデアリマス、ソコ迄來テ居ルナラバ、納稅資格ヲ撤廢シテモ宜イ、選舉ノ結果ヲ見ルト、大體ニ於テ好イ成績ニナツテ居ル、之ヲ撤廢シテ獨立ノ生計ヲ残シテ置クト云フト、却テ選舉ノ度毎ニ争ヒガ起ツテ面白クナカラウト云フ、斯ウ云フ意味ニ於テ獨立ノ生計ト云フ要件ヲ撤廢スルコトニ致シタノデアリマス、要スルニ、今日ノ國民ノ智能ノ發達シテ居ル上ニ、自治ノ行政ニ最早ヤ既ニ練熟シタ狀態ノ下ニ於テハ、唯今改正法律案ヲ提出イタシマシタヤウニ、選舉權ヲ與ヘテ差支ナイト、斯様ニ政府ハ認メタノデアリマス、第二ノ御質問ノ、三部制ヲ何故ニ直サヌカ、三部制ノ宜シクナイト云フ議論ハ、世間ニ餘程アルノデアリマス、ソレ故ニ此事ニ付テハ政府モ餘程氣ガ付イテ居ルノデアリマスガ、是ハ御承知ノ通り、三部制ニ依ツテ今日ハ市部、郡部、市郡連帶ト云フコトニ多年ズット慣習ノヤウニナツテ、是ガ決マツテ居ルノデアリマス、三部制ヲ廢シマスト、此負擔ノ關係ニ大イナル異動ガ生ズルノデアリマス、ソレガ爲ニ現ニ三部制ノ行ハレテ居ル地方ニ於テハ、之ガ廢止ニ極力反對シテ居ル所モアルノデアリマス、左様ナ狀態ノ所ニ、斯ウ云フ、法律ヲ以テ直チニ、制度ヲ改メルト云フ事柄ハ、是ハ又面白クナイヤウニ考ヘマス、或ル地方ノ人ハ、最早三部制ヲ廢シテ宜イトシテ廢シタ所モアリマス、唯今御指摘ニナリマシタ大阪ノ如キガソレデアリマス、地方人ガ凡テ三部制ヲ廢シヤウト云フナラバ、政府ハ喜ンデ之ヲ許可スルノデアリマス、併シ地方ノ人ガマダ三部制ヲ維持シテヤツテ居ル場

合ニ、法律ヲ改正スルノハ、負擔ノ關係ヲ急激ニ變更スルコトニナルノデ、是ハ其結果餘リ面白クナイヤウニ考ヘマシテ、此度ノ法律改正ニ於テハ、三部制ノ改正ハ致サナカツタノデアリマス、第三ノ御質問ノ、東京都制案ナルモノガ、政府ノ手許ニ出來テ居リナガラ、市會ノ意見等ニ顧慮シテ、躊躇シテ、之ヲ議會ニ提出シナカツタヤウニ見エルガ、ナゼ速ニ之ヲ提案セヌカト云フ御質問デアリマス、都制案ニ付テハ、年來東京市民ノ中ニ希望ガアリマス故ニ、政府デハ調査ハ致シテ居リマスガ、愈々之ヲ法文ニ立案シテ見マスト云フト、非常ニ大キナ法律案デアリマシテ、内務省ニ於テ之ガ立案並ニ審議ニ多數ノ時日ヲ要シタノデアリマス、唯今茲ニ上程セラレテ居リマスル地方制度ノ改正案、又衆議院議員選舉法ノ改正案、其他内務省ニ於テ議會ニ提出スペキ諸案ガ澤山アルノデアリマス、其上ニ廣汎ナル都制法案デアリマス故ニ、之ガ調査ニハ大變ナ日子ヲ要シマシテ、内務省ノ手ヲ離レタノガ漸ク此五六日前ダツタト私ハ思フノデアリマス、今日ハ法制局デ之ヲ審議シテ居ルノデアリマス、左様ナ次第デアリマシテ、市會議員ノ意向ニ顧ミテ、躊躇シテ居ルト云フノデハアリマセヌ、ドウカシテ早ク議會ニ提出シタイト思ツテ、調査ヲ急ギマシタケレドモ、何分大キナ法律案デアリマス上ニ、外ニモ澤山ノ法律案ガアリマシタ爲ニ、之ガ調査ニ時日ヲ要シマシテ、遲レテ居ルガ爲ニ、提出ガ今日マデ遅レテ居ルト云フ次第デアリマシテ、市會ノ意向等ノ關係デ提出セスト云フノデハナイト云フコトダケハ、茲ニ申上ゲテ置キタイノデアリマス

○阪本鉄之助君 唯今最後ニ御述ベニナリマシタ都制案ノコトデアリマスガ、慎重ニ審議ナサルト云フコトナラ已ムヲ得ヌコトデアリマスガ、震災前ニ、既ニ大都市制度調査會ト云フモノヲ内務省ニ設ケラレマシタ、其時ニ各方面ノ人ガ集マツテ、大都市即チ東京市ノ都制案ト云フモノハ、兎ニ角成ガ出来テ居ル、政府ノ人モ參加イタシテ、隨分審議討論ヲ致シテ、相當ナル文書等モ分ツテ居リマスカラ、本當ニ政府ガ必要トシテ出スト云フ考ナラバ、左様ニ議會ノ開會中ニ、將ニ會期ガ盡キムトシテ居ル五日カ六日ト云フ時ニナツテ、マダ調査ヲシテ居ルト云フノハ、即チ出シテモ宜インダケレドモ……テ、モウ如何ニ攻撃シテモ仕方ガナイ、唯私ハ此都制案ニ付テハ政府ニ御誠意ガ無イト云フコトヲ申シテ置キタインデアリマス、ソレカラ町村制ノ改正ニ付テハ、選舉權ヲ擴張シマスルト、今日ノ獨立ノ生計、町村ノ納稅ト云フモノヲ取りマシテ、全ク二十五歳以上ノ町村住民、即チ居候デモ、又厄介者デモ、職工デモ何デモ皆這入ルト云フコトニナル、之ヲ出シマスルト、ドノ位ニ殖エマスカ、先刻御述ベニナツタカモ知レマセヌガ、チヨット聽キ漏ラシマシタカラ、其增加ノ歩合ヲ伺ヒマス

〔國務大臣若槻禮次郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣（若槻禮次郎君） 先程其數ヲ申上ゲマシタガ、現在デハ七百八十二万人デアリマスガ、ソレガ改正案ニ依リマスルト千二百五十二萬餘人、即チ四百七十万人バカリ増加スルコトニナリマス

○阪本鉄之助君 政府ノ御調査ヲ疑フト云フ譯デハアリマセヌガ、府縣會議員ノ選舉資格擴張ニ付テ、御述ベニナリマシタ歩合ナドモ、如何ニモ殖エ方ガ少イヤウニ考ヘマスガ、唯今承リマシタ町村會議員ノ選舉權デアリマスルガ、ソレノ中ニハ隨分二十五歳以上ノ同居者ト云フ者ハ澤山アルノデアリマシテ、又是マデ資格ノナカツタ人ガ隨分アルト思フ、ソレガ僅カ倍ニハ行カナリマスカ、政府委員デ宜シウゴザイマスカラ、ドウシテ斯ウ云フモノガ出テ來ルカト云フコトヲ……

○政府委員（鈴木富士彌君） 唯今、内務大臣カラ御答へ致シマシタ數字ハ、府縣ニ照會シテ取調べサセタモノデ、衆議院議員ノ有權者ノ數ノ増加率ニ比較シテ、ドウモ少イヤウデナイカト云フ御質問ノヤウニ拜承イタシマシタ、若シサウ云フ御質問ノ御趣旨デアルト致シマスレバ、如何ニモ御尤デアリマスルガ、是ハ衆議院議員ノ選舉權ハ、御承知ノ通リ三圓ト云フ納稅資格ガアリマス爲ニ、有權者ガ現行法ニ依リマスト著シク少イ、ソレガ爲ニ其納稅資格ヲ撤廢イタシマシタ數字ガ著シク殖エマシテ、此間ノ差ガ甚シクナツテ居ルノデアリマス、然ルニ此公民ノ要件ハ、御承知ノ通リ三圓ト云フヤウナ數字ハ制限ハアリマセヌ、從テ其數ハ衆議院議員ノ有權者ノ數ヨリハ多イノデアリマス、從テ今度ノ改正案ニ依ル公民權ノ見込數トノ間ノ差ガ左程酷クナイ、斯ウ云フ趣旨デアリマス、左様御了承ヲ願ヒマス

○阪本鉄之助君 チヨット無用ナ御答辯ヲ承リマシテ、甚ダ御氣ノ毒デアリマス

スガ、私ハサウ云フコトヲ御尋ネシテ居ルノデナクシテ、衆議院ノ比較デハアリマセヌ、極ク廣ク見渡シテ考へマシテ、四百何十万ト云フヤウナ、倍ニモナラヌ、我ミノ見渡シタ所ノ唯今マデノ選舉權ハ、獨立ノ生計ヲ致シテ町村ノ納稅ヲシテ居ル者ハ資格ガアリマスカラ、ドウシテモ是ハ戸主ト見テ宜シイ、今度ハ一家ニ二十五歳以上ノ息子ヲ持ツテ居ル、一人モ三人モ持ツテ居ル者モアル、サウデナクテモ一人位ハアル、或ハ後家世帶ノ中ニモ相當ノ者ガ居ル、ドウシテモ、少クトモ倍數以上ニナルト云フコトハ争フベカラザル事實デアルマイカト考ヘラレルニ拘ラズ、七八割シカ増サヌト云フコトハ、マサカ政府ノ御仕事デ、成ルタケ……選舉權ガ廣クナルト人數ガ多クナル、ビックリスルカラ、成ルダケ控目ニシテ置ケト云フヤウナコトヲ爲サレハ致シマスマイケレドモ、ドウモ各地方官ノ調べガ粗漏デアルカ、或ハ私ノ觀察ガ誤ツテ居ルカ、是ガ極ク確實デアルト仰シャレバ、モウ申上ゲル必要ハ無イガ、私ハ衆議院議員ノ比較ヲ申上ゲタノデナイ、眺メ見渡シタ所デ、幾多ノ狀況ヲ見テ、總テノ二十五歳以上ノ者ハ皆投票スルコトガ出來ルト云フノニ、ソレガ倍數ニモナラヌト云フコトハ、ドウモ考ヘラレヌ、故ニ御尋ヲシタノデアリマス

〔國務大臣若規禮次郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣、若規禮次郎君) 是ハ唯今政府委員ヨリ御答へ致シタ通り、府縣廳ニ照會シテ調べタ結果デアリマシテ、内務省デハ正確ナモノト認メテ居ルノデアリマス、御承知ノ通り、昨年、衆議院議員ノ選舉法ヲ改正シ、其時ニ所謂普通選舉ニ依ツテドレダケノ選舉有權者ニナルカト云フノニ對シテ、約千四百万人位ニナルト云フコトヲ、私ハ答辯シタコトガアッタノデアリマス、同ジ今度ノハ千二百五十万人程、ソコニ丁度百五十万人程ノ差ガアリマス、同ジク是モ稍、普通選舉デアリマス、衆議院議員選舉法モ稍、普通選舉デアリマス、兩方共ニ大體違ヒノ無イ筈デアルガ、唯、ソコニ百五十万人程ノ差ガ起ツタノハ何カ、衆議院議員ハ一年以内其處ニ住居ヲ有ツト云フコト、此改正案ハ二ノ間ニ若干ノ差ガアルカラ生ジタコトト、私ハ思ツテ居ルノデアリマス

〔高橋琢也君演壇ニ登ル〕

○高橋琢也君 私ノハ極ク小サナ問題デゴザイマシテ、極メテ簡單ニ一ツ伺

ヒタイト思ヒマス、先刻、内務大臣ノ御演説モ承リマシタ、尙ホ此府縣改正案、市町村ノモ同ジャウナ理由書ニナツテ居リマスガ、其理由書ニ依リマスルト、時運ノ趨勢ニ鑑ミ、地方自治ノ實蹟ニ徵シ、此改正案ヲ要スル、斯ウ云フ理由ノ下ニ皆出來テ居ルヤウデゴザイマス、私ハホンノ一地方ノコトデゴザイマスルガ、他ノ一般ノ地方トハ歴史モ異ニシテ居リマスルシ、事情モ異ニシテ居リマスルガ、彼ノ沖繩縣ノコトデ伺ハウト思ヒマス、政府デハ今回、沖繩縣ニ對シ、彼是レ產業上、或ハ縣治上、此方ニ向ツテ助成金ヲ御出シニナル、是ハ豫算ニモ上ツテ居リマスルカラ、豫算面ヲ見マスレバ分リマスルガ、此沖繩縣ノ今日ノ疲弊困憊ト云フモノハ、實ニ尋常一樣ノコトデナイト云フコトハ、既ニ皆様ガ御承知ノコトデアラウト存ジマス、ソレ故ニ政府デハ色々御心配ニナツテ、ドウカシテ之ヲ救濟シタイ、斯ウ云フ御考ノ下ニ色々御苦心ノ結果デゴザイマセウ、沖繩縣ノ產業ニ向ツテ、謂ハ、事業ノ獎勵ノ爲ニ助成金ヲ出スト云フヤウナ點カラ、農林省ノ豫算ノ中ニハ五十二萬餘圓ト云フモノノ助成金ガ出テ居リマスル、政府ハ今日ノ沖繩ノ窮状ヲ救フト云フ、此僅ナ金高デ、沖繩ノ今日ノ困難ヲ救フコトガ出來得ルト思ツテ御イデゴザイマセウカ、御承知ノ通り、年々四百餘萬圓ノ國稅モ納メテ居ル、サウシテ沖繩ハ自分ノ方ニ政府カラ助成ヲシテ貰フタト云フ金ハ、是迄モ僅ニ縣費ニ二十萬圓、時トシテハ之ヲ減ゼラレマシタト云フヤウナ有様デ、サウシテ現在ノ有様ヲ見ルト云フト、各銀行モ非常ナ悲況ニ陥ツタ位ナ話デハナイ、破産状態ニナツテ居ルト云フヤウナ有様、其沖繩ニ對シテ、沖繩縣民ガ國庫ヘ入レル金ハ四百餘萬圓、サウシテ自分ノ方ニ貰フ金ハ五十萬圓、或ハ縣費ニ二十萬圓ノ補助ヲシテ貰フトカ云フ位ナコトデハ、是ハ實ハ政府ノ方デ、モウ少しつ御考ヘニナリサウナモノデアルト、私ナドハ思ツテ居リマスル、殊ニ今日ハ其疲弊ガ甚シイノデ、此儘デ行ケバ、沖繩縣ト云フモノハ立行カナイト云フコトニ歸著スルダラウト思ヒマス、ソンナラ縣民ハドンナ生活ヲシテ居ルカ、御承知ノ如ク、彼ノ甘諸ト内地デ稱スル芋ヲ食ツテ居ル、殆ド是ガ日タノ常食デアルノデス、子供ガ學校ニ行クニマデ、芋ノ蒸シタノヲ手拭ノ端ニ包ンデ行クノガ常デゴザイマス、是程質素ナ生活ヲシテ居ル者ガ、今日其芋モ購フコトガ出來得ナイト云フヤウナ苦境ニ陥ツテ居ルト云フコトハ、何タル慘状デゴザイマセウカ、政府モ定メシ此點ハ實地ノ御調査ノゴザイマシタコトト存ジマス、デ、各地ノ地方自治ノ實蹟ハ御調ベニナツテ能ク御分リニナツテ

居リマセウト存ジマスガ、沖繩縣ニ於キマシテハ、從來、謂ハバ丁度絶海ノ孤島ト云フヤウナ所デアツテ、殊ニ沖繩縣ハ内地カラエライ誤解ヲサレテ居ル所デ、或ハ飯匙蛇ガ澤山居ツテ、一年ニ五千人位喰殺サレルサウダ、是ハ私ノ所ニ來テ其話ヲシタ者ガアツテ驚キマシタ、甚シキハ、中央議會ニ席ヲ有ツテ居ル人ガ、沖繩デハ縣會ノ場合ニハドウ云フ人ガ通譯ヲ致シマスルカト云フ、飛ンデモナイコトデアツテ、國語ノ正シイコトハ寧ロ内地ノ如ク、九州、東北、東京、是等ハ殆ド互ニ初メテ相會ツテ言語ガ通ジナイト云フ位ニ違ツテ居ルニ拘ラズ、沖繩ハ誠ニ國語ガ能ク通ジマスル位ノコトデハナイ、小學校二三年以上ノ子供ハ、ドレヲ擱ヘテ話ヲシテ見マシテモ、能ク分リマス、其狀態ヲ知ラナイ位デアルノデゴザイマス、政府デ今度、ドウ云フ御調ベニナリマシタノカ存ジマセヌガ、地方自治ノ實蹟ト云フモノヲ徵スルニハ、十分ナ御調べガゴザイマシタラウト存ジマスル、殊ニ沖繩ハ、臺灣事件以來、政府モ特別ニ力ヲ入レテアル所デアルガ、又縣制ヲ布カレマシタノモ大變遲レテ居リマスルガ、近頃此特別制度ヲ廢シテ、一般ノ市町村制、府縣制、同ジャウニ縣制モ市町村制モ行ハレルコトニナリマシタガ、儲テ之ヲ實施セラレタ後、其實施セラレル以前ノ特別ノ制度デアツタ時、自治ノ問題、地方行政ノ問題、ト同時ニ沖繩ノ產業ナドハ、教育モ無論デゴザイマスガ、產業、教育ト云フヤウナモノガドウ云フヤウニ進ンデ居リマセウカ

〔副議長侯爵蜂須賀正韶君議長席ニ著ク〕

或ハ却テソレガ爲ニ退歩シテ居ルト云フヤウナ廉デモアリハ致シマセヌカ、是ハ定メシ十分ナ御調査ニナッタ上ノコトデアラウト思ヒマス、今回ノ助成金ヲ御出シニナルト云フ迄ニ至リマシタノハ……ソコデ此御調査ハドウ云フヤウナ機關ヲ以テ、ドノ位ノ期日ヲ以テ、ドノ位ノ人員ヲ以テ地方ヲ御調査ニナリマシタカ、ソレガ實ハ承リタイ、ナゼナラバ、之ニ基イテ初メテ今回ノ助成金ト云フモノモ御割當テニナッタノデハアルマイカト存ジマス、是マデ郡村ニ參リマスルト、米ガ少クテドウモ芋ヲ食ベサセラレル、其芋ヲ食フノハ困ルカラト云フノデ、役人ナドガ郡村ニ調査ニ入込ムト云フコトヲ非常ニイヤガリマシタ、是ハ私、事實沖繩ニ居ツタコトデゴザイマスカラ、承知シテ居リマス、サウ云フヤウナ有様デゴザイマスルカラ、十分ナ調査ガ出來テ居リマスルヤ、又沖繩ノ現狀ニ付テ其困窮ノ狀況ハ、定メシ内務省へ具サニ報告シテアルノデアラウト存ジマスル、其概要ガ承ハルコトガ出來マスナラ、誠ニ仕

合セデゴザイマス、又茲ニ一ツ申上ゲナケレバナラヌ、世ノ中デ、沖繩ノ今日ノ困難ハ詰リ政治上ノ缺陷カラ起ツテ來テ居ル、是ハドウゴザイマセウカ、私ハ強チサウトモ存ジマセヌガ、併シ歴代ノ政府ガ沖繩ニ對スル方針ト云フモノハ、内地、他府縣ヘ對スル事柄トハ違ツテ居ルヤウデアツマス、ソコニ大變ナ行違ガ生ジタノデハアルマイカ、今日モ尙ホ其方針ヲ御執リニナツテアルヤ否ヤ、ソレハドウ云フコトデアルカ、沖繩ハ即チ元ノ琉球ニ對スル場合、内地、他府縣トハ事情ガ異ナルニ依ツテ、成ルタケ手ヲ著ケナイヤウニト云フ、是ハ恐ラクニシテ、餘リ色ミナ仕事ヲセヌ方ガ宜イ、仕事ヲスレバ却テ縣民ノ反感ヲ釀ストカ何トカ云フヤウナ政府ノ御方針デ、御考デアツテ、デ、政府デハ歴代ノ政府ガ、是非沖繩ハ其儘ニシテ、成ルタケ手ヲ著ケナイヤウニシテ、月日ヲ藉セバ自然ニ穩カニナツテ仕舞フダラウ、斯ウ云フ事柄カラ起ツテ來タノデアラウト思ヒマス、併シソレハ今日ハモウ要ラヌコトデアル、今日モ尙ホサウ云フヤウナ政府ハ御方針ヲ持ツテ御イデニナリマスヤ否ヤ、之ヲ一ツ承リタイ、元來沖繩ハ支那ト日本トノ兩屬デアルト云フヤウニ、支那カラハ冊封マデモ受ケテ居ル、ケレドモ事實ハ日本版圖ノ中デ、又古來ノ歴史ガ證明シテ居ツテ、沖繩人ト云フノハ日本人デアル、ケレドモ臺灣事件ニ依ツテ、御承知ノ如ク北京ヘ大使マデ派遣シテ此解決ヲ著ケタ、此點ニ至ルト或ハ朝鮮アタルトモ異ツタ點ハナイト云ウテモ宜シイ位デアル、唯其地積ハ彈丸黒子デアル、人口モ誠ニ僅ナモノデアル、併ナガラ此歴史カラ云ウテ行キマスト、ナカナカ沖繩ハ其儘ニシテ置ケナイ所デアルト私ハ信ジテ居ル、況ヤ「ペルリ」ガ參ツテ、内地ト同ジャウニ沖繩ヲ獨立國ト認メテ、一ツノ條約ヲ結ビ、佛蘭西モ和蘭モ結シダト云フヤウナ有様マデアツタ所デゴザイマス、是ハ必ズ特別ナ御扱ガ、ソレハ必要デアラウト思フ、ソレト同時ニ、一體ノ日本ノ一般ノ制度ト云フモノガ、兔角畫ニ流レマシテ、北海道ノ半年雪ニ埋モレテ居ル所モ、年中蚊帳ヲハヅスコトノ出來ナイ沖繩モ、總テノ制度上ニ於テ、取扱ハ同ジャウニナツテ居リマス、是ハ中庸ヲ得テ居ラヌ、殊ニ教育ナドト云フ點ニ付テハ、大ニ考ヘナケレバナラヌコトガゴザイマス、申上ゲレバ長クナルカラ、斯様ナコトハ諄シク申上グマセヌケレドモ、當局デハ能ク御承知デア

ラウト存ジマス、今一つハ、沖繩ハ其儘ニシテ置イテ發達スレバ宜シ、セナケレバ自業自得ダト、マサカサウデモナイデゴザイマセウガ、結果ガ：サウ云フ所ハ、日本トシテドウシテ是ガ捨置ケルカ、今日ノヤウナ窮状ヲ重ネレバ、沖繩ナルモノハ自然ニ滅亡イタシテシマフ、事業ノ上……斯ウ云フヤウナ有様ニナツテ居ル、幸ニ縣民ガ年々百餘万圓ノ金ヲ海外カラ送ツテ來ル、是デドウヤラスヴァヤラ活路ヲ凌イデ居ルト云フヤウナ有様アル、ソレデアルカラ此處ノ元來制度ト云フモノガ、政府ノ方針既ニ今申上ゲタヤウデアッテ、今一つハ沖繩ニ向ッテ、何時デモ二流、三流ノ長官ヲ御ヤリニナル、私モ三流位ノ人間デアルカラヤラレタノデアルケレドモ、ソレデヤ……大變沖繩ニ大ニ新知識ヲ移入シナケレバナラヌ所デアル、ソレニモ拘ラズ沖繩ニ向ツテ居ルヤウナ冷淡ナ御仕向ニナツテ居ルト云フコトハ、是ハ一ツ政府ノ御考ガ違ツチヤ居ラナイカ、ソレ故ニ教育モ餘リ自慢出來マセヌガ、產業ニ至ツタラ殆ド進ム所デヤナイ、寧ロ退クト云ウテモ宜イ、現ニ沖繩ハ田ハ潰シテシマッタ、烟モ潰シテシマッテ、悉ク例ノ砂糖黍、黑砂糖ヲ出シマスガ、アノ黍ヲ作ル、是ガ一一沖繩ノ產物デゴザイマスガ、其沖繩ノ唯一ノ大產物ガ、今日ハドウアルカト云フト、一樽ニ付テ却テ二圓五十錢、三圓ヅツ損ガ行ク、誠ニ氣ノ毒千萬デアル、然ルニ今回ノ政府ノ之ニ對スル助成金、甘蔗即チ砂糖黍ノ獎勵ニ對スル金ガ僅ニ三万八千圓餘、ドウ致シマセウカ、之ヲ何處へ振撒イタラ是ガ役ニ立チマセウカ、私ガチヨット其考ガ及ビマセヌ、是レ以外幸ニシテ、水產ニハ二十八万餘圓ト云フモノガ、即チ五十二万餘圓ノ中是ガ皆割レル、併シ沖繩ノ水產ノ如キハ、大島ニ比ベテ非常ニ遜色ノアルコトモ御承知、是ハ今五十万、五十二万圓ヲ以テ何ニモカニモ振向ケヤウ、斯ウ云フコトニナル、是デハ帶ニ短シ櫛ニ長シト云フヤウナ結果ニナリマセウト思ヒマス、併シ政府カラ是ダケ下サルト云フコトデアルカラ、誠ニ結構ナコトデアッテ、是ハ沖繩縣民トシテ深ク感謝セナケレバナラズ、又沖繩ハ、日本國民トシテモ、是ハ他ノ府縣ト同ジヤウニハ見テレヌ所デアルト云フコトハ、歴史ガ證明シテ居ル、サウ云フ所デアルカラ、是ガ今死ンデシマチャ大變ダカラ、之ヲ生カサニヤナラヌカラ、生カスニハ僅ニ五十万圓ソコラノ金デハ生カシヤウガナイト思フ、嘗テ私ガ明治ノ初メ、自分ノ私塾ニ獨逸人ヲ儲ウテ、大變窮シテ居ル獨逸人デアルカラ、我ガ語學ノ先生ダカラ、四十圓カ五十圓ヲヤツタラ宜カラウト云フ紹介デシタカラ、其人ニ對シテ、氣

ノ毒デアルガネ、此學校モ貧乏、オ前ニ四十圓上ゲルカラ……、左様デゴザイマスカ、ソレハ有難ウゴザイマス、四十圓デハ死ヌルニハ餘リマス、生キテハ居ラレマセヌ、成程サウデアル、チヨット此言葉ガ今日ノ沖繩ニ當候ルカクモ沖繩ガ國庫ニ納ムル金ノ四百万圓ノ三分ノ二位ハ、沖繩ヘ出シテ御ヤリニナツテモ、政府ノ方ノ御損ニハナツテ居ラナイ、サウシテ沖繩ガ產業、教育ニ付テ蘇生スルコトニナリマシタナレバ、他日ハ一千万圓デモ二千万圓デモ三千万圓デモ、沖繩カラ上ツテ來マセウト存ジマス、ソレ故ニ今日之ヲシテヤラヌ以上ハ、益々困窮スルト云フコトハ申スマデモナイ、ソコデ政府ハ其他ニ付テ蘇生スルコトニナリマシタナレバ、他日ハ一千万圓デモ二千万圓又此五十二万餘圓ハ是ハ應急ノコトデアッテ、何分今困ツテ居ルト云フカラ取敢ズ出ト云フコトニシタノダ、若シ能ク調査ヲシテ見テ、是ハドウモ逆モ五十ニ二万圓ヲ百万圓ニシタツテ救ヒ得ラレルモノデナイトナレバ、政府デハ無論百万圓デモ二百万圓デモ三百萬圓デモ、御出シニナルコトニ違ヒナイト私ハ思ヒマス、併シ今回ハ政府ノ應急ノ救助デゴザイマスカ、是モ伺ヒタイ、ソレカラ縣費ノ救濟ニナル途ガ付イテ居リマスノデゴザイマスルヤ否ヤ、之ヲ一ツ伺ヒタイ、上ニ二十万圓ノ補助、是ハ明治ノ彼ノ憲政ヲ布カレタ時分ニ二十万圓ヲ補助デアルト、斯ウ云フ御趣旨デゴザイマスカ、是モ伺ヒタイ、ソレカラ縣費ノセラレテ、途中デ又之ヲ減ゼラレタ云フヤウナ有様デアル、是ハ其時ノ二十万圓デ買フモノヲ今日買ツタラバ、恐ラクハ百万圓ノモノモ出來マセウ、ソレ故ニ今日ノ二十万圓ト云フモノハ、事實ニ於テハ非常ニ減殺セラレタト云フ結果ニナツテ居ルト思ヒマス、是ハ當局ノ方デ增加シヤウト云フ御詮議ガゴザイマスルノデアルヤ否ヤ、之ヲ一ツ伺ヒタイ、冕ニモ角ニモ沖繩ノ救濟ト云フコトヲ御主張ニナツテ居ル場合ニモ拘ラズ、之ヲ御出シニナルト云フノダカラ、容易デナイト云フコトハ確ニ認メテ御イデニナルコトト存ジマス、私ハシニナリ、而モ今年ノ如キ非常ナ經濟ノ緊縮ト云フコトヲ、財政ノ緊縮ト云此質問ヲスルト云フヨリハ、寧ロ沖繩ノ爲ニドウカ今一層ノ、政府ハ力ヲ入れテ、少クトモ沖繩縣民ガ立ツテ行ケルヤウニ御助成ヲ戴クコトヲ、私ハ切ニ希望ヲ致シマスル、此點ニ對シテ御答辯ヲ煩シマス

〔國務大臣若槻禮次郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣（若槻禮次郎君） 唯今高橋君カラ、沖繩縣ノコトニ付テ御質問ガアリマシタ、其御質問中ニハ、沖繩縣ノ現狀誠ニ悲慘ナルモノアルト云フコトヲ舉ゲテノ御質問デアリマシタ、此點ニ付テハ私共モ、沖繩縣ノ今日ノ狀態ハ、經濟上誠ニ同情スベキ狀態ニアルト云フコトヲ認メテ居リマシテ、政府ニ於テモ沖繩縣民ガ此經濟上ノ難關カラ能ク離脱スルヤウニ相成リマスコトヲ切ニ祈ツテ居ル次第デアリマス、沖繩ノ狀況ニ付テハ如何ニシテ調べタクト云フ、御尋ノ中ニ先づ一點ガアリマシタ、沖繩縣ノ狀況ハ縣知事ヨリ詳細書面ヲ以テ、又自ラ口頭ヲ以テ内務省二十分申出デテ居ルノデアリマス、其狀況ニ對シテ内務省並ニ大藏省ハ、人ヲ沖繩縣ニ出張セシメマシテ、實際ニ就テ彼ノ地方ノ事情ヲ十分ニ調べタノデアリマス、其結果益沖繩縣ノ狀態ガ容易ナラザルト云フコトヲ見マシテ、一段ト痛心ヲシテ、一段ト同情ヲ加ヘタ次第デアリマス、沖繩縣ガ今日ノ如キ經濟界ノ悲慘ナル狀況ニナリマシタノニハ、一ツハ内地デモアリマシタ通り、戰時ノ好況ノ時代ニ將來ノ慮リ少ク、遂ニ思惑デ事業ヲヤツタ結果、資本ガ固定シ回收スルコトガ出來スト云フヤウナ點ガ、内地ニ於テモアリマスガ、沖繩ニ於テモアルノデアリマス、其關係デ經濟界ノ餘程難儀ナ狀態ニナツタト云フコトハ、是モ亦固ヨリ之ヲ認メナケレバナリマセヌ、其外丁度戰時中カラ戰後ニ掛ケテ砂糖ガ非常ニ……世界中ノ砂糖ノ値段ガ高カツタノデアリマス、沖繩縣ハ御承知ノ通り、產物ト云ウタラ殆ド砂糖デアリマス、外ノ物モ無イノデハアリマセヌガ沖繩縣ノ產物ト云ウタチヨット簡單ニ申シマスレバ砂糖デアルト云フ位ニ、沖繩ノ重ナル產物ハ砂糖ガソレデアリマス、其砂糖ガ世界ニ於キマシテ戰時カラ戰後ニ掛ケテ、一時非常ニ値段ガ好カツタノデアリマス、其時ニハ沖繩縣ノ經濟界モ大變良カッタノデアリマスガ、此砂糖ノ値段ガ最近非常ニ下落シタノデアリマス、是ハ世界中サウナツタ爲ニ、砂糖ノ生産國ハ何處デモソレガ爲ニ今日ハ打擊ヲ受ケテ居ルノデアリマス、其同ジ打擊ガ沖繩縣ニ及シテ、沖繩ハ其唯一ト云ツテモ宜イ位デアリマスガ、唯一ト云ツテハ或ハ語弊ガアルカモ知レマセヌガ、其主要ナル產物ノ價格ノ下落カラシテ、今日ハ經濟界ガ非常ニ難儀ヲシテ居ル、其主要產物デアル砂糖泰ノ生産中ニ、耕作ヲシテソレガ生長シツツアルト云フト、砂糖泰ガ折レテ行ク、折レテシマフト云フト、是ハ折角ノ耕作シタ

モノガ役ニ立タナクナルト云フコトカラシテ、元來彼ノ絶海ノ島デアリマスカラ、風當リノ強イ所ヘ以テ來テ、最近數年ノ間ハ颶風ガ屢々、沖繩ニ襲來シマシテ、ソレガ爲ニ沖繩ノ主產物タル砂糖ヲ甚シク害シタノデアリマス、產額其モノガ害セラレタ上ニ、價格其モノガ下落シタト云フノデアリマスカラ、其結果沖繩ノ經濟界ニ及シダ影響ガ甚大デアツタト云フコトハ、凡ソ想像ガ出来ルノデアリマス、其影響ヲ受ケマシテ、沖繩ノ今日ノ縣民ノ經濟上ノ難儀ハ、ソレハ甚シイモノデアリマス、ソコヘ以テ來テ、銀行ガ前申上グマシタ通り、戰時好況ノ時代ニ不謹慎ナル貸附ケヲシテ、ソレガ滯ツテ取レヌト云フヤウナ狀態デ、三ツノ銀行ガドウモ皆支拂ヲ爲スコトガ出來ヌヤウナ、誠ニ悲慘ナル狀況ニナリマシタ、是ニハ銀行經營者自カラニモ私ハ過チガアツタト思ヒマスガ、經營者自身ニ過チガアツタ否トニ拘ハラズ、兎ニ角縣民ノ預金シテ居ルモノガ、預金ノ拂戻ヲ受ケルコトガ出來スト云フヤウナ狀態ハ、是ハ亦沖繩縣ノ經濟界ニハ非常ナ打擊ヲ與ヘタト申サヌケレバナリマセヌ、單リ縣民ガ預金ヲ引出スコトガ出來ヌノミナラズ、縣廳ノ金ヲ是等ノ銀行ニ預ケテ居ルモノガ、預金ノ拂戻ヲ受ケルコトガ出來ヌト云フヤウナ狀態マデ生ジタノデアリマス、高橋君ハ、沖繩ノ縣費ノ支拂ニ屬シテ居ル、郡書記ナリ、學校ノ教員ナリノ俸給モ、支拂フコトガ出來スト云フヤウナ狀態マデ生ジタノデアリマス、高橋君ハ、沖繩ノ縣民ハ四百万圓以上ノ稅金ヲ納メテ居ルノニ、政府カラ補助スルモノハ僅ニ二十萬圓ダ、サウ云フコトデハ沖繩ノ縣民ガ難儀ヲスルニ決マッテ居ルト云フヤウナ御觀察デアリマスガ、其點ハ高橋君ト私ハ觀察ヲ異ニシテ居ルノデアリ、其四百万圓ト云フ中ニハ、何レ砂糖ノ消費稅ガ這入ツテ居ルデアラウト思ヒマス、砂糖ノ消費稅ハ間接稅デアリマス、消費稅デアリマス、ソレデアリマスカラ、砂糖ノ中デ沖繩縣デ消費セラレルモノニ付テハ、如何様沖繩縣人ガ稅金ヲ拂ツテ居ルノデアリマスガ、沖繩縣カラ縣外へ賣出サレルモノハ、消費稅ハ消費者ノ負擔ニ歸著スルモノデアリマスカラ、沖繩縣カラ四百万圓ノ稅金ガ取ラルカモ知レマセヌガ、砂糖ノ代金ニナツテ四百万圓沖繩縣ニ這入ツテ行クノデアリマス、大體ニ申スト……併シ値段ガ下ガッテ砂糖ガ下落スル、損ヲスルト云フノハ是ハ別問題デアリマス、稅金ノ關係カラ云ツテ、沖繩カラ四百万圓吸收シテ、サウシテ與ヘル所ノモノガニ二十萬圓ダ、ソレデハ沖繩縣民ガ難儀スル筈ダト云フ御觀察ハ、餘リニ觀察ガ簡單ニ過ギテ居ルト私ハ思ヒマス、其點ニダケハ稍見方ハ私ハ違ツテ居リマスガ、併シ今日沖繩縣

人ガ經濟上ニ非常ニ難儀シテ居ルト云フコトハ、高橋君ト同ジク私ハ之ヲ左様ニ考ヘテ居ルノデアリマス、其難儀スルニ至ツタ原因ハ、私ノ觀ル所ニ依レバ唯今マデ申上グタヤウナコト、其他ニモアリマセウケレドモ、唯今申上ゲタヤウナコトガ主ナルコトデアラウト思ヒマス、何レカラ難儀ガ來テ居ツテモ彼等ヲシテ難儀ノ状態カラシテ離脱セシメルコトノ出來ルヤウニ圖ラヌケレバナリマセヌ、ソコデ政府ニ於テハ、唯金ヲ……貧乏シテ居ルカラ金ヲヤルト免ニ角彼等ガ難儀ヲシテ居ルト云フコトデアリマスルナラバ、出來得ル限り云フ譯ニハ參リマセヌ、ソレデ縣金庫ノ支拂金ガ無クテ、縣ノ支拂ガ出來ヌデ困ツテ居ルト云フヤウナ狀態ニ對シテハ、前議會ニ於テ議會ノ協賛ヲ受ケテ、沖繩縣ニ金ノ貸付ヲシテ、ソレデ支拂ノ出來ルヤウニシテヤリマシタコトハ、御承知ノ通リデアリマス、其外沖繩縣ニ向ツテハ、各府縣ニ低利資金ヲ、融通シマス、其低利資金ヲ沖繩縣ニ對シテハ割合ニ多ク配當スル、配分スルト云フヤウニシテ、是デ幾分ナリトモ經濟界ノ恢復ヲ圖ラシメルヤウニナツテアルノデアリマス、又唯今御話ニナリマシタ二十万圓ノ補助ト云フノモ、實ハ段々減ゼラレテ十六万餘リニナツテ居ツタノデアリマス、ソレモ今回ハ二十万圓ニ又元ヘ戻シテ、矢張リ國庫トシテハ以前ニ補助シテ居ツタ金額ニ戻スト云フコトニ致シテアリマス、ソレカラ又此產業ノ獎勵ノ爲ニ五十万圓餘リ出シテ居ル、是モ外ノ縣ニハ無イコトデアリマスケレドモ、沖繩縣ガ困ツテ居ル者ヲ救濟スルニハ、唯金ヲ給與スルヨリモ、事業ヲ起スコトガ出來ルヤウニシテ、サウシテ事業ヲ起シテ自ラ經濟界ヲ好況ニ至ラシメルヤウニサスル方ガ宜シイ、ソレニハ幾ラカノ事業獎勵費ヲ支出シタナラバ、沖繩縣ニ於テモ、モウ少シ經濟界ノ恢復狀態ニ至ラシムルコトガ出來ルデアラウト云フノデ、此獎勵費ノヤウナモノヲ今回豫算ニ計上シタ次第デアリマス、尙ホ其外那霸港ノ修築ト云フモノハ、先年豫算ノ協贊ヲ受ケテ實行イタシマシタ、其豫算ハ皆使ツテシマツタノデアリマス、使ツテシマヒマシタガ、港ノ中ニ岩ガアツテ、其岩ヲ取リマセヌト、中デ汽船ヲ廻轉スルコトガ出來ヌ、本當ハ豫算デソレ等モ皆取ツテシマフ筈ノモノガ、豫算ヲ使ツテシマツテ、ソレガ殘ツテ居ルト云フコトハ、是ハ大藏省ナドデハ甚ダ不都合ナルコトダト云フコトニ見ラレル事柄デアリマスケレドモ、是モ現實左様ニナツテ居リマスノデ、今回ハ那霸ノ修築ニ若干又臨時ヲ出スコトニ致シマシタ、是ハ港ガ良クナルコトデモアリマスガ、同時ニ港ヲ良クスルヤウナ資金ヲ出シテヤッタナラバ、ソレデ彼地ニ仕事ガ出來ルカ

人が經濟上ニ非常ニ難儀シテ居ルト云フコトハ、高橋君ト同ジク私ハ之ヲ左様ニ考ヘテ居ルノデアリマス、其難儀スルニ至ツタ原因ハ、私ノ觀ル所ニ依レバ唯今マデ申上ゲタヤウナコト、其他ニモアリマセウケレドモ、唯今申上げタヤウナコトガ主ナルコトデアラウト思ヒマス、何レカラ難儀ガ來テ居ツテモ免ニ角彼等ガ難儀ヲシテ居ルト云フコトデアリマスルナラバ、出來得ル限り彼等ヲシテ難儀ノ狀態カラシテ離脱セシメルコトノ出來ルヤウニ圖ラヌケレバナリマセヌ、ソコデ政府ニ於テハ、唯金ヲ……貧乏シテ居ルカラ金ヲヤルト云フ譯ニハ參リマセヌ、ソレデ縣金庫ノ支拂金ガ無クテ、縣ノ支拂ガ出來ヌデ困ツテ居ルト云フヤウナ狀態ニ對シテハ、前議會ニ於テ議會ノ協賛ヲ受ケテ、沖繩縣ニ金ノ貸付ヲシテ、ソレデ支拂ノ出來ルヤウニシテヤリマシタコトハ、御承知ノ通リデアリマス、其外沖繩縣ニ向ツテハ、各府縣ニ低利資金ヲ、融通シマス、其低利資金ヲ沖繩縣ニ對シテハ割合ニ多ク配當スル、配分スルト云フヤウニシテ、是デ幾分ナリトモ經濟界ノ恢復ヲ圖ラシメルヤウニナツテアルノデアリマス、又唯今御詰ニナリマシタニ二十万圓ノ補助ト云フノモ、實ハ段々減ゼラレテ十六万餘リニナツテ居ツタノデアリマス、ソレモ今回ハ二千万圓ニ又元ヘ戻シテ、矢張リ國庫トシテハ以前ニ補助シテ居ツタ金額ニ戻スト云フコトニ致シテアリマス、ソレカラ又此產業ノ獎勵ノ爲ニ五十万圓餘リ出シテ居ル、是モ外ノ縣ニハ無イコトデアリマスケレドモ、沖繩縣ガ困ツテ居ル者ヲ救濟スルニハ、唯金ヲ給與スルヨリモ、事業ヲ起スコトガ出來ルヤウニシテ、サウ

ラ、矢張リ勞働者ナリ其他ノ者ガ、之ニ依ツテ幾分此生計費ヲ得ルコトガ出來ルヤウニナルカラト思ツテ、是モ出シタ次第アリマス、又是マデハ鹿兒島ト沖繩ノ間ノ航路ノ補助ヲシテ居ツタノヲ、今回ハ沖繩ト大阪ノ航路ノ補助ヲスルト云フコトニシテ、是亦幾分ナリトモ沖繩ノ爲ニナルヤウニシテ、是ノミニ悉ク沖繩ノ救濟ハ出來マセヌ、併ナガラ今日ノ財政ノ中デ、此困窮シテ居ル狀態ニ向ツテハ、成ルベク同情シテ、何トカ出來ルコトナラバ沖繩ノ爲ニ支出シヤウト考ヘマシタノガ、今回豫算ニ計上シテアル所デアルノデアリマス、此金額ハ一年限リデナク、イツマデモ出スカト云フ御尋デアリマス、二十万圓ノ補助ハ一年限リデナク、繼續シテ出ス考デアリマス、航路ノ補助ノ如キハ年限ガアリマス、年限ガ盡キタラ其時ニ考慮スルト云フコトニナリマス、勸業ノ獎勵ノ費用ハ、是ハ臨時費デアリマス、免ニ角形式ハ一年限リノモノニナツテ居ルノデアリマス、併シ一年ノ獎勵デ、是デ目的ガ達シマスルカ、一年ダケノ獎勵デハ目的ヲ達シマセヌカ、ソレハ又大正十六年度ノ豫算ヲ編成スル時ニ於テ考慮スベキ問題デアラウト思ヒマス、斯様ニシテ固ヨリ十分デハアリマスマイ、十分デアリマスマイガ、政府ニ於テモ、沖繩ノ窮狀ニ對シテハ深イ同情ヲ以テ、出來得ル限り沖繩縣民ノ難境ヲ救ヒタイト云フ考デ、總テ此狀態ヲ觀察シテ居ル次第アリマス、是ダケヲ御答へ致シマス

○副議長(侯爵蜂須賀正韶君) 休憩ヲ致シマス、午後ハ一時半ヨリ開會イタ

シマス

午後零時十八分休憩

午後一時四十三分開議
○議長(公爵徳川家達君)是ヨリ報告ヲ致サセマ
〔成瀬書記官朗讀〕

ノ如シ

委員長 公爵 一條 實孝君

議院法中改正法律案

本日議院法中改正法律案特別委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

○議長(公爵徳川家達君) 是ヨリ午後ノ會議ヲ開キマス
ヲ望ミマス 石川三郎君ノ登壇

○石川三郎君　私ハ時間切迫ノ折柄デアリマスガ故ニ、直チニ質問ノ箇條ヲ

簡單ニ御尋不致スノデアリマス、此度現内閣ハ一大決心ト英断ヲ以チマシテ、郡役所廢止ノ提案ヲ致シタノデアリマス、即チ多年相當ニ貢獻ヲ爲シツツアルダケ、ソレダケ之ニ伴フ利害關係モ亦頗ル重大ト思フノデアリマス、今順序ト致シマシテ其主モナル利害ヲ申上ゲマスルト、廢止ノ爲ニ受ケル利益ハ、町村自治ノ堅實ナル發達、事務ノ敏活、行政監督系統ノ整理ヲ爲スコト、是ハ確ニ利益デアラウト思フノデアリマス、之ニ反シマシテ受ケル所ノ害ハ、市町村事務ヲ繁多ニ爲シテ、又縣廳ノ事務モ繁多ニ爲シテ、兩方ノ責任ヲ重機關デアル郡役所ヲ突然廢止スルト云フコトハ、地方民ノ自治ノ精神ヲ確ニ毀損スルモノト申サナクテハナラヌノデアリマス、其次ハ、郡役所ヲ廢スル爲ニ地方自治ハ忽チ黨弊ノ禍中ニ投ズルト云フコトヲ覺悟イタサナケレバナラヌ、郡長ハ超然タル位置ニ居リマシテ、能ク村政ヲ指揮監督シ緩和イタシテ、黨弊カラ逃ルルヤウニ努メテ居ツタノデアル、又郡ノ政治……行政ニ付キマシテハ、郡選出ノ各派ノ縣會議員ニ渡リヲ付ケマシテ、黨弊カラ脱スルヤウニ始終努メテ居ル、今郡役所ヲ廢スルト致シマスルト、是等ノ勞ヲ執ル者ハ忽チ無クナツテシマフノデアリマスルカラ、從テ自治ガ黨弊ニ陥ルト云フ覺悟ヲシテハ、郡選出ノ各派ノ縣會議員ニ渡リヲ付ケマシテ、黨弊カラ脱スルヤウニ行權ヲ持ツテ居ル、府縣制制定當時ニ於キマシテハ、或ハ是ガ必要デアッカモ知レヌ、即チ府縣會ガ殊更ニ府縣知事ニ、即チ官吏ニ反抗スルト云フ精神ヲ以テ、無謀ナル決議ヲスルヤウナコトモ有ツタノデアリマセウケレドモ、今日ニ於テ斯カル心理狀態ヲ以テ、公益ニ害アル決議、縣ノ收支ニ不適當ナル決議ヲスルヤウナ縣會ハ無イノデアリマス、故ニ斯カル原案執行權ヲ今日府縣知事ニ持タシテ置クト云フノハ、時代錯誤デアル、其利ハ害ヲ償フニ足ラスト思フノデアリマス、即チ此箇條ガアリマスルガ故ニ、政府與黨ノ人ハ知事ニ強望シテ、内閣ニ泣キ絶ツテ縣會ヲ攪亂シテ居ルコトハ、理論デナクシテ、事實ノ上ニ、歷代ノ内閣ニ於テ勃發イタシテ居ルノデアリマス、又縣參事會ハ、縣參事會ノ中ニハ官吏カラ三名出テ居ル、而モ三名ノ中一名ハ知事デアッテ、若シ補足改正ヲスル場合ニ於テ、政府ガ躊躇逡巡ヲ致シマシタナラバ、必ズヤ此郡役所廢止ハ先年ノ裁判所出張所ノ廢止ノ轍ヲ履ミハシナイカト、私ハ思フノデアル、又郡役所ヲ廢シマシタルガ故ニ、地方自治ハ府縣ト市町村ノ二ツニナツテシマフノデアル、全ク此二自治機關ニ依ツテ行ハルルヤウニナルノデアリマスルガ故ニ、此二ツノ自治機關ヲ擴張シ、其基礎ヲ鞏固ニスルト云フ點ニ付テハ、内閣ハ異存ノアラウ筈ハナイト思フノデアリマス、以上ノ觀念ヲ基礎ト致シマシテ、今度提出ニナリマシタル府縣制並ニ市町村制ノ改正法律案ヲ研究イタシマスルト、如何ニモ物足リス感ジガ致スノデアリマス、

即チソレ等ノコトヲ基礎トシテ考ヘマスルト、ドウシマシテモ自治機關ノ組織モ改正セナケレバナラヌ、自治機關……自治ヲ施行シテ行ク長官、即チ府縣知事、市町村長、是等ノ人ノ選定任免ニ付テモ、相當ノ改正ガナクテハナルダケ、ソレダケ之ニ伴フ利害關係モ亦頗ル重大ト思フノデアリマス、今順序ト致シマシテ其主モナル利害ヲ申上ゲマスルト、廢止ノ爲ニ受ケル利益ハ、町村自治ノ堅實ナル發達、事務ノ敏活、行政監督系統ノ整理ヲ爲スコト、是ハ確ニ利益デアラウト思フノデアリマス、之ニ反シマシテ受ケル所ノ害ハ、市町村事務ヲ繁多ニ爲シテ、又縣廳ノ事務モ繁多ニ爲シテ、兩方ノ責任ヲ重機關デアル郡役所ヲ突然廢止スルト云フコトハ、地方民ノ自治ノ精神ヲ確ニ毀損スルモノト申サナクテハナラヌノデアリマス、然ルニ此大キナル古キト云フノガ自治ノ精神ノ胚胎ト思フノデアリマス、然ルニ此大キナル古キト云フノガ自治ノ精神ト申シマスルト、古キ習慣ヲ能ク守機關デアル郡役所ヲ突然廢止スルト云フコトハ、地方民ノ自治ノ精神ヲ確ニ毀損スルモノト申サナクテハナラヌノデアリマス、其次ハ、郡役所ヲ廢スル爲ニ、郡長ハ超然タル位置ニ居リマシテ、能ク村政ヲ指揮監督シ緩和イタシテ、黨弊カラ逃ルルヤウニ努メテ居ツタノデアル、又郡ノ政治……行政ニ付キマシテハ、郡選出ノ各派ノ縣會議員ニ渡リヲ付ケマシテ、黨弊カラ脱スルヤウニ始終努メテ居ル、今郡役所ヲ廢スルト致シマスルト、是等ノ勞ヲ執ル者ハ忽チ無クナツテシマフノデアリマスルカラ、從テ自治ガ黨弊ニ陥ルト云フ精神ヲ以テ、無謀ナル決議ヲスルヤウナコトモ有ツタノデアリマセウケレドモ、今日ニ行權ヲ持ツテ居ル、府縣制制定當時ニ於キマシテハ、或ハ是ガ必要デアッカモ知レヌ、即チ府縣會ガ殊更ニ府縣知事ニ、即チ官吏ニ反抗スルト云フ精神ヲ以テ、無謀ナル決議ヲスルヤウナコトモ有ツタノデアリマセウケレドモ、今日ニ於テ斯カル心理狀態ヲ以テ、公益ニ害アル決議、縣ノ收支ニ不適當ナル決議ヲスルヤウナ縣會ハ無イノデアリマス、故ニ斯カル原案執行權ヲ今日府縣知事ニ持タシテ置クト云フノハ、時代錯誤デアル、其利ハ害ヲ償フニ足ラスト思フノデアリマス、即チ此箇條ガアリマスルガ故ニ、政府與黨ノ人ハ知事ニ強望シテ、内閣ニ泣キ絶ツテ縣會ヲ攪亂シテ居ルコトハ、理論デナクシテ、事實ノ上ニ、歷代ノ内閣ニ於テ勃發イタシテ居ルノデアリマス、又縣參事會ハ、縣參事會ノ中ニハ官吏カラ三名出テ居ル、而モ三名ノ中一名ハ知事デアッテ、其議長ヲ兼ネテ居ル、府縣會ノ代表機關タル參事會ニ官吏ガ這入ツテ決議ヲスルト云フノハ、是レ亦自治ノ精神ニ反シハシナイカ、殊ニ官吏ハ議案作成者デアリ、提出者デアリ、説明者デアル、其人ガ自分モソレニカタツテ而シテ決議ヲスルト云フノハ、私ハ意味ヲ爲サヌコトト思フ、ソコデ是モ廢止スルノガ至當デハナイカ、併シ萬々廢止スルコトガ出來ナイト云フコトニナリマスレバ、此官吏ノ參事會員ニ對シマシテハ、第六十八條ノ第六號ノ訴訟云々……アレダケニ參與セシメルダケデ澤山デアラウ、斯ウ思フノデアリマス、其次ハ市町村會デアリマスルガ、此市町村會ニ對スル市町村長ノ持ツテ居ル

原案執行權ニ付キマシテハ、府縣會ト同様ノ意見デアリマス、同様ノ疑ガ起キテ居ルノデアリマス、尙又此町村長ハ、今度ノ改正案ニ依リマシテモ尙ホ知事ノ認可ヲ受ケネバナラヌヤウニナツテ居ルノデアリマスガ、自治權ノ擴張ニ依ツテ出來タル所ノ町村長ガ、尙ホ知事ノ認可ヲ得ナケレバナラヌト云フコトハ、是亦不思議ノ至リデアル、デ、是モ此箇條ガアリマスル爲ニ利害モアリマセウガ、利ハ害ヲ償ツテ居ラヌノデアリマス、實例ヲ申シマスルト、政府與黨ノ人ガ知事ニ泣キ絶ツテ、反對黨カラドンナ優良ナ村長ガ出テモ到頭ソレヲ許サナイデ、最後ニハ自分ノ派カラ出タ町村長ヲ許シタト云フ例ハ、私ハ佐賀縣デアリマスガ、一二ニシテ止マラヌ、澤山其例ガアル、非常ニ迷惑ヲシテ居ル、是等ノ點モ此際篤ト御考ヘニナツテ然ルベキデハナイカト、斯ウ云フ考ヲ持ツノデアリマス、マダ大體ニ付テ質問モアリマスルケレドモ、時間切迫ノ折デアリマスカラ、單刀直入的ニ其箇條ダケヲ質問イタスノデアリマス

〔國務大臣若槻禮次郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣（若槻禮次郎君） 郡役所廢止ニ伴ヒマスル利弊ニ付テノ御意見ハ、必シモ私ハ同意見デナイノデアリマス、併シ是ハ御質問以外デアリマスカラ、之ニ付テ唯今申述ベルコトハ致シマセヌ、唯御質問ハ、第一ハ府縣制、市町村制等ヲ改正スルナラバ、今日ノ府縣制ノ中ノ府縣會ノ權限ノ規定ヲ改メテ、市制若クハ町村制ト同様ニ何故セナカツタノデアルカト云フ御質問ガ第一點デアリマス、如何様市制及町村制ニ於テハ概括ノ規定デアリマシテ、市又ハ町村ニ關スル事務ヲヤルト云フヤウニ書イテアル、之ニ反シテ府縣制ノデアリマス、其點ハ異ナツテ居リマスガ、其列記シテアル箇條ハ、殆ド縣ノ自治ニ關スルコトノ、大體ハ全部ニ亘ツテ居ルノデアリマス、細密ノ所ヲ申上ゲタナラバ、概括ノ規定ト列舉ノ規定デアリマスカラ、若干ノ相違ハアルカモ知レマセヌガ、重要ノ事柄ニ付テハ、大體ハ府縣會モ亦、府縣ノ自治ニ關シタル主モナルコトニ付テハ、皆議決權ヲ有ツヤウニナツテ居ルノデアリマス、ソレ故ニ今回ノ改正ニ於テハ、別段之ニマデ手ヲ著ケヌデモ宜シイ、斯ウ云フ考ヲ持ツテ居リマス、第二ノ御質問ハ、府縣會ノ議決ニ對スル原案執行ト云フ規定ハ甚シイ弊害ガアル、何故之ヲ廢スナカツタカト云フコトデアリマス、府縣會ガアリマス以上、其議決ヲ尊重シナケレバナラヌト云フコトハ申上グルマデモアリマセヌガ、原案執行ハ容易ニ爲スベキモノデナイト云フコ

トモ亦論ヲ俟タナイコトデアリマス、併ナガラ場合ニ依ルト云フト、縣會ノ決議ガ極メテ公正ヲ失スルト云フヤウナ場合ガアルノデアリマス、此場合ニ縣ノ自治行政ヲシテ適正ヲ得シムルノハ、原案執行ニ依ルノ外ナインデアリマシテ、此規定ハ濫用スレバ固ヨリ不可デアリマスケレドモ、此規定ニ依テ、極ク弊ノアル場合ニ於テ之ヲ矯正スルト云フ利益モアルノデアリマスカラ、ソレ故ニ全然之ヲ廢止スルト云フコトハ不可ナリト認メタノデアリマス、殊ニ石川君ガ自治行政ノ上ニ於テ、黨派的不公平ノ行ハレルコトヲ甚シク御憂慮ニナリマシタ、此黨派的不公平ヲ矯正シ得ル手段ハ、原案執行デアルト思フノデアリマス、ソレ故ニ之ヲ濫用スルコトハ、固ヨリ戒メナケレバナリマセヌガ、法律ノ中ニ此規定ヲ存スルト云フ事柄ハ、是ハ已ムヲ得ナイト思フノデアリマス、第三ノ御質問ハ、府縣參事會員中ニ官吏ガアル、是ハ府縣參事會ガ府縣會ニ代ル機關デアル以上ハ、官吏ト云フ分子ハ除ク方ガ相當デハナイカ、斯ウ云フ御質問デアリマス、政府ノ原案ニ於テハ、此點ニ付テハ改正ヲ加ヘヌデ居リマシタ、然ルニ衆議院ニ於キマシテハ、石川君ノ御考ト略、同様ナ考ニ依ツテ、矢張リ府縣參事會ノ中カラ官吏ト云フ分子ヲ除イタ方ガ至當デアルトシテ、改正ガ加ヘテアルノデアリマス、今回政府ノ原案ニ依リマシテモ、參事會ハ議案ヲ審査スル、先以テ府縣會ニ提出スル議案ヲ審査スルト云フコトハ全然之ヲ廢メマシテ、參事會ハ昔アリマシタ常置委員ノ如ク、縣會ノナイ場合ニ縣會ニ代ツテ議決スルト云フ機關ニスルノデアリマスカラ、其意味カラ云ウテモ、此中カラ官吏ノ分子ヲ除クト云フノニ相當ノ道理ガアルト思フノデアリマス、ソレデアリマスカラ、衆議院ノ修正案ニ對シテハ、政府モ差支ナイモノデアルト云フコトヲ、先刻此コデ申上ゲタ次第デアリマス、又市長、町村長ノ市長、町村會ノ議決ニ對シ、原案執行ノコトニ付テモ、恰モ府縣會ノ議決ニ對シテノ原案執行ト同ジャウニ、之ヲ御非難ニナリマシタガ、是ハ前ニ申上グル通り必要ナル場合ガアツテ、而モ黨弊ヲ矯正スルガ爲ニハ最モ必要デアルト存ジマスノデ、唯今之ヲ改正シヤウト云フ念慮ハ持タナイ次第デアリマス、最後ノ御質問ノ、町村長ノ選舉ニ付テ縣知事ノ認可ヲ要スルコトニナツテ居ルノモ、亦自治權ヲ尊重スル上カラ見テ面白クナイヂヤナイカト云フ御質問、之ニ付テモ政府ノ原案ニハ、其點ニ手ヲ觸レスヤウニナツテ居リマシタ、併シ衆議院ノ修正ニ依ツテ、矢張リ縣知事ノ認可ヲ要セヌコトニ矢張リ修正セラレテ居リマス、私ハ自分ノ就任以後、黨派ガ違ツテ居ル

故ニ町村長ノ選舉ニ對シテ認可ヲ與ヘナイナドト云フコトアスル縣知事ガアリマスナラバ、ソレハ私ノ意思ニ反スルノデアツテ、私ノ聞キ及ンデ居ル所ニ

於テハ、現内閣成立以來左様ナコトハナイト思ウテ居ルノデアリマス、天下ノ廣キ、私ノ聞キ及バヌ所ニ於テ、或ハサウ云フコトガアルカ知レマセヌガ、

若シ有ツタナラバ全然私ノ意思ニ反スルノデアリマス、是アリシハ、既往ノ内閣ノ下ニ於テハ有ツテ、私モ此弊害ハ十分認メテ居ルノデアリマス、今回衆議院ニ於テ町村長ノ選舉ニ對シテ知事ノ認可ヲ要セヌト云フコトノ修正ニ對シテモ、先程私ハ此席ニ於テ大體是デ差支ナイ、斯ウ云フ意見ヲ述べテ居ルノデアリマスカラ、之ニ依ツテ御了承ヲ願ヒマス

○石川三郎君 簡單デアリマスカラ此席カラ發言ヲ御許シ下サイ

○議長(公爵徳川家達君) 宜シクゴザイマス

○石川三郎君 總理大臣ノ御説明ニハ、能ク了解イタシタ點ト了解セザル點トアルノデアリマス、了解セザル點ニ付キマシテ此上質問ヲ致シマスルト議論ニ涉リマスルガ故ニ、私ハ差控ヘルノデゴザイマス、唯此場合、一言此差

控ヘル譯ヲ申上ゲマスト、總理大臣ニ於キマシテハ、府縣知事、市町村長ハ何處マデモ政黨ニ超然ヲ致シタ立派ナモノト云フ見解ノ下ニ御話ニナッテ居

ルノデアリマス、私ハ今ヤマダ政黨ガ完全イタシテ居ラナイ過渡時代デアルガ爲ニ、府縣知事ヤ市町村長ガドウシテモ黨派ニ卷キ込マレルト云フノヲ基礎ニシテ質問ヲ致シテ居リマス故ニ、此上質問イタシマシテモ議論ニ涉リマスカラ私ハ是ハ打止メマス

○議長(公爵徳川家達君) 是ニテ通告者ハ終リマシタ、特別委員ノ氏名ヲ書記官ヲシテ朗讀ヲ致セマス

〔長書記官朗讀〕

府縣制中改正法律案外六件特別委員

伯爵二荒芳德君 子爵東園基光君

嘉納治五郎君

水野鍊太郎君 中村是公君 小野塙喜平次君

坂本鉄之助君 結原武太郎君

男爵藤村義朗君

○議長(公爵徳川家達君) 日程第十一、造幣局工場其ノ他改築費ニ關スル法律案、第十二、京都高等工藝學校移轉改築費ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、日程第十一第十二ハ、同一委員ニ付託セラレマシ

タカラ、一括シテ議題ト致シマス、二荒伯爵

造幣局工場其ノ他改築費ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十五年三月十五日

右特別委員長

伯爵二荒芳德

貴族院議長公爵徳川家達殿

京都高等工藝學校移轉改築費ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十五年三月十五日

右特別委員長

伯爵二荒芳德

貴族院議長公爵徳川家達殿

〔伯爵二荒芳德君演壇ニ登ル〕

○伯爵二荒芳德君 造幣局工場其ノ他改築費ニ關スル法律案外一件ノ特別委員會ノ報告ヲ申上ゲマス、第一ニ造幣局工場其ノ他改築費ニ關スル法律案ニ付キマシテ申上ゲマスト、此改築ノ經費ヲ充用イタシマス爲ニ、造幣局資金ノ中、百十二万三千八十八圓ヲ限リマシテ大正十五年度乃至十七年度ニ亘リマシテ、之ヲ一般會計ニ繰入レマス法律案デゴザイマス、造幣局ノ事業ヨリ生ジマスル歲入ハ、之ヲ造幣局特別會計法ニ依リマシテ、其資金ニ繰入レテ居ルノデアリマス、而シテ今回此工場其ノ他附屬ノ建物ヲ改築イタシマス爲ニ、先程申上ゲマシタ百十二万三千八十八圓ノ費用ヲ要シマスカラ、之ヲ一般會計ニ繰入レマスル必要ガアル爲ニ、即チ法律ヲ要スルノデアリマス、現

今ノ造幣局ノ工場其ノ他ノ附屬物ハ、明治初年ノ建築ニ係リマシテ、頗ル舊式ナル煉瓦造デアルサウデアリマス、ソコデ其改築ニ追ツテ居リマス爲ニ、今回之ヲ改築スル爲ニ、約一坪當リ三百八十圓ノ見當ヲ以チマシテ、千七百六十坪餘ノ改築ヲ致スノデゴザイマス、而シテ其費用ハ十五年度ニ於テ十七万

右特別委員長

伯爵 柳原義光

貴族院議長公爵德川家達殿

〔伯爵柳原義光君演壇ニ登ル〕

○伯爵柳原義光君 唯今議題ニ相成ツテ居リマスル、健康保険法中改正法律案及健康保険特別會計法案ノ委員會ノ經過並ニ結果ヲ、極メテ簡單ニ御報道申上ゲマス、兩案トモ三月五日ノ當議場ニ於テ委員付託ニ相成タノデゴザイマス、爾來委員會ヲ開キマスルコトハ四回デアッタノデアリマス、而シテ兩案トモ全會一致ヲ以テ可決イタシタノデアリマス、健康保険法中改正法律案ハ、既ニ大正十一年四月公布ノ健康保険法ノ附則ニ、本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムト云フ規定ガアルノデアリマス、其期日ヲ大正十五年七月一日及大正十六年一月一日ノ兩度ニ別チマシテ、施行スルコトヲ定メル法律案ナノデアリマス、而シテ大正十五年七月一日ヨリハ、主トシテ準備ノ行爲ヲ爲シ、又十六年一月一日ヨリハ、保険給付ヲ施行スル次第ナノデアリマス、又健康保險特別會計法案ハ、右ノ期日ニ健康保険法ヲ施行イタシマスルニ付キマシテ、其事業ノ性質上、政府ノ管掌イタシマスル保險ノ經濟ヲ特別會計ニ致スト云フノガ、此案ノ精神ナノデアリマス、何レモ適當ノ法律案ト認メマシテ、委員會ニ於キマシテハ、前申上ゲマシタ如ク、滿場一致ヲ以テ之ヲ可決シタノデアリマス、而シテ委員會ニ於キマシテハ、兩法案ニ付キマシテ慎重ナル審議ヲ遂ゲマシテ、政府委員ト委員トノ間ニ質問應答ヲ多々重ねタノデアリマス、唯今其質問應答ノ中デ、二三極メテ簡單ニ其御紹介ヲ申上ゲタイト考ヘマス、先づ第一ノ質問ハ、健康保険法ノ實施ニ伴ツテ、在來ノ此勤勞ノ美風ヲ破ツテ、虛偽ノ疾病或ハ負傷等ヲ生ズルノ憂ガアリハセヌカト云フ質問ガアッタノデアリマス、之ニ對シテ政府委員ハ、此點ニ付テハ極メテ監督ヲ嚴重ニシテ、十分之ヲ取締ル、斯ウ云フ答辯ガアッタノデアリマス、又第一ニハ、健康保険法ノ施行ニ伴ツテ、工場法ノ施行ヲ嚴重ニ監督シテ、衛生設備ノ改善ヲ爲ス必要ガアリハセヌカ、斯ウ云フ質問ガアッタノデアリマス、之ニ對シテハ將來同法ノ施行ヲ嚴重ニ監督イタス、斯ウ云フ返答ガアッタノデアリマス、又健康保険法ノ範圍ヲ擴張シテ、船員保險及ビ其他ノ社會保險ヲ創設スルノ必要ガアリハセヌカ、斯ウ云フ質問ガアッタノデアリマスガ、ソレニ對シテハ事業主ノ負擔能力及政府ノ財政ノ狀態ヲ能ク考慮スル必要ガアルカラ、是等

ノ點ヲ能ク考慮シタ上デナケレバ、速カニ之ヲ行フコトハ出來ナイガ、目下政府ニ於テハ之ニ付テハ調査中デアル、斯ウ云フ答辯ヲ得タノデアリマス、尙ホ華盛頓條約ニ對スル政府ノ措置、本法律案ト勞働保險調查會トノ關係、ソレカラ健康保険法實施ニ伴フ共濟組合ノ措置、本邦及外國ニ於ケル勞働者ニ關スル外國ノ事例ニ付テ、質問モアッタノデアリマス、其他又醫療給付ノ場合ニ付テモ質問ガアリマシテ、一々之ニ對シテ答辯ヲ致サレタノデアリマス、詳シイコトハ速記錄ニ依ツテ御覽ヲ願ヒタイト考ヘマス、而シテ將ニ採決ニ入ラムトスル際ニ當リマシテ、一委員ヨリ希望が出タノデアリマス、ソレハ此健康保険ノ如キモノハ、我ガ國ノ社會保險ノ最初ノ試ミデアルカラシテ、ドウゾ十分ナル注意ト慎重ナル考慮ヲ以テ之ヲ取扱フコトヲ望ムト云フ希望ガ出タノデアリマス、政府ハ之ヲ能ク了承シテ、努メテ其趣旨ニ添フヤウニ致スト云フ、斯ウ云フ答辯ヲ得タノデアリマス、大體之ヲ以テ御報告ヲ終リマス、前申上ゲマシタル如ク、兩法案トモ極メテ適當ナル法律案ト考ヘマシテ、委員會ニ於テハ可決ヲ致シタノデアリマス、ドウゾ諸君モ御贊成ヲ願ヒタイト考ヘマス

○議長(公爵德川家達君) 此兩案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○子爵柳原義光君 賛成

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ兩案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

ス

○子爵柳筍隆督君 贊成

○議長(公爵徳川家達君) 西大路子爵ノ動議ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 西大路子爵ノ動議ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 第二讀會ノ決議通リテ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 西大路子爵ノ動議ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 日程第十五、王公族ノ權義ニ關スル法律案、政府

提出、第一讀會ノ續、委員長報告、特別委員長近衛公爵

王公族ノ權義ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十五年三月十七日

右特別委員長

公爵近衛文麿

貴族院議長公爵徳川家達殿

〔公爵近衛文麿君演壇ニ登ル〕

○子爵柳筍隆督君 贊成

○公爵近衛文麿君 本案ノ委員會ハ一昨日第一回ヲ開キマシテ、政府ト質問

應答ヲ重ねタノデアリマスガ、其內容ニ付キマシテハ、政府ヨリ祕密會ノ要

求ガアリマシタノデ、祕密會デアリマスルカラ、茲ニ御報告ヲ申上ゲルコト

ハ差控ヘタイト考ヘマス、而シテ第二回ハ昨日開キマシタ、直チニ討論ニ入

リマシタ、然ルニ一委員ヨリ、舊韓國ノ皇室ニ對シテハ、日韓併合ノ當時ニ

煥發セラレマシタ詔書ニ於キマシテ、待ツニ皇族ノ禮ヲ以テシ、世家率循ノ

道ニ付テハ別ニ軌儀ヲ定ムル、ト云フ仰セガ載ツテ居ルノデアリマス、然ルニ

モ拘ラズ今日マデ其法規ノ備ハラナカッタコトハ頗ル遺憾デアッタガ、今回此

法案ニ依ツテ王公家ノ權利義務ニ關シテハ法律ニ除外例ヲ認メテ、皇室令ヲ以テ之カ規定ヲ開クト云フ途ヲ開カレタコトハ、實ニ先帝ノ御趣意ニ副ヒ、適

宜ノ措置デアルト認ムルト云フ意味ノ意見ノ陳述ガアリマシタ、各人皆異議ナク、全會一致ヲ以テ可決イタシタノデアリマス、此段御報告ヲ致シマス

○議長(公爵徳川家達君) 本案ノ第二讀會ヲ開クベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

總員 起立

○議長(公爵徳川家達君) 全會一致ト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○子爵柳筍隆督君 贊成

○議長(公爵徳川家達君) 西大路子爵ノ動議ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 本案全部ヲ問題ニ供シマス、全部原案ニ御異存ゴ

ザイマセヌカ

○議長(公爵徳川家達君) 本案全部ヲ問題ニ供シマス、全部原案ニ御異存ゴ

ザイマセヌカ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナシト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○子爵柳筍隆督君 贊成

○議長(公爵徳川家達君) 西大路子爵ノ動議ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナシト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナシト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 第二讀會ノ決議通リテ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナシト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナシト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 八條子爵ヨリ柳原伯爵外六名ノ賛成ヲ以テ、國有財產報告書審査ニ關スル動議ヲ提出セラレマシタ、諸君ニ於テ御異議ガナケ

レバ、議事日程ヲ追加シタイト考ヘマス

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 議案ヲ朗讀イタサセマセウカ、諸君ニ於テ御異議ガナケレバ、朗讀モ省略シタイト考ヘマス

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

國有財產報告書審査ニ關スル動議

右提出候也

大正十五年三月十八日

發議者

子爵八條隆正

贊成者

伯爵柳原義光

子爵青木信光

淺田徳則

男爵阪谷芳郎

鎌田榮吉

阪本鉄之助

西久保弘道

午後二時三十四分散會

ス、國有財產法第二十六條ノ規定ニ依リマスルト、政府ハ毎會計年度間ニ於ケル國有財產増減總計算書及毎五年三月三十一日現在ノ國有財產現在額總計算書、之ヲ帝國議會ニ提出スルコトニナシテ居ルノデアリマス、是等ノ國有財產ニ關シマスル報告書ハ議會ニ提出サレマシテ、議院ニ於テ受領イタシマシタル時ニハ、之ヲ決算委員ニ付託イタシマシテ、審査ヲナサシメルト云フコトハ、曩ニ第五十回議會ニ於キマシテ、本院ノ決議セラレタ所デアルノデアリマス、然ルニ同議會ニ於キマシテハ、政府ヨリ受領イタシマシタル大正十一年度ノ國有財產報告書ノ審査中ニ、議會ガ閉會ニナリマシタノデアリマス、依テ本期議會ニ於キマシテ、引續イテ之ガ審査ヲ爲シ得ベキヤ否ヤト云フコトハ疑義ガ存スルノデアリマス、ノミナラズ將來ニ於キマシテモ亦同様ノ場合ヲ生ズルコトガアルベシト思ハレルノデアリマス、依テ此際右ノ場合ニ關スル取扱方ヲ議院ニ於テ決定ヲ致シテ置ク必要ガアラウト存ジマスノデアリマス、即チ決算審査ニ關シマスル所ノ例ニ依リマシテ、議院ニ於テ議定ニ至ラザリシ國有財產報告書ニ付キマシテハ、後ノ議會ニ於テモ其審査ヲ爲シ得ルコトニ致シタイト存ズルノゴザイマス、是ガ本動議ヲ提出イタシマシタ趣意ゴザイマス、ドウカ御賛成ヲ願ヒマス

○子爵西大路吉光君 動議ニ賛成ヲ致シマス

○議長(公爵徳川家達君) 八條子爵ノ動議ニ御異存ゴザイマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス、次ノ議事日程ハ決定次第本院彙報ヲ以テ御通知ニ及ビマス、本日ハ是ニテ散會イタシマス

貴族院議長公爵徳川家達殿

議院ニ於テ議定ニ至ラザリシ國有財產報告書ハ後會ニ於テ之ヲ審査スヘシ

○議長(公爵徳川家達君) 八條子爵ノ登壇ヲ望ミマス

〔子爵八條隆正君演壇ニ登ル〕

○子爵八條隆正君 唯今議題ニ上リマシタル、私ヨリ發議イタシマシタル國有財產報告書審査ニ關スル動議ノ趣意ヲ御説明申上ゲマス、茲ニ先以テ動議ヲ朗讀イタシマス、「國有財產報告書審査ニ關スル動議、議院ニ於テ議定ニ至ラザリシ國有財產報告書ハ後會ニ於テ之ヲ審査スヘシ」斯様ナ動議デアリマ

